

## 太宰府市文化遺産情報 2

— 文化遺産からはじまるまちづくり —

平成25年  
(2013)

太宰府市教育委員会

## 太宰府市文化遺産情報 2

— 文化遺産からはじまるまちづくり —

平成25年  
(2013)

太宰府市教育委員会

## 序

平成 16 年度に策定しました『太宰府市文化財保存活用計画』にて、本市のまちづくりの方針として「文化遺産からはじまるまちづくり」を表明し、その後実務計画として策定した『太宰府市民遺産活用推進計画』と併せて、『太宰府市歴史文化基本構想』を立ち上げ、平成 22 年度から実践へと移してきました。これら全ての計画の基本には、太宰府市民が未来の市民に伝えていきたいと思う「文化遺産」が基礎にあり、市民の皆さんが自らの力で集めてきた情報が、全ての出発点であると考えています。

本書に収録された文化遺産に関する情報は、太宰府市民遺産を構成する上で、最も基礎的な情報で、なによりも平成 20 年度より文化遺産調査ボランティアとして参加された市民の力で収集されたものです。併せて、現在の「太宰府」を語る上で、多様で貴重な情報であるということが誇れる成果と言えます。

「文化遺産からはじまるまちづくり」を進める上のキーワードとして、太宰府市民遺産の取り組みを促進するために、本書が基礎的な情報となり、多くの方々に活用していただけることを願います。

結びに、本書を作成するにあたり、太宰府に関わる多様な文化遺産を収集していただいた文化遺産調査ボランティアの皆さん、そして情報を提供いただいた市民の皆さまに心より感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

太宰府市教育委員会

教育長 木村 甚治

## 目次

1. 本書の説明	1
a. 目的	1
b. 文化遺産情報の見方	1
2. 文化遺産情報	3
3. 文化遺産調査	4
a. 文化遺産調査	5
4. 文化遺産情報	6
A 地区（北谷・内山・御笠）	9
B 地区（太宰府・三条・宰府・連歌屋）	15
C 地区（白川・五条・石坂）	19
D 地区（石穴・青山・梅香苑）	23
E 地区（国分・水城）	27
F 地区（観世音寺・坂本）	35
G 地区（朱雀・通古賀・都府楼南・宰都）	69
H 地区（吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野）	85
I 地区（四王寺山）	93
附編	103
1. 文化遺産調査ボランティアの活動	103
2. 基本文献一覧	105
索引	109

## 1. 本書の説明

### a. 目的

本書は、平成20年度より開始し、平成24年12月までに収集できた太宰府市の文化遺産に関する調査報告です。ここに収録した文化遺産に関する情報は、市民有志による文化遺産調査ボランティアを結成し、多様な感性で、未来の市民に伝えたいモノを収集していただきました。そこには、市役所が主動しつくり出した偏った見方から抽出されたものではなく、参画された市民の方々の様々な思い、未来の市民に伝えたい「今」を表現した多彩な文化遺産の情報です。

本書に収めた内容は、市域を8つの地域に分け、各々に所在する文化遺産に関する説明を記しています。8つに分けた方法は、7つの小学校区を基本としつつも小学校区の範囲、町名、大字界など様々な要素を考慮した上で分けています。それぞれの範囲は、図2に明示していますので、そちらをご参照ください。

### b. 文化遺産情報の見方

#### ●地図表記

**地区割線**：地図内の青色線は、8つの地区割りを表現した線です。

**町名線**：地図内の赤色の線は、町名ならびに丁目境界を表現した線です。

**寺社表記線**：地図内のオレンジ色の線は、寺社の境内を表現した線です。

**文化遺産**：『文化遺産情報1』に掲載されたものは黒色で、本書に新たに掲載されているものは緑色の点で表現されています。

**文化遺産番号**：以下の要領で表現しています。



図1. 文化遺産地図の見方

**文化遺産解説**：文化遺産調査で収集されたものの内、個人所有など公開できないものを除いた情報を掲載しています。また、解説内容は、可能なかぎり多くの文化遺産を掲載したいため、概略の説明に留めています。更に詳細な情報をお知りになりたい場合は、太宰府市文化財課にお尋ねください。

問い合わせ先

太宰府市教育委員会 文化財課

電話：092 - 921 - 2121 (内線 470)

#### ●記載事項

文化遺産調査で収集された情報には、物件名称、所在地、由来・経緯、概要・特色・現状、関連文献など5項目にわたります。その中から、名称(文化遺産名称)、登録番号(地図番号と一致)、時代区分、所在場所、文化遺産写真、文化遺産情報を掲載しています。文化遺産情報の解説文章は、収集された5項目の情報を集約し、物件を表現していると判断される内容で表記しています。

各情報の見方については、以下の要領をご参照ください。

**時代区分**：物件を表現するに相応しいと判断される時代を表記しています。文化遺産個々によって代表する年代に、築造年、使用年、廃絶年、継承年など様々な捉え方があるため、そのものの時代性を最も表現していると判断される時代で表記しています。

概ね、時代区分は、以下のように捉えて表記しています。

**原始**（人の出現から飛鳥時代まで）、**古代**（奈良時代から平安時代中期まで）、**中世**（平安時代後期から戦国時代まで）、**近世**（織豊時代から江戸時代）、**近代**（明治時代から昭和時代前期【第2次世界大戦まで】）、**現代**（昭和時代後期以降）。自然物については、植樹時期などが明らかな場合を除き、特記していません。なお、現代に造作された溝でも、施工時期が遡る可能性があるものは、明らかになった施工時期を記していますが、由来不詳などのため明らかにできないものは「-」表記をしています。

**所在場所**：自然物で、場所特定を避けた萌芽望ましいと判断されるものもあるため、丁名表記で留めています。

### ●収集された情報

**写真情報**：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された写真は、太宰府市教育委員会文化財課ならびに（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。また太宰府市史資料室ならびに太宰府市文化ふれあい館が収集したものは、両機関にて保管しています。なお収集された写真情報の貸出は、文化遺産によって異なりますので、上記機関までお尋ねください。

**文化遺産情報原本**：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された調査に関する情報は、全て文化遺産カードとして記載され、その原本は（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。なお記載された諸情報は、可能な限り文化遺産情報としてデータ化され検索することができるように情報処理されています。また太宰府市教委文化財課、市史資料室、文化ふれあい館が収集した諸情報については、個々の機関にて管理保管されていますが、全ての情報は、先述した文化遺産情報として統合され、閲覧することができます。その際には、下記手続きが別途必要となりますので、あらかじめご了承ください。

### ■閲覧手続き

文化遺産情報には、個人に関する情報が記載されているため、文化遺産によっては全ての情報を開示できない場合があります。また開示できるものについても、閲覧者の氏名、住所、連絡先、使用目的などをお尋ねした上でご覧いただきます。

### ■本書の制作

本書は、文化遺産調査ボランティア活動の事務局である（財）古都大宰府保存協会と、文化庁の受託事業として実施した文化財総合的把握モデル事業の受託団体であった太宰府市教育委員会文化財課ならびに、関係課として太宰府市都市整備課の三者で作成しました。制作にあたった各団体の組織は、以下のとおりです。

#### 【太宰府市教育委員会】

総括	教育長	關 敏治（平成24年12月24日まで） 木村甚治（平成24年12月25日から）
庶務	教育部長 文化財課長 文化財課副課長	古野洋敏 井上 均（平成24年6月30日まで） 菊武良一（平成24年7月1日から） 城戸康利（平成24年7月1日から）

調査	保護活用係長 調査係長 事務主査 主事 主任主査 技術主査 主任技師	菊武良一（平成24年6月30日まで） 友添浩一（平成24年7月1日から） 山村信榮 橋川史典 古川あや 中島恒次郎（平成24年6月30日まで） 井上信正 高橋 学 宮崎亮一 遠藤 茜（編集総括）
【太宰府市】	総括 庶務 景観・歴史のまち推進係々長	井上保廣 神原 稔 今村巧児 城戸康利（文化財課併任）（平成24年6月30日まで） 中島恒次郎（文化財課併任）（平成24年7月1日から） 主任主査 主事 河野貴之 大塚春菜

#### 【（財）古都大宰府保存協会】

総括	理事長	佐藤善郎
庶務	事務局長 嘱託職員 臨時勤務員 文化財調査員 集計労務員	重松敏彦（調査総括） 鶴浜京子 中村由起 山本典子（調査担当） 星原めぐみ（調査担当） 猿渡克己 森 靖幸 桑野満典 高橋史子 田中健一（文化遺産情報整備） 武石智恵 雨森史枝

本書の作成は、文化遺産調査ボランティアの統括を重松敏彦、山本、星原が行い、収集された文化遺産情報の基礎整理を山本、高橋史子、田中が行いました。その後、文化遺産データベースの追補訂正については、重松ならびに高橋史子、田中での議論をもとに遠藤をはじめとする文化財課で議論を行い、本書掲載の文化遺産情報としました。

本書記載の文化遺産情報は、高橋史子、田中のほか尾花純子、宮崎由季が整備作成し、その他の文章ならびに編集は遠藤が行いました。また、文化遺産情報の整備にあたっては、太宰府市文化ふれあい館学芸、太宰府市市史資料室の協力を得ました。

なお、文化遺産データベース原本である文化遺産情報（文化遺産カード、写真情報など）は、先述したように文化遺産調査ボランティアの統括事務局である（財）古都大宰府保存協会にて保管しています。

## 2. 文化遺産情報

市内の7つの小学校区を基本とし、小学校区の範囲、町名界、丁目界、さらには所在する文化遺産数などを考慮し、8つの地区に区分しました。また太宰府に関わる文化遺産は、特別史跡基肆城跡をはじめ近代初期に周辺各地に避難のため持ち出された太宰府天満宮の仏像など市域の外に広がるものも多々存在しており、本来は太宰府に関わる文化遺産情報としては、これらを含めたものを掲載する必要があります。しかし、市域外の太宰府に関わる文化遺産については、十分整理がついていないこともあり、四王寺山を除いては掲載していません。

文化遺産調査ならびに文化遺産情報に使用している地区区分は次のとおりです。

## a.A 地区

市域北東部、大字北谷・内山、そして御笠地区を対象地区とします。なお宝満山に所在する文化遺産については、未収録です。今後収録していきます。

## b.B 地区

市域東部の太宰府天満宮を含む地区で、大字太宰府、三条、宰府、連歌屋を包含します。

## c.C 地区

市域東部で五条ならびに白川地区を指します。

## d.D 地区

市域南東部で、昭和 40 年代以降に宅地化された地域ですが、昔ながらの景観を留めた場所も残されています。高雄、梅ヶ丘、梅香苑地区を包含します。

## e.E 地区

市域北部、水城、国分、吉松地区が包含されます。

## f.F 地区

市域中央部北寄りで、大宰府政庁跡など主要な大宰府関連史跡群を含む地域です。坂本、観世音寺を含み、通古賀、五条地区が僅かに入ります。

## g.G 地区

市域中央部南寄りで、朱雀、通古賀、都府楼南から主に構成され、坂本ならびに観世音寺が僅かに入ります。

## h.H 地区

市域南西部に位置し、吉松を含みつつ、多くは向佐野、大佐野という佐野地区から構成されます。

## i.I 地区

特別史跡大野城跡を包含する四王寺山を対象としています。市外（宇美町・大野城市）も含まれます。

## 3. 文化遺産調査

平成 16 年度に策定した『太宰府市文化財保存活用計画』において、市域に点在する文化遺産を、九州芸術工科大学（現九州大学）の協力のもと悉皆調査が実施され、ほぼ 5,000 件近くの文化遺産に関する情報がデータ化されました。この時の調査は、文化財保護法に規定されない市域に点在する様々な「古そうなモノ」全てを対象に情報収集が行われ、その結果として多様な「記念物」的遺産が拾い集められました。モノだけでなく行為の産物である行事も併せて市史編纂の際に収集された情報を基礎に拾い集められました。細部に渡る情報が収集されましたが、ひとつ課題が残されました。それは、文化遺産を見守る行為が生まれなかったことです。その課題を克服するために、平成 20 年度から再度開始された文化遺産調査は、①市民ボランティアによって調査者を構成する。②自らが未来の市民に伝えたいモノを調査対象とするという二つの考えを掲げ調査に着手しました。①については、昭和 60 年に発足した大宰府史跡解説員制度というボランティア活動の原点がある太宰府ゆえに、100 名近い参加者を得ることができました。一方、調査対象物については、一部の人間の意図による拘束を避けるため、あえて対象物を与えず、参加者自らが未来の市民に伝えたいモノという漠然とした表現で調査をお願いしました。しかし結果として、不明確な対象物という印象を参画された調査員の方々に抱かせ、調査開始当初は意思の浸透に相当な時間を要してしまいました。時間の経過とともに、調査対象物に関する意思が次第に浸透し、昭和 40 年代に造成された団地では、文化遺産は無いと困っておられた班で、自治会活動の記録の中に、市民図書館設立の基礎となった出来事が記されたり、日々の散歩道からみる宝満山の「雄姿」を見ることができる場所が記載されるなど、文化財課職員の狭い技量では計り知れない多種多様なものが集まってきました。

## a. 文化遺産調査

平成 20 年度から市民参画型の文化遺産調査活動は、当初 100 名近い参加者を得、スタートしました。その後、事務局の説明不足から講義型の文化遺産講座と誤認された方々の欠席を招きましたが、平成 22 年度まで 86 名の方々が参加していただきました。その後、平成 23 年度を迎えるにあたり、文化遺産調査の今後のあり方を議論していただいたところ、積極的な継続要望が出され、平成 23 年度も 62 名の方々の参加がありました。

文化遺産調査は、ボランティア参加していただいている方々の身近な文化遺産を調べていただくことを目的として、市内在住者の方々は、住んでいる小学校区を調査範囲として活動を御願いました。市外から参加いただいた方々は、適宜班編制の人数バランスを考慮して各班へ割り振りを行い参加していただきました。

それぞれの年度ごとの参加者は、以下のとおりです。

## ■文化遺産調査ボランティア参加者【平成 22 年度 86 名】

荒井慶子 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博 稲田和子 井上和代 井上俊子  
今泉美子 大浦健児 大河内トシ子 大田和子 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 奥野 悠  
尾沢 勝 尾仲博子 鬼丸康治 川瀬満知子 川野隆生 神寄祐雄 北原雅子 草場徳生  
工藤常泰 久保田久美子 小沼秀人 近藤佐代子 齋田恒子 斉藤マチ子 齋藤喜徳 佐伯 誠  
酒匂輝昌 猿渡節子 清水康子 白石常雄 菅原靖子 杉谷朝雄 関 久江 高木保幸  
田島哲生 堤 克哉 寺田七郎 徳光芳文 富田サナエ 富田 進 中尾武史 長尾多重子  
中澤雄二 中島伊佐子 長野瑞子 中村 昭 中山虎夫 菜畑健治 西岡文敏 西田省三  
二宮正美 野中美由喜 萩原圭司 橋口郁朗 八谷知子 濱晋一郎 林きよみ 早瀬ひろ子  
姫野英一 深川勝重 深野容子 藤田百合子 藤丸 健 本田 圭 増野芳枝 松尾セイ子  
松尾満子 松尾保伸 松岡良一 松田良治 迎 明子 村山哲勇 李尾幹雄 森田敏博  
森山幸美 焼山正憲 矢野文夫 八尋千世 山崎俊治 山田乃ぞみ

## ■文化遺産調査ボランティア参加者【平成 23 年度 62 名】

相野久枝 荒井慶子 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博 井上和代 井上俊子  
内村桂典 大浦健児 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 尾沢 勝 鬼丸康治 川瀬満知子  
川野隆生 工藤常泰 久保田久美子 小沼秀人 近藤佐代子 齋田恒子 佐伯 誠 酒匂輝昌  
猿渡節子 白石常雄 杉谷朝雄 陶山真弘 関 久江 田島哲生 堤 克哉 寺田七郎  
富田サナエ 富田 進 中尾武史 長尾多重子 中澤雄二 長野瑞子 中村 昭 菜畑健治  
西岡文敏 西田省三 二宮正美 野中美由喜 橋口郁朗 林きよみ 早瀬ひろ子 姫野英一  
深川勝重 深野容子 藤丸 健 本田 圭 増野芳枝 松尾セイ子 松尾満子 松尾保伸  
松岡良一 松田良治 村山哲勇 森田敏博 焼山正憲 山崎俊治

## ■文化遺産調査ボランティア参加者【平成 24 年度 55 名】

相野久枝 荒井慶子 荒木治稔 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博  
内村桂典 大浦健児 大田和子 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 尾沢 勝 鬼丸康治  
川瀬満知子 川野隆生 久保田久美子 小沼秀人 齋田恒子 佐伯 誠 酒匂輝昌 猿渡節子  
杉谷朝雄 陶山真弘 関 久江 堤 克哉 寺田七郎 富田サナエ 富田 進 中尾武史  
長野瑞子 中村 昭 菜畑健治 西田省三 二宮正美 野中美由喜 橋口郁朗 林きよみ  
早瀬ひろ子 姫野英一 深川勝重 深野容子 藤田百合子 藤丸 健 比田勝スエ子 本田 圭  
増野芳枝 松尾満子 松尾保伸 松岡良一 松田良治 村山哲勇 焼山正憲 矢野文夫

## 4. 文化遺産情報



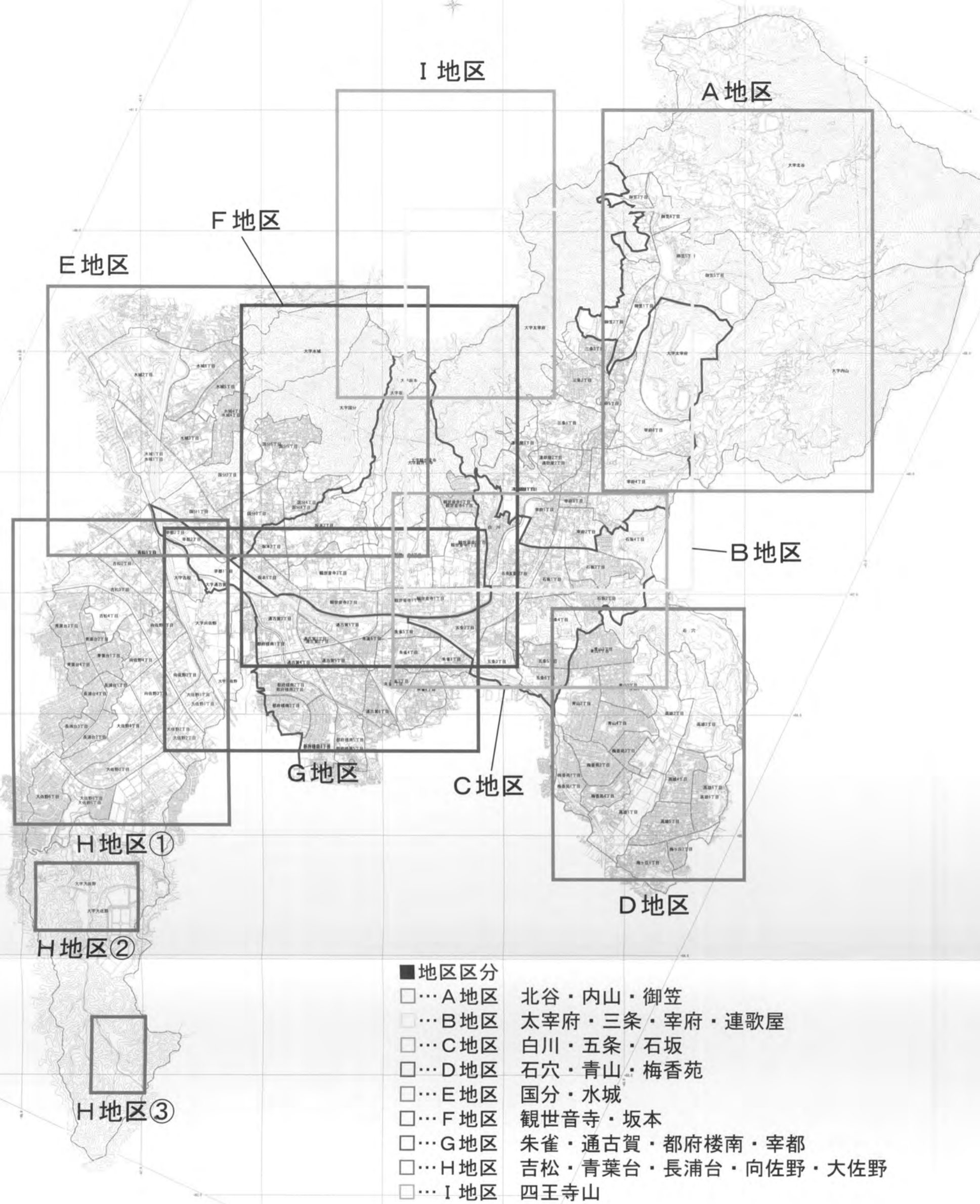


图 3. 文化遺產地区区分解説图 - 7-8 -

A地区（北谷・内山・御笠）

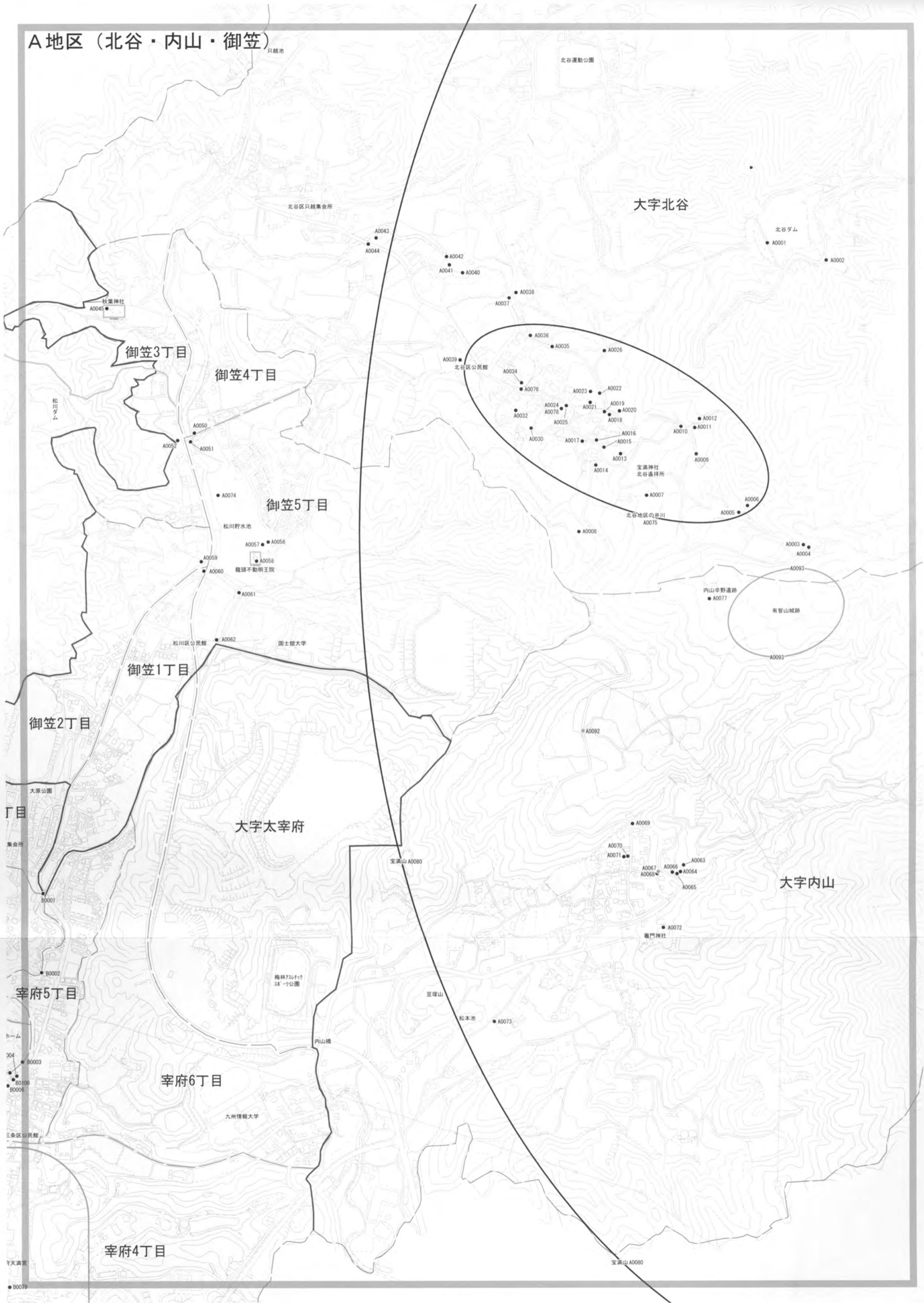


図3. A地区文化遺産位置図 - 9.10 -



図 4. 秋葉神社境内文化遺産配置図

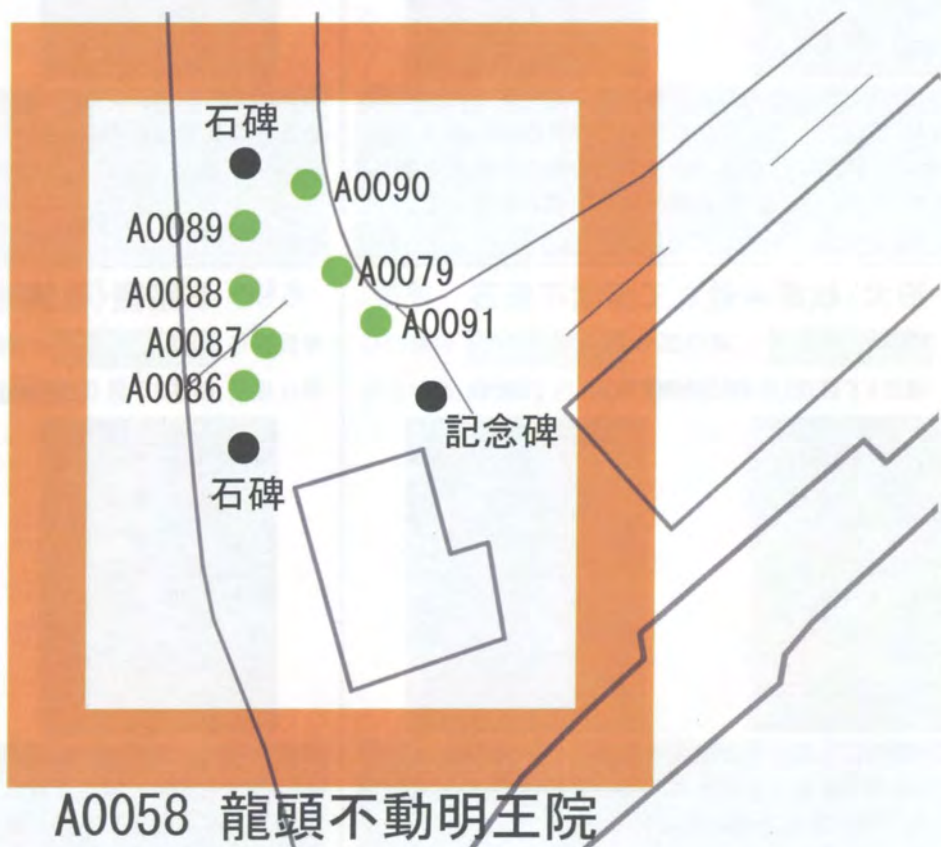


図 5. 龍頭不動明王院文化遺産配置図

A 地区 (北谷・内山・御笠)

名称 観音堂

登録番号 A0067

時代区分 -

所在場所 内山 本谷



内山区にある間口78cm・奥行53cm程の石祠。像高60cm程の石造観世音菩薩坐像、像高60cm程の石造弘法大師坐像、像高30cm程の首が欠けている石造地蔵菩薩立像の三体の石仏が祀られている。また、観音堂のある一帯は、中世に活躍した少弐氏の菩提寺釈迦院跡ともいわれている。

名称 本殿(秋葉神社)

登録番号 A0081

時代区分 近世

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



松川(まつごう)の氏神である秋葉神社の本殿。間口96cm、奥行91cm程の石造祠であり、元治2(1865)年4月吉日に建立されたものである。祠内には高さ40cm程の石で作られた火之迦具土神(ひのかぐつちのかみ)が御祭神として祀られている。

名称 狛犬(秋葉神社)

登録番号 A0083

時代区分 近代

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



秋葉神社拝殿前に二基一対で位置する高さ58cm程の狛犬。古城戸房吉の古希を記念して昭和12(1937)年4月に奉獻されたもので、世話人6名の氏名も刻まれている。

名称 石造弘法大師坐像

登録番号 A0079

時代区分 -

所在場所 御笠5丁目(龍頭不動明王院内)



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある石造の大師像。高さ50cm程で、微笑むかのような穏やかな顔が印象的である。この弘法大師坐像と修行大師立像には帽子が丁寧に被せられており、大切にされている様子がうかがえる。

名称 花立(秋葉神社)

登録番号 A0082

時代区分 -

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



秋葉神社拝殿前に二基一対で位置する石造の花立。台までめると高さ76cm程の大きさである。

名称 石燈籠(秋葉神社)

登録番号 A0084

時代区分 近世

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



秋葉神社にある高さ145cm・台高50cm程の石燈籠。「永代常燈 宿坊満盛院 八月吉日 ■■■■弥四郎」の銘が残っており、本来所在していた場所から秋葉神社へ移動してきたものと判明する。また、移動された年代は文化13(1816)年とも言われている。

名称 **鳥居(秋葉神社)**

登録番号 **A0085** 時代区分 **近世**

所在場所 **御笠3丁目(秋葉神社境内)**



秋葉神社参道にある石造鳥居。明治15(1882)年4月に建立されたもので、製作に携わった石工谷川藤三郎の名が刻まれている。

名称 **石造地藏菩薩立像**

登録番号 **A0086** 時代区分 -

所在場所 **御笠5丁目(龍頭不動明王院内)**



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある地藏菩薩立像。像高は52cm程である。

名称 **石造修行大師立像**

登録番号 **A0087** 時代区分 -

所在場所 **御笠5丁目(龍頭不動明王院内)**



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある修行大師の石仏。像高は103cm程である。この修行大師立像と弘法大師坐像には帽子が丁寧に被せられており、大切にされている様子がうかがえる。

名称 **石造釈迦如来坐像**

登録番号 **A0088** 時代区分 -

所在場所 **御笠5丁目(龍頭不動明王院内)**



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある釈迦如来の石仏。像高は58cm程である。

名称 **石造弘法大師坐像**

登録番号 **A0089** 時代区分 -

所在場所 **御笠5丁目(龍頭不動明王院内)**



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある弘法大師坐像。像高は46cm程である。

名称 **石造不動明王立像**

登録番号 **A0090** 時代区分 -

所在場所 **御笠5丁目(龍頭不動明王院内)**



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある石造不動明王像。像高は110cm程である。

A 地区（北谷・内山・御笠）

名称 石造弘法大師坐像

登録番号 A0091 時代区分 -

所在場所 御笠5丁目（龍頭不動明王院内）



龍頭不動明王院（松川集会所）の裏庭にある石造のお大師様。像高は25cm程で、周囲のものより一回り小さめの石像である。

名称 有智山城跡

登録番号 A0093 時代区分 中世

所在場所 内山



宝満山西側山腹にある中世山城跡。鎌倉時代後期に武藤少式氏が築いたとされ、『太平記』や『梅松論』には「内山ノ城」とみえる。九重原と呼ばれる地区には、多くの段造成があり、その一面には土塁・空堀・石垣が残る。



龍頭不動明王院

名称 九重原のビューポイント

登録番号 A0092 時代区分

所在場所 大字内山



宝満山裾の九重原に開けている田園風景。田園越しから太宰府市内や脊振山系を望むことができる。



秋葉神社

B地区（太宰府・三条・宰府・連歌屋）

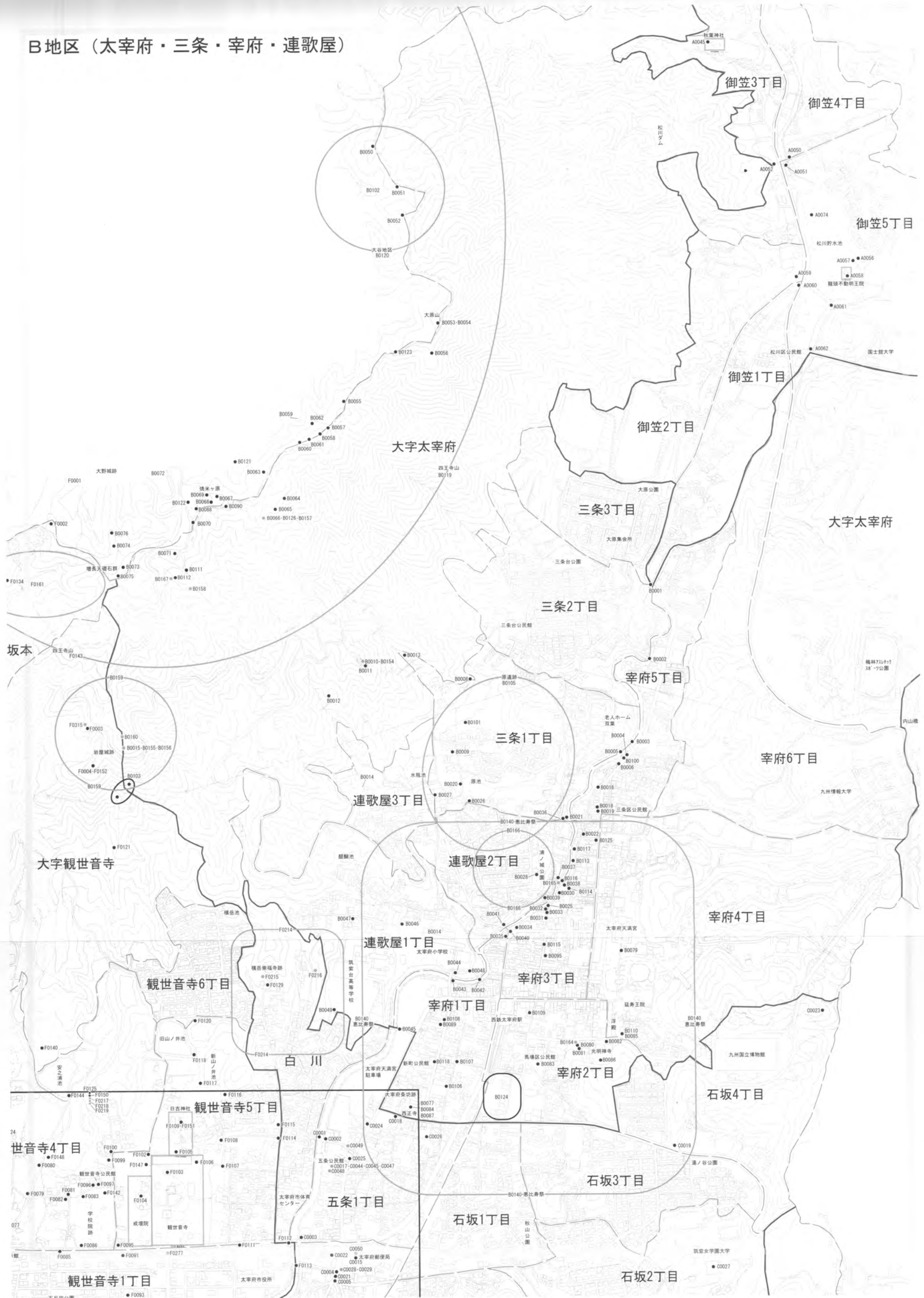


図 6. B地区文化遺産位置図

## (太宰府・三条・宰府・連歌屋) B 地区

## 名称 恵比寿祭(宰府地区)

登録番号 B0140 時代区分-

所在場所 宰府



天満宮の門前町として栄えた六町(三条・連歌屋・馬場・大町・新町・五条)では生業を守り財福をもたらす神様として恵比寿が多く祀られている。宰府地区では商売繁盛を願い毎年12月3日の早朝から祭祀・参拝客への接待が行われる。前日の2日夜に小島居小路の恵比寿では、宵恵比寿が行われている。

## 名称 四王寺山のビューポイント 4

登録番号 B0155 時代区分 現代

所在場所 太宰府(四王寺山 岩屋城本丸跡)



遠く正面南には基山、西に脊振山、東に宝満山、それらの山並みを背景に左から水瓶山・太宰府天満宮の森・九州国立博物館・学園都市太宰府を象徴する校舎・観世音寺・大宰府政庁跡・水城跡等太宰府が一望出来るビューポイント。政庁跡の三本の石碑もはっきりと見ることが出来る絶景地点である。

## 名称 由来不詳の石造遺物(3)

登録番号 B0157 時代区分-

所在場所 太宰府(四王寺山)



四王寺山三十三石仏4番札所前にある石造遺物。人工的に加工された半円状のクサビ跡が残っており、何らかの用途に用いられたものと思われる。

## 名称 法華曼荼羅板碑

登録番号 B0154 時代区分 中世

所在場所 太宰府(水瓶山)



水瓶山山頂に位置する高さ1.5m程の花崗岩製の板碑。判読困難な部分があるが、正面上部の方形枠内に梵字による法華曼荼羅が彫られている。下部には南朝方の年号「正平八癸巳七月」があり、正平8(1353)年に建立されたことが分かる。

## 名称 岩屋城址の碑 岩屋城合戦 関連石造物 4

登録番号 B0156 時代区分 現代

所在場所 太宰府(四王寺山 岩屋城本丸跡)



岩屋城合戦戦没者の子孫である粕屋郡の関治良吉が、昭和30(1955)年に本丸跡に建立した石碑。表面には「嗚呼壮烈 岩屋城址」、裏面には「昭和三十歳乙未仲秋 關治良吉真種謹書」の銘がある。平成17(2005)年の福岡西方沖地震で土台が不安定になった為、土台のみ組み直されている。

## 名称 水ハコビミチ・太宰府町道

登録番号 B0158 時代区分-

所在場所 太宰府(四王寺山)



「大野城太宰府旧蹟全図北」では太宰府口城門から真っ直ぐに下る道を「水ハコビミチ」と記す。明治期以降は「太宰府町道」として四王寺山における幹線道路であった道である。かつては「水手」の水を要所に運ぶために利用されたことにより、このように称されていたのではないかと考えられる。



B 地区（太宰府・三条・宰府・連歌屋）

名称 **コクウゾウノダイ**

登録番号 **B0159** 時代区分-

所在場所 **太宰府(四王寺山)**



「大野城太宰府旧蹟全図北」では、岩屋城本丸跡から二ノ丸跡付近を「コクウゾウノダイ」と記す。岩屋城に関する古絵図等では、二ノ丸跡の上方や大手門付近などに「虚空蔵台」があったとする。また『福岡縣地理全誌』では二ノ丸に虚空蔵堂があり堂内の仏像は後に原八坊の六度寺に移されたという。

名称 **藍染川梅壺侍従蘇生之碑**(あいぞめがわうめつぼじじゅうそせいのみ)

登録番号 **B0164** 時代区分-

所在場所 **宰府2丁目**



光明寺の前を流れる藍染川のほとりに建立されている自然石の石碑。中務頼澄と梅壺との恋愛悲話に因むもので、頼澄の妻の対応に悲観して藍染川に身を投げた梅壺を見て、頼澄は梅壺が息をふきかえすよう一心に天満天神へ祈ると、天神様が現れて梅壺は無事に息をふきかえしたといわれている。

名称 **浦ノ城跡**

登録番号 **B0166** 時代区分 **中世**

所在場所 **連歌屋2丁目**



筑前国の守護であった少弐氏の居城と伝えられる城跡。構造の詳細は不明であるが、昭和44(1969)年、開発に伴う発掘調査が行われ、コの字形の急斜面を持つ丘陵と御笠川を巧みに利用して築城されていたことが判明した。現在、跡地には連歌屋地区の町並みが広がり、公園等が整備されている。

名称 **岩屋山**

登録番号 **B0160** 時代区分-

所在場所 **太宰府(四王寺山中腹)**



岩屋山は大野山中腹に位置する高さ281mの花崗岩質の山で、中世には山全体に岩屋城が築かれた。山頂は岩屋城本丸跡で、眼下に大宰府政庁跡や観世音寺の史跡をはじめ、筑前平野一帯を見渡せる絶景地点である。

名称 **岩淵**

登録番号 **B0165** 時代区分-

所在場所 **宰府3丁目・宰府5丁目**



天満宮の北西、御笠川に岩踏橋が架かる所を通称岩淵という。昔はこの辺りの両岸に大岩があり、溪水の走り流れる景勝地として有名であった。『筑前国統風土記』では名所とされており、太宰府参詣に訪れた長崎奉行や日田郡代など多くの人が立寄った記録が残る由緒ある地である。

名称 **石こづんばば伝説地**

登録番号 **B0167** 時代区分 **中世**

所在場所 **四王寺山**



天正14(1586)年、高橋紹運が籠る岩屋城が攻められた際、島津勢は里の欲深い老婆に金を与えて案内させ、城の水手を断ち切った。合戦後、里の人々は裏切り者の老婆を捕え、石を積み重ねて生き埋めにしたという伝承がある。大野城太宰府口城門跡そばの小高い箇所がその場所だという。

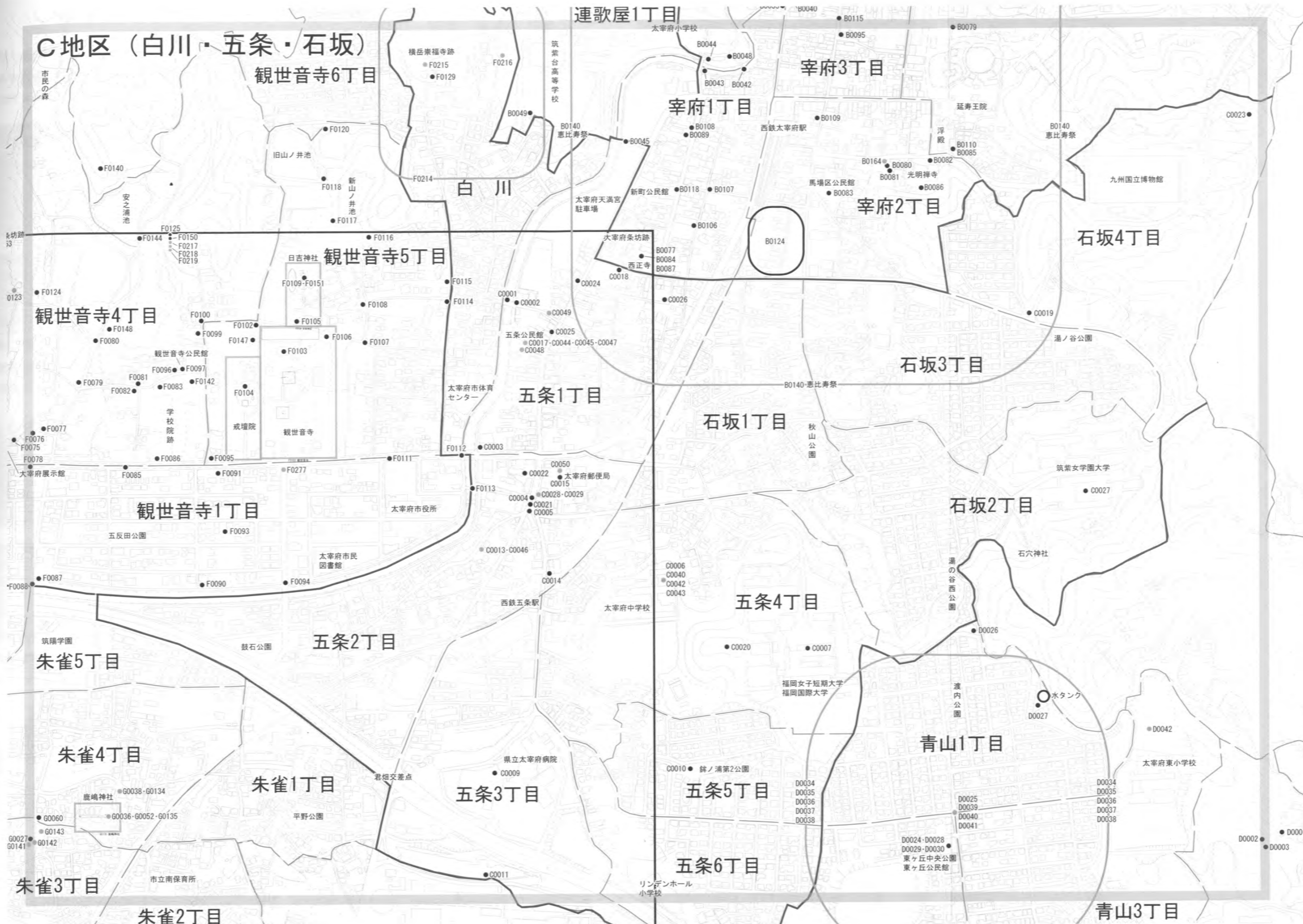


图 7. C地区文化遺産位置图 - 19・20 -

名称 **庚申天**

登録番号 **C0028**

時代区分 **近世**

所在場所 **五条2丁目**



五条構口跡、五条小橋のたもとに板碑と共に所在する庚申天。江戸時代の天明元(1781)年に吉塚喜四郎・吉塚喜助らが施主となって建立されたもので、表面には大きく「庚申天」と刻まれている。平成14(2002)年、ビル建設に伴って現在地へと移設されている。

名称 **文明拾八年銘梵字板碑**

登録番号 **C0029**

時代区分 **中世**

所在場所 **五条2丁目**



五条構口跡に所在する花崗岩製の板碑。上面が欠損しているが残存高1.06m、最大幅0.74m、奥行0.19mの大きさで、前面に月輪と種子(ウーン)が陰刻されている。3行にわたって彫られている銘は風化などにより読みづらい部分があるが、文明18(1486)年に建立されたものであることが分かる。

名称 **薬師堂**

登録番号 **C0040**

時代区分 -

所在場所 **五条4丁目(太宰府中学校内)**



太宰府中学校敷地内の中庭にある薬師堂。塚の上に生える大きなクスノキの根元に位置しており、ブロック造りの御堂内には60cm程の石造薬師如来像が祀られている。

名称 **五穀神**

登録番号 **C0042**

時代区分 -

所在場所 **五条4丁目(太宰府中学校内)**



太宰府中学校敷地内にある五穀神。昭和12・13年頃までは地区の祭礼として、お籠りや子供相撲が行われていたと伝えられている。

名称 **古川家発祥の地碑**

登録番号 **C0043**

時代区分 -

所在場所 **五条4丁目(太宰府中学校内)**



太宰府中学校敷地内に所在する、中世太宰府の六座や金掛の梅の物語で知られる五条古川家発祥の地を記念した石碑。石碑には明治・大正時代に太宰府町長を務めた古川勝臣の記名が刻まれている。

名称 **大師堂**

登録番号 **C0044**

時代区分 -

所在場所 **五条1丁目(五条公民館)**



五条公民館入口の脇に所在する御堂。堂内には中央と右手に石造弘法大師像、左手に板碑が祀られている。中央の大師像台石には銘が残っており、明治18(1885)年11月10日に建立されたことが分かる。また、左手の板碑は小像が共に祀られており、台石には梵字らしきものも確認される。

C 地区（白川・五条・石坂）

名称 旗立石

登録番号 C0045 時代区分 -

所在場所 五条1丁目(五条公民館)



五条公民館の入口付近、公民館建設記念碑や力石と並ぶように所在する旗立石。公民館入口側の表面には大きく「當組合中」の銘が彫られ、裏面には「従是右 博多ふくをか 道」と残されている。

名称 五条公民館建設記念碑

登録番号 C0047 時代区分 現代

所在場所 五条1丁目(五条公民館)



五条公民館の入口付近に旗立石や力石と並ぶように所在する石碑。五条公民館の建設を記念して建立されたもので、公民館入口側の表面には「五条公民館建設記念」、裏側には「昭和四十四年五月吉日 五条区 森林組合」の銘が彫られている。

名称 石碑

登録番号 C0049 時代区分 -

所在場所 五条1丁目



白川地区から白川橋を渡り、五条1丁目へと東進する小道沿いにある石碑。由来など詳細は不明である。

名称 血方持(ちけもち)さまのエノキ

登録番号 C0046 時代区分 -

所在場所 五条2丁目



神幸祭の行列が通るとんかん道沿いにある榎の大木で、樹高13.25m・幹周り3.4mある。根元には婦人病に靈験あらたかであるという血方持観音が祀られている。

名称 土地寄贈碑

登録番号 C0048 時代区分 現代

所在場所 五条1丁目(五条公民館)



五条公民館の敷地内に所在する石碑。表側には「寄贈 土二十一平方米 吉塚勇殿」、裏側には「昭和四十四年五月 五条 寄贈者の往來を承認」とあり、公民館建設に際して地を寄贈された事と隣接する寄贈者宅への往來を承認する事が記されている。

名称 歌碑(三条実美)

登録番号 C0050 時代区分 近世

所在場所 五条2丁目



金掛天満宮境内にある歌碑。三条実美は幕末に活躍した公卿で、京都より都落ちし太宰府延寿王院に逗留していた際に、金掛け梅の伝承をもつ古川家を訪れ、「梅ヶ枝にかかる黄金花もまた 根にかへりてや咲き出づらん」と詠んだ。



D地区 (石穴・青山・梅香苑)

五条4丁目

石穴

青山1丁目

青山3丁目

青山2丁目

青山4丁目

高雄2丁目

高雄3丁目

梅香苑3丁目

梅香苑2丁目

梅香苑1丁目

梅香苑4丁目

高雄1丁目

高雄4丁目

高雄6丁目

高雄5丁目

梅ヶ丘1丁目

梅ヶ丘2丁目

図 8. D地区文化遺産位置図

名称 **緑台区の年中行事**

登録番号 **D0032** 時代区分 **現代**

所在場所 **梅香苑3丁目**



緑台区は住民増加により昭和54(1979)年度に高雄区から分離して発足した区。住民の親睦を図るために8月に夕涼み会を開催したのが、地域での行事開催のきっかけであった。以来、どんど焼き・花見・七夕会・夕涼み会・敬老会・運動会などの年中行事が住民の多くの参加で盛況に行われている。

名称 **ひまわり会(東ヶ丘区)**

登録番号 **D0034** 時代区分 **現代**

所在場所 **青山2丁目(東ヶ丘公民館)**



ひまわり会は各地で福祉活動を行うボランティア団体の名称で、その名前発祥の地は東ヶ丘である。平成3年夏に自主活動として発足以来、施設見学・老人会との交流・老人介護の学習・同朋園へのお手伝い等と活動の輪を拡げていき、現在も高齢者が住みよい町である為のお手伝いを行っている。

名称 **敬老会(東ヶ丘区)**

登録番号 **D0036** 時代区分 **現代**

所在場所 **青山2丁目(東ヶ丘公民館)**



昭和54(1979)年1月の東ヶ丘公民館完成までは、7組(青山1丁目)の杉の木塾で開催されていた。その後、運営や制度が整えられと共に祝宴内容も充実し、最近では東ヶ丘の有志劇団による寸劇やフラダンス・ひよっこ踊りなど盛り沢山となり、招待される高齢者の方にも楽しい集いとなっている。

名称 **梅香苑区の夏祭り**

登録番号 **D0033** 時代区分 **現代**

所在場所 **梅香苑4丁目梅香苑第一公園**



昭和50(1975)年頃から毎年8月に盆踊りが実施されるようになり、現在も区が主体となり「夏祭り」大会として区内の公園で行われている。昼には「子供みこし」が区内をねり歩き、梅香苑区の文化部をはじめとした各部による出店も行われるなど、賑やかに開催されている。

名称 **育成会・子供会(東ヶ丘区)**

登録番号 **D0035** 時代区分 **現代**

所在場所 **青山2丁目(東ヶ丘公民館)**



昭和51(1976)年に太宰府町子供会連合会が発足、同年に東ヶ丘区でも子供会に入っている子供達の親の会「育成会」が発足。毎年6年生の親が全員参加で子供達の健全な育成のために1年間の計画を立て、様々な行事を実行している。発足以来、途切れる事なく受け継がれている大事な活動である。

名称 **区民旅行(東ヶ丘区)**

登録番号 **D0037** 時代区分 **現代**

所在場所 **青山2丁目(東ヶ丘公民館)**



平成2(1990)年6月から平成5(1993)年3月まで、東ヶ丘区は市から貯蓄生活推進地区に推薦され普及地区としての委託を受けた。その中でひまわり会の発足と共に、区民旅行の開始が大きな成果であり、友好都市である大分県耶馬溪町への表敬訪問など、各地への研修旅行が現在まで行われている。

D 地区（石穴・青山・梅香苑）

名称 団地バス（東ヶ丘区）

登録番号 D0038 時代区分 現代

所在場所 五条・青山など



誘致当初は狭い道路幅や採算性の問題でなかなか折り合いがつかなかったが、最終的には当時の太宰府市長が西鉄本社との交渉に働きかけ、昭和58(1983)年7月に開通した。当初の運行は五条から梅香苑までであったが、現在(平成24年)は二日市まで延長され多くの住民や学生に利用されている。

名称 青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色

登録番号 D0040 時代区分 現代

所在場所 青山通り・東ヶ丘通り 交差点



青山通りと東ヶ丘通りの交差点は、東ヶ丘地区の中心点である。交差点から西へは、坂の町に相応しい急な下り坂が続いている。住民は五条地区に出かけ、銀行・薬局・買い物等の日常の用事を済ませた後、今度は急な坂を登らねばならず大変であった。バスの開通で負担が減り、行き来が楽になった。

名称 どんど焼き（東ヶ丘区）

登録番号 D0042 時代区分 現代

所在場所 青山3丁目 太宰府東小学校横広場



東ヶ丘区では平成3(1991)年1月15日に初めてどんど焼きを開催。当初は東ヶ丘公園で行っていたが、後に安全のため小学校横の広場へと移った。育成会・子供会を中心に、役員・有志が全員一致団結して準備を行い、当日はぜんざいを振る舞うなど、正月の一大イベントとして盛大に行われている。

名称 青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色

登録番号 D0039 時代区分 現代

所在場所 青山通り・東ヶ丘通り 交差点



青山通りと東ヶ丘通りの交差点は、東ヶ丘地区の中心点である。交差点から南に向かうと区唯一の商店や郵便局・中央公園・公民館等があり、人の集まる通りである。

名称 青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色

登録番号 D0041 時代区分 現代

所在場所 青山通り・東ヶ丘通り 交差点



青山通りと東ヶ丘通りの交差点は、東ヶ丘地区の中心点である。交差点から北へ向かうと静かな住宅が広がっており、この一帯が東ヶ丘で最初に住宅街を形成した場所である。奥に見える山は四王寺山である。

名称 宝満山を眺めるビューポイント

登録番号 D0047 時代区分 -

所在場所 高雄2丁目



高雄から眺める宝満山は大変美しく、神奈備山形のきれいな稜線は市内の他の場所から眺めるのとはまた違った趣である。四季折々に美しさがあるが、初夏の頃、田植えのために水が張られると水面に宝満山が映りこみ、素晴らしい情景が映し出される。

E地区 (国分・水城)

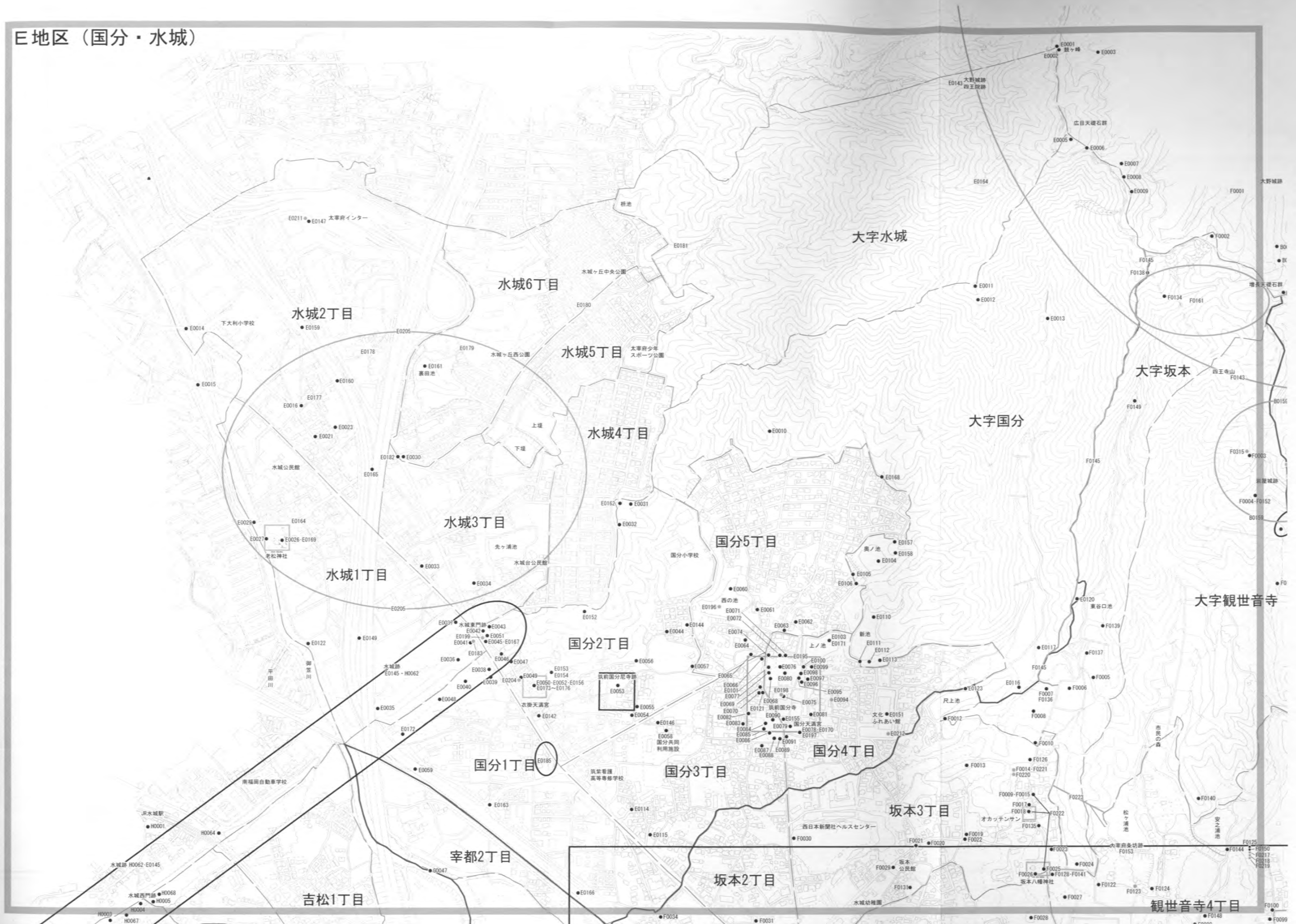


図9. E地区文化遺産位置図 - 27・28 -





### E0026 老松神社

图 10. 老松神社境内文化遺産配置図



### E0050 衣掛天満宮

图 11. 衣掛天満宮境内文化遺産配置図

E 地区 (国分・水城)

名称 国分寺東側境界線の小道

登録番号 E0094 時代区分 ー

所在場所 国分4丁目



筑前国分寺跡周辺は古い地形がそのまま残っている場所が多い。この小道は国分寺跡東側を南北に走る道で、往時の面影を偲ばせる旧道である。道に沿って数度の発掘調査(筑前国分寺跡第14次・23次・28次辻遺跡第2次調査)が行われており、国分寺外郭線に関連する溝跡や柵列の跡が確認されている。

名称 筑前国分寺跡

登録番号 E0195 時代区分 古代

所在場所 国分4丁目



奈良時代に聖武天皇の発願で諸国に建立された国分寺のひとつである筑前国分寺は、その重要性から大正11(1922)年10月12日に国史跡に指定された。幾度も行われた発掘調査では、七重塔基壇・講堂・回廊等の建物跡が判明しており、金堂・中門等の跡も確認されている。

名称 祭事(国分天満宮)

登録番号 E0197 時代区分 ー

所在場所 国分4丁目



国分天満宮の年中行事・祭事は氏子によって執り行われている。氏子組織は5軒から7軒で構成される組が5組あり、この5組で当番を持ち回りにして春籠り・夏祭り・宮座・初詣などの行事が行われている。

名称 小夜神(賽神)の手洗鉢

登録番号 E0183 時代区分 近代

所在場所 水城1丁目 賽の神祠横



賽の神祠の傍らに所在する手洗鉢。大正4(1915)年に寄進されたもので、側面には磨耗して判別しづらいが寄進者の名前が彫られている。

名称 西ノ池の景観

登録番号 E0196 時代区分 ー

所在場所 国分5丁目



西ノ池からの眺望は国分を一望出来るもので、国分区に在る昔の風情を垣間見ることが出来る。また、湖畔にはクスノキの大木をはじめ豊かな自然が広がっており、散歩コースとして地域の人々に愛されている。

名称 伝薬師如来坐像(国分密寺)

登録番号 E0198 時代区分 古代

所在場所 国分4丁目 龍頭光山筑前国分密寺本堂



筑前国分密寺に安置されている本尊。像名は諸説あるが、寺では奈良時代の名僧行基作の薬師如来として信仰されている。高さ212cm程の大柄な像で、肩幅が広く、顔立ちはふっくらとしており静かな表情を表している。国指定重要文化財。

## 名称 水城東門跡

登録番号 E0199

時代区分 古代

所在場所 国分2丁目



664年に築造された水城の東門跡。現在も水城3丁目交差点のそばに門の礎石が残されている。東門から出る道は西海道の幹線道で、井相田遺跡や板付遺跡を経て博多遺跡群に至るルートであった。現在は県道112号線が通っており平坦だが、明治期には東門付近はやや坂道であったという。

## 名称 祭事(衣掛天満宮・衣挂天神)

登録番号 E0201

時代区分 -

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神)



衣掛天満宮の大祭は10月第3日曜日に行われる宮座である。その他、春籠り・夏籠り・およど・秋籠り・千灯明・お注連縄打ちなど氏子のみで執り行われている祭事や、古都の光・焼納祭などの行事が行われている。平成23(2011)年度は、19軒で構成される氏子によって運営されていた。

## 名称 旧小字標石 衣掛(きぬかけ)

登録番号 E0204

時代区分 -

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神境内)



四王寺山南西麓に位置する国分の旧小字名。地名は、大宰府に流された菅原道真が長旅の末ようやく水城に到着し、大宰府に入る前に旅衣を脱いで傍らの松もしくは石に掛け、新しい衣に着替えた場所であることに由来するという。現在、衣掛天満宮入口に旧小字を記した石標が建立されている。

## 名称 花立(衣掛天満宮・衣挂天神)

登録番号 E0200

時代区分 -

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神境内)



衣掛天満宮(衣挂天神)の本殿脇に所在する二基一対の石造花立。表面には「献」の銘が残されている。

## 名称 宮座記録(衣掛天満宮・衣挂天神)

登録番号 E0202

時代区分 近世

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神)



宮座は年に一度行われる神事であり、氏子の総会の意味を持つ行事。現在は、氏子総会、神事、奉納、御神酒、謡曲、会食という流れで行われている。お供え・料理・持ち回りの道具などについて記載してある記録が、宮座帳として昭和30(1955)年から代々受け継がれている。

## 名称 水城

登録番号 E0205

時代区分 -

所在場所 水城1丁目~6丁目・大字水城



四王寺山南西麓に位置し、水城跡に由来する地名。古くは「水木」「見木」とも書いた。江戸時代は福岡藩領に属しており、明治22(1889)年に周辺9か村が合併し水城村が成立。昭和30(1955)年に太宰府町と合併し現在に至る。

名称 恵比寿神

登録番号 E0206

時代区分 -

所在場所 国分2丁目 (衣掛天満宮・衣挂天神境内)



衣掛天満宮境内に祀ってある、高さ135cmほどの恵比寿神。江戸時代後期の弘化4(1847)年11月に建立されたものである。平成23(2011)年に、氏子によって恵比寿神のための覆屋が設けられている。

名称 本殿(老松神社)

登録番号 E0207

時代区分 近世

所在場所 水城1丁目 (老松神社境内)



老松神社の本殿は高さ2m程の石垣積基壇上に、ほぼ東北に建てられている。背面壁板には陰刻が残されており、慶応3(1867)年4月に石殿が造立された事や、国分村の石工吉田兼と芦屋次一郎が造立に携わったことが分かる。

名称 拝殿(老松神社)

登録番号 E0208

時代区分 現代

所在場所 水城1丁目 (老松神社境内)



太宰府市水城1丁目にある老松神社の拝殿。昭和47(1972)年10月に建立されたものである。

名称 宮座記録(老松神社)

登録番号 E0209

時代区分 近世

所在場所 水城1丁目 (老松神社)



水城村の氏神である老松宮の宮座の記録は、天明3(1783)年、明治44年、大正5年、昭和4年、昭和7年、昭和23年と改正を加えるごとに帳面が改められ、その間の年ごとの当番などが記されている。今日まで連綿とした記録が残されており、宮座の変遷を知ることができる貴重な資料である。

名称 宮座(老松神社)

登録番号 E0210

時代区分 -

所在場所 水城1丁目 (老松神社)



宮座は毎年10月16日と決まっており、当日は幡を立てる。宮座は氏子による当番制で行われており、開催に先立って10月1日に御注連打ちを行っている。官司によって神事が執り行われた後、お茶事・盃事・当渡し等のしきたりを経て直会が行われている。

名称 成屋形古墳

登録番号 E0211

時代区分 原始

所在場所 水城2丁目



四王寺山から派生する丘陵群先端部に位置する古墳。昭和5(1930)年より数回調査され、平成7(1995)年に九州自動車道太宰府IC拡幅工事のため本格的な調査が行われた。その結果、5世紀の築造と推定される2段築成の帆立貝式前方後円墳である事が判明し、円筒埴輪等の出土品が確認されている。

## 名称 成屋形遺跡出土箱式石棺

登録番号 E0212

時代区分 原始

所在場所 国分4丁目(文化ふれあい館)



箱式石棺は弥生～古墳時代に用いられた墓の1つで、石を並べて小部屋を作り、その中に遺体を埋葬し複数の石で蓋をしたもの。成屋形遺跡から発掘後、福岡市立三宅中学校校庭に移設復元され、昭和63(1988)年に佐野発掘事務所へ移設。現在は文化ふれあい館に移設復元されて展示されている。

## 名称 水神

登録番号 E0214

時代区分-

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社には手水鉢が3ヶ所に設けられているが、拝殿そばにある手水鉢の脇にこの石碑は建立されている。高さは90cm程で、表面には「水神」の銘がある。

## 名称 遙拝所碑

登録番号 E0216

時代区分 近代

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社境内に祀られている石碑。碑面には大きく「遙拝所」と、「明治九年丙子八月建立 水城村」の銘があり、明治9(1876)年8月に水城村の人々による建立と分かる。地元では天禰山の遙拝所と言われている。

## 名称 御神井碑

登録番号 E0213

時代区分 近代

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社には手水鉢が3か所に設けられているが、拝殿そばにある手水鉢の脇にこの石碑は建立されている。表面には「奉獻 御神井 昭和七年十月吉日 菊池善七 花田繁 花田鶴吉」とあり、昭和7(1932)年10月に建立されたことが分かる。

## 名称 猿田彦大神

登録番号 E0215

時代区分-

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社境内で祀られているもので、高さは約100cm程。碑には北側面に「猿田彦大神」、南側面に「庚申天」と銘があり、両者が合わさった庚申信仰の様子がうかがえる。

## 名称 観音堂

登録番号 E0217

時代区分-

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社境内に位置する観音堂。間口145cm・奥行190cmの御堂内には高さ60cm程の石造観世音菩薩立像が祀られている。また、観音堂は西国第三十番札所になっており、堂内には札所を示す木札が掲げられている。

## 更新情報

名称 **大宰府正門礎石(朱雀門礎石)**

登録番号 **F0063**

時代区分 古代

所在場所 **観世音寺2丁目**



昭和57(1982)年、政庁正面付近の御笠川改修工事により発見された礎石。大きさは2.42m×1.82mで、上面に径66cmの円形柱座を造り出す。重さが約7.5トンあるこの巨石は、その出土地から、大宰府政庁朱雀門の礎石であると考えられる。



## 朱雀門礎石の移転

平成24年11月2日、これまで大宰府政庁跡前の広場一角の植え込みに置かれていた礎石が、昭和57年の発見地に近い朱雀大橋北側の市有地に移されました。

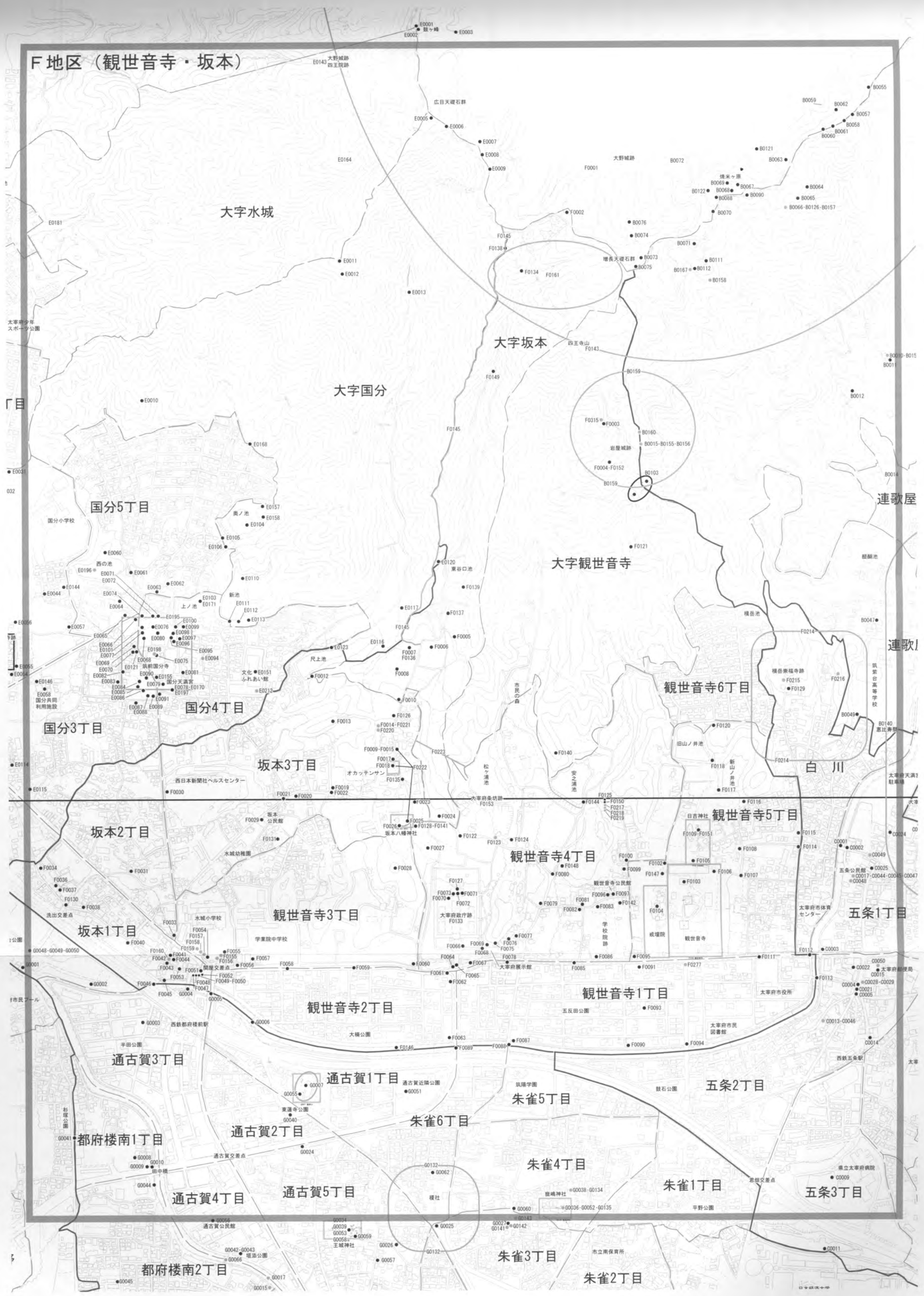


### 礎石移設作業のようす

大型クレーンで吊り上げ、トレーラーに乗せて移動しました。

このとき、礎石の重さが約7.5tであることが判明しました。





F地区（観世音寺・坂本）

図 12. F地区文化遺産位置図

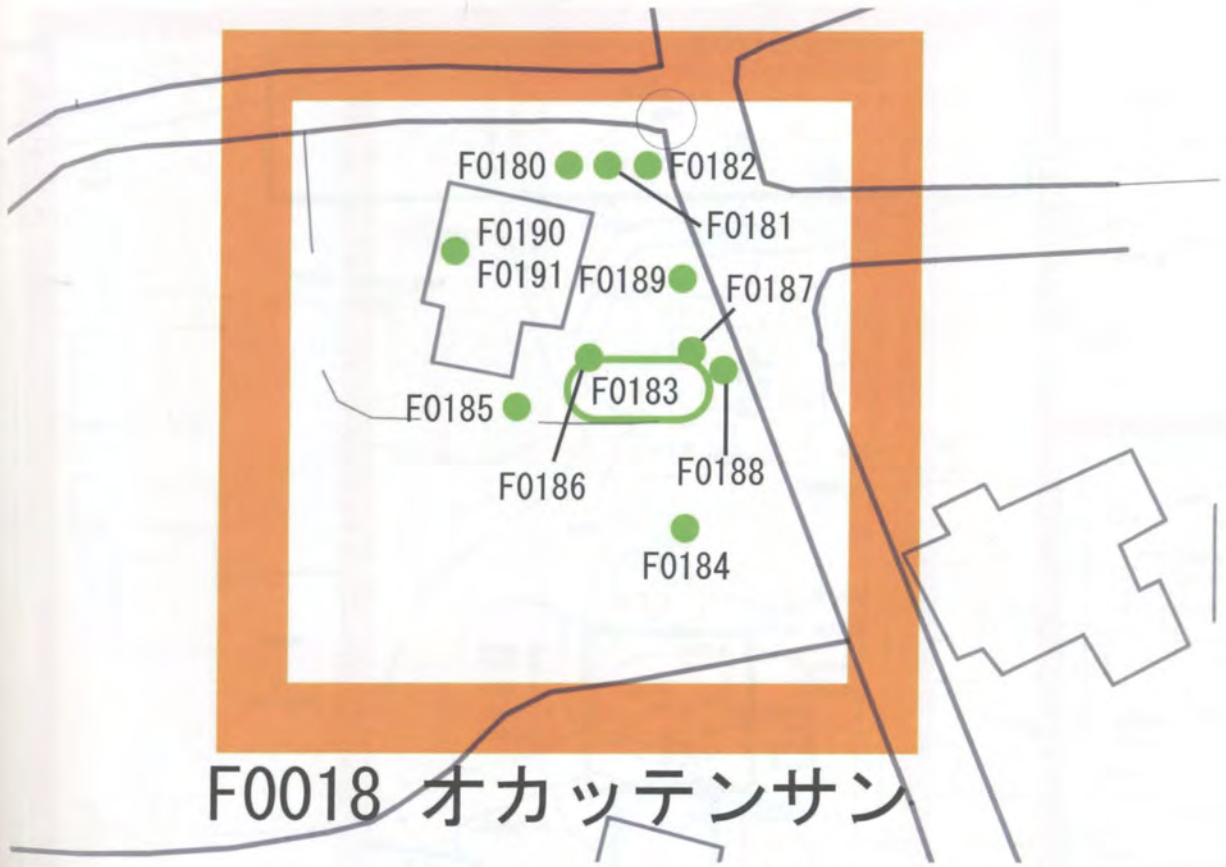


図 13. オカッテンサン文化遺産配置図

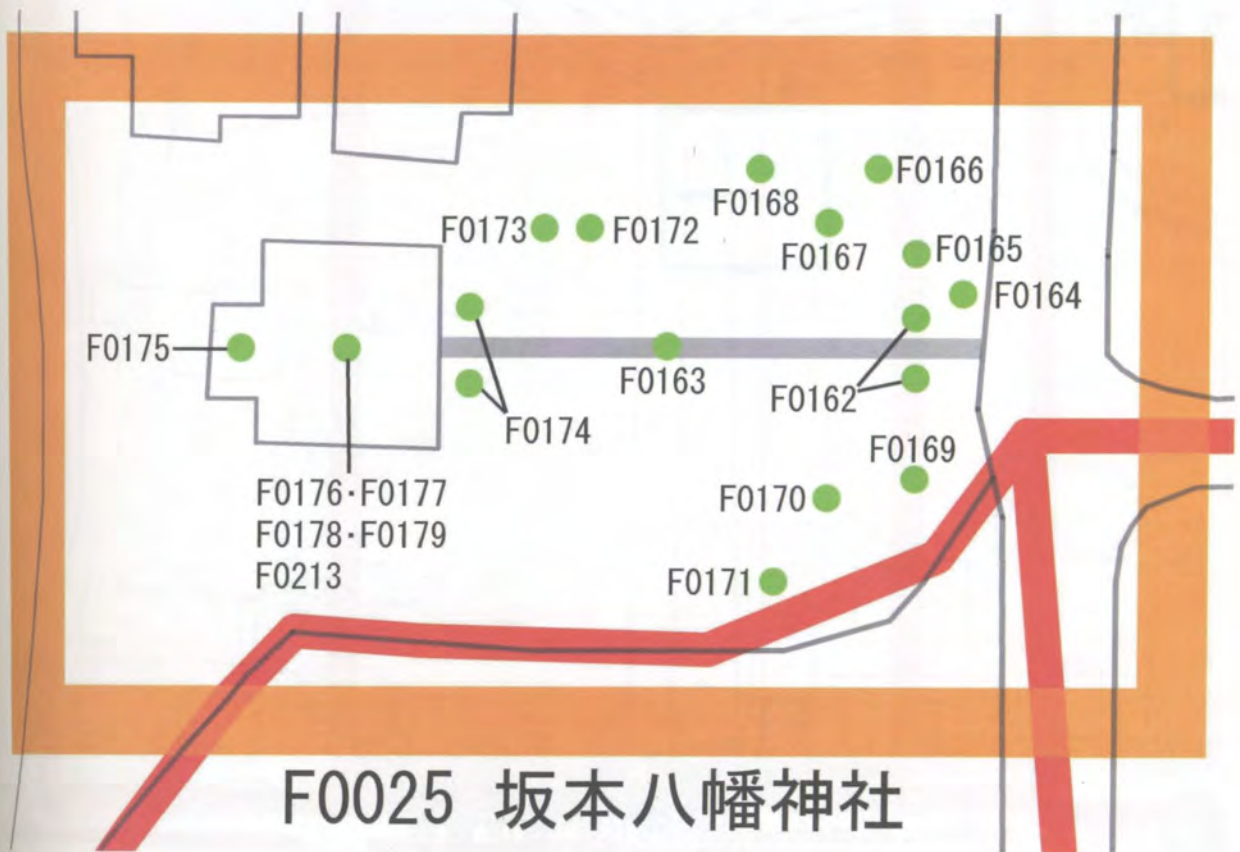


図 14. 坂本八幡神社境内文化遺産配置図



太宰府市文化遺産情報  
F 地区 (観世音寺・坂本)

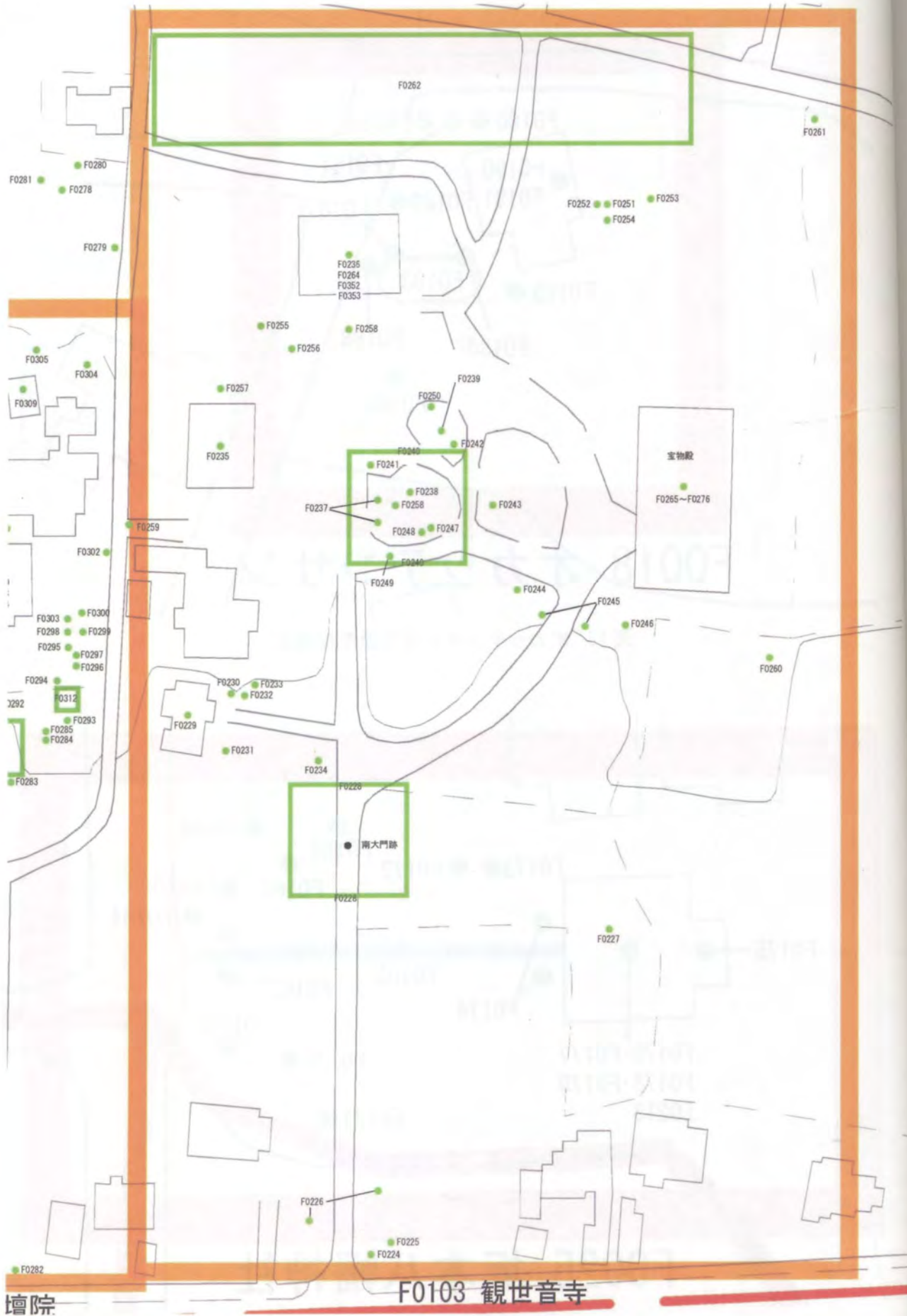
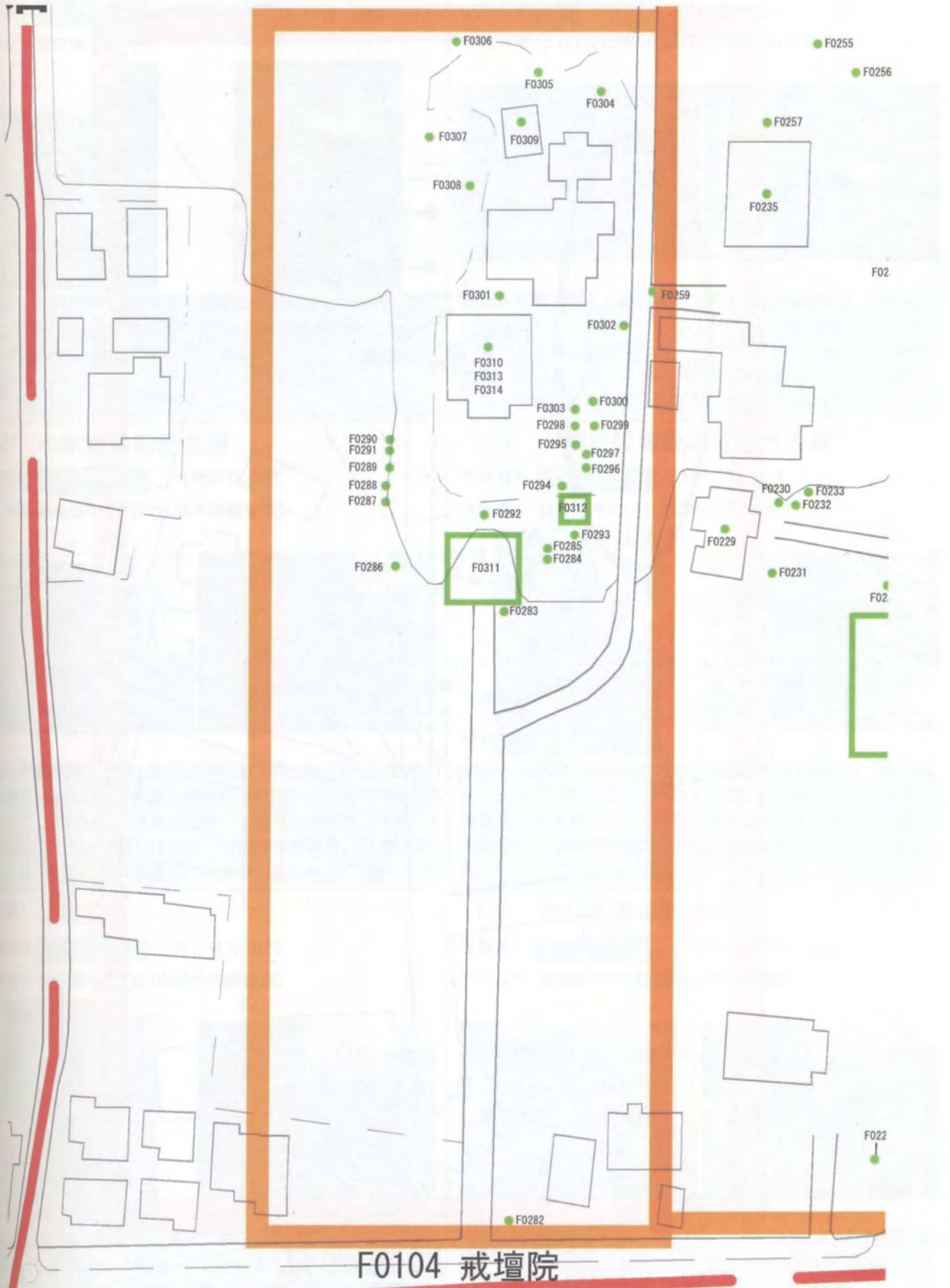


図 15. 観世音寺境内文化遺産配置図



F0104 戒壇院

图 16. 戒壇院境内文化遺産配置图

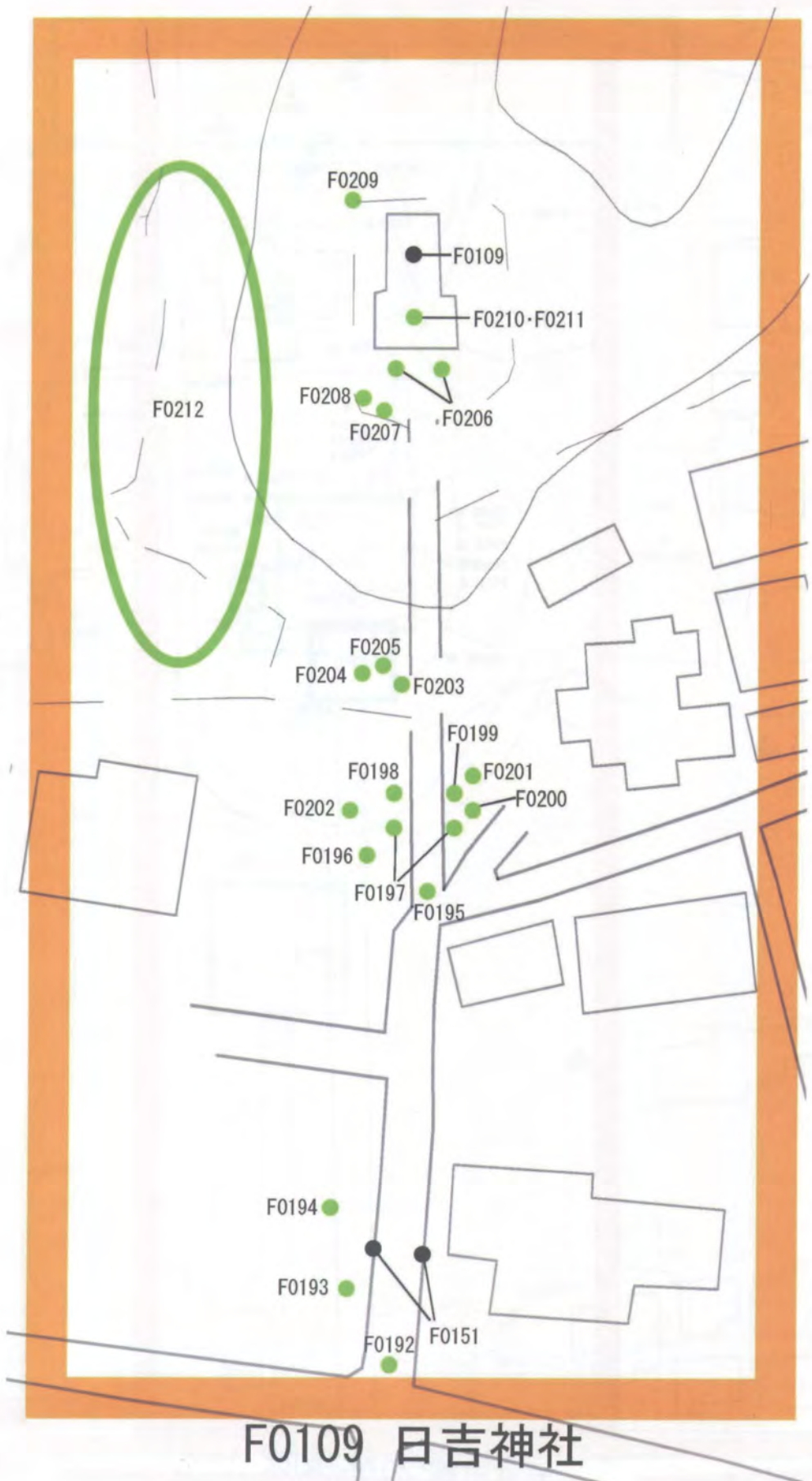


図 17. 日吉神社境内文化遺産配置図

## 名称 旧小字標石 松ヶ浦(まつがうら)

登録番号 F0123

時代区分 現代

所在場所 観世音寺4丁目



太宰府市が平成5年(1993)8月に建立した、旧小字を示す石標の1つ。現在も池の名前などに「松ヶ浦」の名が残っている。地名の由来については詳細不明である。

## 名称 サカモト道・車道

登録番号 F0145

時代区分 -

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)・坂本地区



坂本から四王寺山へ登る道として古来より利用されてきた。「大野城太宰府旧蹟全図北」では「サカモト道」と記され、「此スジ昔ノ大道也」と注記がある。大宰府が盛んな頃、府官や僧徒が車に駕して往来したため「車道(くるまみち)」と付けられたという伝承があり、現在も通称、車道と呼ばれている。

## 名称 小学校移転記念碑

登録番号 F0155

時代区分 近代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



水城小学校移転を記念して大正3(1914)年に建立された石碑。水城尋常小学校の校地校舎の増築計画に際して、多くの人々の寄付により実施出来た事を記念して水城村が建立したもの。台座には水城村長をはじめ、助役、学務委員、議員、書記、区長、使丁など功労者29名の氏名が刻まれている。

## 名称 小学校設備費寄付者芳名碑

登録番号 F0156

時代区分 近代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



水城小学校の設備に対する寄付者名と金額を書いた石碑。昭和3(1928)年7月に建立されたもので、高さ3m以上の大きな石の裏面には数多くの氏名が書かれている。題字は春日出身で日清戦争・日露戦争に従軍し活躍した陸軍中将白水淡によるもの。

## 名称 頌徳碑

登録番号 F0157

時代区分 近代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



柴田徳太郎の徳を顕彰するため、明治43(1910)年に建てられた石碑。柴田徳太郎は明治13(1880)年から明治42(1909)年までの29年間、水城小学校校長を勤めた人物。建立当初は松倉にあった水城尋常小学校に建てられ、大正3(1914)年の学校移転の際、共に移転したと考えられる。

## 名称 創立百周年記念碑

登録番号 F0158

時代区分 現代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



水城小学校の校庭にある大きな石碑で、水城小学校創立百周年を記念して昭和49(1974)年に建立されたものである。石碑正面の右下には制作に携わった人物として「揮毫 筑山 石工 矢ヶ部」の銘があり、書道家城戸筑山の書であることが分かる。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 土地寄贈碑

登録番号 F0159 時代区分-

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



水城小学校の校庭にある石碑で、創立百周年記念碑や頌徳碑と並ぶように位置している。表面には「一土地十坪」、裏面には「寄贈 武藤ユクノ」の銘があり、水城小学校に関連して土地が寄贈されたことを記念した石碑と考えられる。

名称 オクノタニ

登録番号 F0161 時代区分-

所在場所 大字坂本



地元の人々が呼称していた大石垣付近の地名の1つ。大石垣の上部東側を「オクノタニ」と呼んでいたという。「オクノタニ」は平たく奥まで続いていることに由来すると伝えられている。

名称 鳥居(坂本八幡神社)

登録番号 F0163 時代区分-

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する鳥居。高さ290cm程で、「八幡宮」の扁額が掲げられている。また、鳥居の片柱には「奉造立神門一基」の刻銘が残されている。

名称 関屋えびすさん祭り

登録番号 F0160 時代区分-

所在場所 坂本1丁目 関屋えびす堂



商売繁盛を願い毎年12月3日に行われる。前もって注連打が行い、新しい注連縄を恵比寿にかけている。夕方からの直会では地元の方々が参詣者へ御神酒や豚汁などを振舞い、接持を行っている。当番の自宅で接待を行っていたこともあったが、現在(平成24年)は外にテントを張り対応している。

名称 石幟(坂本八幡神社)

登録番号 F0162 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する二基一対の石幟。毎年10月第1土曜日に行われる宮座の前には、新しい注連縄が掛けられる。左右それぞれに刻銘が残されており、大正12(1923)年3月に建立されたことや、銘文の書が吉嗣鼓山によるものである事などが分かる。

名称 旗立石(坂本八幡神社)

登録番号 F0164 時代区分-

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社に所在した旗立石。本来は八幡神社入口の道路の上にあったもので、道路拡張の際に境内へと移設されていた。元の場所に基礎部分も残されていたが、平成24(2012)年の参道・石垣整備の時にどちらも撤去された。

## 名称 石燈籠(坂本八幡神社)

登録番号 F0165 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する石燈籠。高さ200cm程のもので、「八幡宮」の刻銘が残されている。現在も八幡神社の氏子が順番で、毎夕に灯明を上げている。

## 名称 道路更正碑

登録番号 F0166 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内にある道路延長を記念した石碑。大正10(1921)年に大裏道路、大正14(1925)年に花之屋敷道路が延長されたのを記念して建立されたものである。石碑には当時の区長や世話人の人々十数名の氏名が刻銘されている。

## 名称 猿田彦大神

登録番号 F0167 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する。高さ126cm・幅78cm・奥行50cm。残された刻銘から明治3(1870)年に建立されたことが分かる。現在は、同じ境内にある石燈籠に灯明を灯した氏子がお参りしている。

## 名称 寄附記念碑(坂本八幡神社)

登録番号 F0168 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する、高さ132cm・幅29cm・奥行23cm程の石碑。残されている刻銘から、金壺千円を寄附した武藤大次郎を記念して昭和9(1934)年7月に坂本区が建立したものであることが分かる。

## 名称 ガランさま(坂本八幡神社)

登録番号 F0169 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する高さが160cm程ある大石で、子供の守り神だと言われている。旧暦4~5月に行われる水神祭り「ダブリュウ」の際には、ガランさまにも御神酒を竹筒に入れて供えている。毎夕、石燈籠に灯明を灯した後、氏子の人々が御参りされている。

## 名称 石塔残欠

登録番号 F0170 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に残る石塔の残欠。境内の2ヶ所にあるが、由来など詳細は不明である。

## F 地区（観世音寺・坂本）

名称 **万葉歌碑 大伴旅人**(わが岡に…)

登録番号 **F0171** 時代区分 **現代**

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社境内)**



平成19(2007)年3月に建立された歌碑。奈良時代の歌人・大伴旅人の歌「わが岡に さ男鹿来鳴 秋萩の花爛問ひに 来鳴くさ男鹿(訳 私の住む岡に牡鹿が来て鳴いている。今年初めての萩の花が咲き、牡鹿がやってきて妻問いをしていることよ)」が記されている。揮毫者は城戸寛山。

名称 **潮井台(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0173** 時代区分 **近代**

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社境内)**



坂本八幡神社境内にある潮井台。身を清めるための潮井を置いた台で、地域によっては川水・湧水・砂などを用いて清めていた。台には「奉寄進」「明治三十四年三月吉日」の銘があり、1901年3月に寄進されたことが分かる。

名称 **本殿(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0175** 時代区分 **近代**

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社境内)**



本殿は幅93.9cm・奥行75.8cm・高さ144.8cmの規模で、花崗岩が用いられている。内部には木製宮殿が安置されており、応神天皇が祀られている。また、壁面に残された銘には、大正11(1922)年11月に改築されたことや当時の区長や世話人、寄附者や石工の氏名等が記されている。

名称 **手水鉢(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0172** 時代区分 -

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社境内)**



坂本八幡神社境内にある手洗い鉢。高さ83cm・幅83cm・奥行cm程のもので、近年に水道の蛇口が設置されている。

名称 **花立(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0174** 時代区分 **近代**

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社境内)**



坂本八幡神社拜殿前に位置する二基一対の花立。本体の高さが59cm、台座まで含める総高が121cm程ある。残されている銘から、地域の人々が伊勢参宮を記念して明治36(1903)年に奉献したものであることが分かる。

名称 **幟(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0176** 時代区分 **近代**

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社)**



明治時代に作られた神社幟を、平成18(2006)年に坂本八幡神社氏子会の人々で修復を実施。長い年月が経ち、ぼろぼろに破れていた幟に、裏打ちを施して修復している。大きいものは長さ9.8m、幅77cm程ある。現在は大小合わせて10数本が、大切に木箱に収納され保管されている。

名称 **神戻し(坂本八幡神社)**登録番号 **F0177** 時代区分 -所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社)**

子供や若者の行事として行われ一時途絶えていたが、昭和49年(1974)頃に坂本親和会により復興された。平成16(2004)年に氏子会を結成し氏子会主催、親和会協賛という形で続けられるようになった。月遅れの11月末の土曜夕刻に神事が行われ、氏子会や自治会をはじめ地域の人々で賑わっている。

名称 **注連打ち(坂本八幡神社)**登録番号 **F0179** 時代区分 -所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社)**

坂本八幡神社では宮座に先立ち、注連縄作りを行っている。藁を叩いて柔らかくし、小束に分けて、穂が左になるよう、ねじって作り上げていく。完成すると注連立て石などに留め付けるが、その際は奇数の縄でくくりつけるようにしているという。終了後には神社の本殿で直会を行っている。

名称 **薬師如来石像**登録番号 **F0181** 時代区分 現代所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**

オカッテンサン境内で祀られている薬師如来石像。お祀りしてある木造瓦葺の御堂は昭和50(1975)年11月に再建されたもの。元々は般度の滝にあったが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンでお祀りしている。

名称 **ムラの宮座(坂本八幡神社)**登録番号 **F0178** 時代区分 -所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社)**

坂本八幡神社では毎年10月1日にムラの宮座が行われていた。宮座は、まつりの座を設けて神を迎え、供物を献じ、神に伊えた供物を皆で頂き、その後に直会の宴を持つという行事。ムラの宮座は平成15(2003)年を境に途絶えており、現在は氏子会が主体として行っている。

名称 **龍神祠**登録番号 **F0180** 時代区分 現代所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**

オカッテンサン境内にある龍神祠。祠は昭和63(1988)年7月に再建されたもので、向かって右側に龍神、左側に不動明王が祀られている。元々は般度の滝にあったが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンでお祀りしている。

名称 **天龍祠**登録番号 **F0182** 時代区分 現代所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**

オカッテンサン境内にある天龍祠。木造瓦葺の御堂には、向かって右側に三宝荒神、左側に天龍が祀られている。元々は般度の滝で祀られていたものであるが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンでお祀りしている。



F 地区 (観世音寺・坂本)

名称 供養塔

登録番号 F0183 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



オカッテンサン境内にある供養塔で、文字は安岡栖遠の書。台座は坂本薬師堂にあった戌薬師の台座(地輪)を運んで使ったといわれている。周囲には計19体の石像が祀られているが、これは昭和48(1973)年の大水害で般度の滝から坂本新池へ流出した石像群を救い出して祀っているものである。

名称 万葉歌碑 山上憶良(しろがねも…)

登録番号 F0185 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



昭和63(1988)年2月に建立された歌碑。筑紫万葉歌壇の一人である山上憶良が詠んだ「しろがねもくがねも玉も何せむに優れる宝子にしかめやも」(訳 銀も金も珠玉も、子どもの愛に比べれば何になるうか。どんな秀れた宝も子どもには及ばない)の歌が刻まれている。

名称 般度の滝行堂表札(オカッテンサン)

登録番号 F0187 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



幅36cm・長さ153cm・厚さ3cm程の木製表札で、上部には掛け穴が設けてある。元々は般度の滝にあった行堂に掛けられていたものであるが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンに安置している。

名称 弘法大師堂

登録番号 F0184 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



木造瓦葺の御堂は平成13(2001)年3月に再建されたもので、内には自然石に彫られた高さ69cm程の弘法大師坐像が祀られている。御堂は筑紫四国一〇一番札所となっており、平成13年3月に作成された札所板が掲げられている。また、堂内には金刀比羅宮の木札も一緒に祀られている。

名称 石燈籠(オカッテンサン)

登録番号 F0186 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



オカッテンサン境内の供養塔碑そばにある石燈籠。幅38cm・行き38cm・高さ109cm程のもので、複数の石材が組み合わさっている。

名称 石垣改築之碑

登録番号 F0188 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



オカッテンサン境内にある石垣改築之碑。大正6(1917)年にカッテン原から現在地へとオカッテンサンを移転した際に行われた石垣改築を記念したものである。高さ88cm程の石柱には建立年月日である「大正六年十月」、当時の区長「太田久吉」や世話人の氏名などが刻まれている。

名称 **石燈籠(オカッテンサン)**

登録番号 **F0189** 時代区分-

所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**



オカッテンサン境内にある風防のついた燈籠。高さ107cm、最大幅38cm程のもので、基部には「奉獻」の文字が刻まれている。毎夕、氏子により当番で坂本八幡神社の石燈籠と恵比須像、そしてこの石燈籠に灯明が灯されている。

名称 **番帳による掃除番(オカッテンサン)**

登録番号 **F0190** 時代区分 近代

所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン)**



オカッテンサン付近の家々では御堂を集会所として使用しており、「オカッテンサマ」を大事にしている。当番は1週間、御堂内や境内を掃除して、次の家に交替している。当番に渡される番帳は戸主名が書かれた横50cm・縦20cm・厚さ1cm程の木版で、御堂の鍵も付けられている。

名称 **夏のヨド(オカッテンサン)**

登録番号 **F0191** 時代区分-

所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン)**



オカッテンサンの例祭は毎年7月13日。以前は女性と子供達(小学生)の行事で、前日12日オタイヤ(速夜)のオヨドが最も賑わった。近年は女性だけで昼間に行われている。平成19(2007)年は近隣の女性達が、がめの葉饅頭など様々な饅頭を手作りしてお供えし、1時間ほど御詠歌の唱和が行われた。

名称 **鳥居(日吉神社)**

登録番号 **F0192** 時代区分 近代

所在場所 **観世音寺5丁目(日吉神社境内)**



日吉神社参道の入口に位置する、花崗岩製の明神鳥居。左右の石柱にはそれぞれ刻銘が残されており、明治44(1911)年4月に建立されたことや、建立に尽力した区長原野百太郎・石工関藤吉・武藤小次郎など二十数名の氏名、書を吉嗣拝山が記したことなどが分かる。

名称 **庚申天**

登録番号 **F0193** 時代区分 近世

所在場所 **観世音寺5丁目(日吉神社参道沿い)**



日吉神社参道入口にある庚申天の石碑。石碑には「寛政四年壬申三月二十二日」の銘が残されており、1792年3月22日に建立されたことが分かる。台石は礎石の転用とみられる。

名称 **原野百太郎記念碑**

登録番号 **F0194** 時代区分 近代

所在場所 **観世音寺5丁目(日吉神社参道沿い)**



日吉神社の参道途中に位置する、原野百太郎の功績を記した碑。原野百太郎は、明治・大正期に村会議員、明治43(1910)年~大正6(1917)年には区長を務めるなどして活躍した人物。その功績を記念して、大正9(1920)年2月に建立されたものである。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 鳥居（日吉神社）

登録番号 F0195 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



参道途中に位置する花崗岩製の明神鳥居。江戸時代後期の文化3(1806)年10月に観世音寺村の氏が奉納したものである。また、残されている銘には観世音寺別当琳栄(りんえい)という人物も見え、当時の日吉神社が観世音寺の鎮守社であったことがうかがえる。

名称 石幟（日吉神社）

登録番号 F0197 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道途中にある石幟。昭和9(1934)年11月に建立されたものである。表面には刻銘が残されており、建立に尽力した十数名の氏名、書を、太宰府生まれの南画家であり「左手拝山」とも称される吉嗣拝山が記したこと等が分かる。

名称 石燈籠（日吉神社）

登録番号 F0199 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道の途中、右側に位置する石燈籠。左側に位置する享保15(1730)年に建立された燈籠と対をなすものだが、形状は大きく異なる。また、こちらの石燈籠には銘などは残されていない。

名称 勲八等吉塚寿人之碑

登録番号 F0196 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



吉塚寿人は、大正3(1914)年に陸軍工兵独立第4大隊第2中隊として中国山東省・青島など各地で戦闘に参加した人物。除病気療養のため帰郷するが大正4(1915)年に死去。石碑は神社への合祀を記念して、大正7(1918)年5月に建立されたのである。

名称 石燈籠（日吉神社）

登録番号 F0198 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道の途中、左側に位置する石燈籠。「享保十五年十一月廿五日」の刻銘が残されており、1730年に建立されたことが分かる。また、同じく残された銘から御原郡三瀬(現福岡県小郡市三沢)の人物が建立に寄与したことが分かる。

名称 石碑

登録番号 F0200 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道の石幟や燈籠のたもとにある石碑で、石幟などと共に注連繩がかけられている。塀側の面には梵字が刻まれており、『太宰府市史民俗資料編』によると「痘瘡の神様」という伝承があるという。

## 名称 軸穴のある石

登録番号 F0201 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道途中、階段下の右側にある石。中央部に軸穴のような穴があり、何らかの用途に用いられていたものと考えられる。

## 名称 神田碑(日吉神社)

登録番号 F0202 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道の途中、左側にある石碑。吉塚藤三郎が日吉神社に神田として三畝伍歩寄所を寄進したことを記念して、大正7(1918)年に建立されたものである。現在でも日吉神社氏がこの神田を受け継ぎ、耕地として貸し出すなどして神社の維持に充てているという。

## 名称 石燈籠(日吉神社)

登録番号 F0203 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道、階段途中にある石燈籠。この石燈籠と樹木を結んで注連縄が張ってあるのが特徴的である。また、以前は階段を挟んで反対側(拜殿に向かって右側)に位置していたが、近年に現在地(拜殿に向かって左側)へと移動している。

## 名称 五輪塔残欠

登録番号 F0204 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社の参道、階段途中にある五輪塔の残欠。その他の板碑群と共に一か所に所在しており、これらを祀るように石燈籠と樹木の間に注連縄が張られている。

## 名称 板碑

登録番号 F0205 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道の階段途中、本殿に向かって左側にある板碑群。由来など詳細は不明である。五輪塔残欠と共に一か所に所在しており、これらを祀るように石燈籠と樹木の間に注連縄が張られている。

## 名称 花立(日吉神社)

登録番号 F0206 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社拜殿前に位置する二基一対の花立。残された銘から昭和18(1943)年に奉獻されたものである事が分かる。正月には松竹梅が生けられ、お籠りや宮座、月に一度行われる清掃の際には柴が綺麗に生けられている。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 潮井台（日吉神社）

登録番号 F0207 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社境内の拝殿前に所在する潮井台。潮井台とは身を潔めるための潮水を置いた台で、地域によっては川水・湧水・砂などで深めていた。

名称 手洗鉢（日吉神社）

登録番号 F0208 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社境内の拝殿前に所在する手水鉢。手水鉢は神前で身をすすぎ、身を潔めるための水を確保するための器のことである。

名称 石碑

登録番号 F0209 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社本殿の後方に所在する石碑。表面には「元墓趾菩提」の銘が残されている。

名称 七夕籠り（日吉神社）

登録番号 F0210 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社）



太宰府一帯では7月7日に台風除けと稲の出穂祈願として七夕籠りが行われるが、日吉神社では月遅れの8月7日に行われている。神前に鯛・米・塩・野菜・果物を供えて、氏子会、地区区の住民、他参列者の順に拝礼を行っている。2008年より氏子会の主催となり、例年20～30人の参列がある。

名称 宮座（日吉神社）

登録番号 F0211 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社）



日吉神社では昔から神社で宮司を招いて行っている。米、酒、野菜、果物、鯛を神前にお供えて、玉串拝礼のあとに御神酒を頂く。その後、直会が行われ、上方、学業、安養寺、月山の各組が輪番で直会の座を担当している。現在は氏子会主催で行われており、例年20～30人が参加している。

名称 日吉神社経塚

登録番号 F0212 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社）



日吉神社境内では、経塚に埋納するために粘土板に經典を書写して焼いた瓦経が出土している。現在までに破片3点が確認されており、福岡市飯盛山出土瓦経と同じ1100年代頃のものと考えられている。近年における研究・発掘成果から、神社周辺でも瓦経を埋納した経塚の存在が推定されている。

名称 **拝殿(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0213** 時代区分 **近代**

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社境内)**



以前は茅葺屋根であったが落雷によって焼失し、昭和18(1943)年に再建され現在の姿になったという。拝殿内部には寛島秀山作のものをはじめとする数多くの絵馬が掲げられており、坂本の人々に土地神・産土神として崇拜され大切にされてきた、八幡神社の歴史がうかがえる。

名称 **横岳崇福寺(勝禅寺跡)庭園**

登録番号 **F0215** 時代区分 **中世**

所在場所 **白川 瑞雲寺境内**



山門を入れて左側、書院と茶室との前庭となっており、面積は約400㎡。曲水式池庭や滝石組及び護岸石組に室町期のものと見なされる様式が残されている。現在は瑞雲寺(ずいんじ)の境内地で、通常公開はしていない。

名称 **武藤経資(むとうつねすけ)供養塔**

登録番号 **F0217** 時代区分 **現代**

所在場所 **観世音寺4丁目**



大宰少式武藤会が平成3(1991)年5月に武藤経資の七百年遠忌として建立した供養塔。経資は鎌倉時代の幕府御家人で、筑前・筑後・豊前・肥前・肥後・対馬の守護職を務め、北九州の統治に当たった。元寇時には警固体制を整え、元の使者への対応や九州御家人の指揮、勲功配分や調査などを行っている。

名称 **横岳遺跡**

登録番号 **F0214** 時代区分 **中世**

所在場所 **観世音寺5丁目、6丁目、白川**



四王寺山から南へ派生する丘陵に挟まれた谷部分の横岳崇福寺跡に所在する遺跡。発掘調査では崇福寺跡および墳墓群や法堂跡など多くの遺構が検出され、特に五輪塔埋納遺構や掘立柱建物群は中世前期後半から中世後期にかけての葬送儀礼・建築史にとって重要な位置を占めるものと考えられる。

名称 **瑞雲塔(横岳崇福寺)**

登録番号 **F0216** 時代区分 **中世**

所在場所 **白川**



大応国師の分骨塔である「瑞雲塔」と伝えられる石塔。大応国師没後、延慶元(1308)年に弟子達により建長寺と崇福寺に分骨され、それぞれ「天源塔」「瑞雲塔」と称されたという。総高は133.6m、低卵形の塔身が蓮台にのっており、特徴から伝承に近い14世紀前半頃の造立と考えられている。

名称 **武藤経資(むとうつねすけ)顕彰碑**

登録番号 **F0218** 時代区分 **現代**

所在場所 **観世音寺4丁目**



大宰少式武藤会が平成3(1991)年5月に建立した武藤経資の顕彰碑。経資は鎌倉時代の幕府御家人で、元寇時には元の使者への対応や九州御家人の指揮、石築地の築造工事の統括、勲功配分などを行った。表面には漢詩が刻まれており、台座の石組は防塁をイメージしたものという。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 少貳資能(しょうにすけよし)顕彰碑

登録番号 F0219 時代区分 現代

所在場所 観世音寺4丁目



昭和56(1981)年の元寇700年祭時に建立された顕彰碑。少貳資能は鎌倉幕府の有力御家人で、幕府鎮西奉行を務め、元の使者への対応も行った。元寇直前に出家し家督を長男の経資に譲ったが、老齢の身ながら弘安の役にも出陣。その傷がもとで84才で死去したという。

名称 玄清法印墓所の御世話

登録番号 F0221 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目



玄清法印の墓所がある場所は個人の敷地であったが、後に玄清法印ゆかりの成就院へ寄進されたという。一帯は墓碑建立以前から土盛りをして木柱が建てられており、鳥居もあったという。日常の御世話は土地の寄進元宅が現在でも行っており、御飯をあげ、清掃をしている。

名称 松ヶ浦池からのトンネル導水

登録番号 F0223 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目



松ヶ浦池から東谷口川へと導水するために築かれたトンネルで、大正時代に宇美から炭坑夫の応援をあおいで完成したという。完成以来、水路として使用されていたが、昭和48(1973)年の水害で川底の高さが変わってしまい使用されなくなったという。

名称 観音像

登録番号 F0220 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目 玄清法印墓所



坂本に所在する玄清法印墓と並ぶようにして祀られている観音様。高さ102cm程の石造観音像である。隣接する玄清法印と同様にきれいに整えられ、大切に祀られている。

名称 番帳による灯明番

登録番号 F0222 時代区分 -

所在場所 坂本花屋敷地区



坂本八幡神社の氏子で毎夕、恵比寿・オカッテンサンの石燈籠・坂本八幡神社の石燈籠への灯明上げとオカッテンサンの掃除が行われている。灯明番は1日、掃除当番は1週間交替で当番しており、氏名等が記載された番帳札が回される。現在の番帳は昭和30(1955)年に引写したものである。

名称 寺号碑(観世音寺)

登録番号 F0224 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺入口に建つ高さ2.6mの寺号碑。大正3(1914)年4月に建立されたもので、碑面に記されている「観世音寺」の寺号は張堂大龍の揮毫によるもの。張堂大龍は福島県須賀川妙林寺の住職で、中尊寺金色堂標柱の揮毫をしたことで有名な人物である。

名称 **三十三観音碑(観世音寺)**

登録番号 **F0225** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(観世音寺境内)**



観世音寺の入口に所在する高さ115cm・幅36cm・奥行21cmの標石。石碑には「西国三拾三番、國中三拾三番、郡中三拾三番」と刻銘があり、三十三観音巡りにおける最後の札所を示している。建立年月日など詳細は不明だが、観音信仰の場としての観世音寺を示す貴重なものである。

名称 **石碑**

登録番号 **F0227** 時代区分 **近代**

所在場所 **観世音寺5丁目(観世音寺境内)**



観世音寺の祇園社跡に所在する石碑。大正8(1919)年3月に建立されたもので、太宰府町長を務めた古川勝隆が碑文を撰し、観世音寺住職であった石田琳樹師が揮毫。石碑の周辺一帯は明治期以降には竹藪となっており、「ギオンヤネ」と呼ばれていたという。

名称 **天智院(観世音寺)**

登録番号 **F0229** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(観世音寺境内)**



天智院は観世音寺の茶室で、太宰府天満宮にあったものを紀元2600年祝賀の後、観世音寺に移築したもの(昭和初期)。移築の際には、江戸期に発掘された水城の木樋が一部扁額等に使用されている。庭には宝篋印塔や長塚節や清原枅童らの歌碑、句碑が所在している。

名称 **観世音寺参道の大石**

登録番号 **F0226** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(観世音寺境内)**



観世音寺参道入口の左右に一個ずつ所在する大石。

名称 **南大門礎石(観世音寺)**

登録番号 **F0228** 時代区分 **古代**

所在場所 **観世音寺5丁目(観世音寺境内)**



本堂に向かって右側に2個、左側に6個の計8個が現存しており、中には柱を据えた円形の柱座が確認できる礎石もある。寺の伽藍は1辺が200m近くあったと考えられ、寺南側に位置するこの正門は瓦葺きの壮大なもので、左右から伽藍を囲い込む築地が延びていたと推定される。

名称 **宝篋印塔**

登録番号 **F0230** 時代区分 **近世**

所在場所 **観世音寺5丁目(観世音寺境内)**



天智院の庭に所在する宝篋印塔で上段四面には梵字が刻まれている。また、刻銘から観世音寺再建の年にあたる延宝8(1680)年に建立されたものと推定されている。



F 地区（観世音寺・坂本）

名称 安武九馬句碑(やすたけきゅうま)

登録番号 F0231 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



安武九馬は大正時代の川柳作家で、番傘川柳本社九州総局長として活躍した人物。各地の古刹や仏像をほとんど訪ね歩き、その時の思いを川柳に綴ったという。句碑は番傘川柳本社と各地の川柳作家有志により、昭和44(1969)年9月に建立されたもの。句「まほろばの鐘 天平の雲をよび 九馬」

名称 長塚節歌碑(ながつかたかし)

登録番号 F0233 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



長塚節は茨城県出身の小説家・歌人。結核治療のため九州大学へ入院し、観世音寺の石田琳樹師と親交をもち何度か寺を訪れた。碑には亡くなる半年前に詠んだ歌「手をあてて鐘はたふとき冷たさに 爪叩き聴くそのかそけきを」が刻まれている。昭和34(1959)年、福岡の歌人・片山百代が碑を建立。

名称 金堂(観世音寺)

登録番号 F0235 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



8世紀頃に創建されたが、再三の火災や暴風で創建当時の建物は灰燼に帰した。寛永7(1630)年頃の暴風雨で講堂が倒壊したため、藩主黒田忠之は金堂跡地に仮殿を建て仏像を安置した。後に講堂が再建されたため、改めて仮殿を金堂とした。現在、県指定文化財であり不動明王が祀られている。

名称 山崎斌歌碑(やまざきあきら)

登録番号 F0232 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



山崎斌は長野県出身で、島崎藤村に師事し小説家となる。「竹青」と号し短歌や俳句を作り、白秋や牧水とも親交があった。歌碑は昭和49(1974)年に太宰府天満宮近くの料亭月庵に建立したものを、平成9(1997)年に移設した。歌「葉なる遠の御門の趾どころ かんぜおん寺の鐘けさも鳴る」

名称 清原拐童句碑(きよはらかいどう)

登録番号 F0234 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



明治15(1882)年柳川生まれの清原拐童は「ホトトギス」同人として活動、九州・朝鮮・満州の俳人達の指導に尽力し、前野静雲・杉田久女など新鋭の俳人を輩出した。句碑は昭和33(1957)年、ホトトギス門下冬野同人の小原善々子らにより建立。句「露の道 観世音寺の鐘きこゆ 拐童」

名称 講堂・本堂(観世音寺)

登録番号 F0236 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



かつての伽藍は、再三の火災や暴風で失ったが、講堂は元禄元(1688)年に福岡藩主黒田忠之や博多の豪商天王寺屋浦了夢らによって再建。本尊は別名杵島観音像とも呼ばれる木造観音菩薩立像が祀られている。現在の平面規模は創建時の5分の2程度で、礎石が周辺に現存する。県指定文化財。

## 名称 夢清水

登録番号 F0237 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



昭和20～30(1945～1964)年代に区内の青年達が建造したものの、本堂横にあった井戸から地中樋を通して水の出る施設をつくり、夢清水として話題づくりをしたものであるという。屋根のある木造の覆屋と石造の井戸、五角形の井戸枠が現存している。

## 名称 五重塔心礎(観世音寺)

登録番号 F0239 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



心柱を据えていた礎石。高さ1m・径1.9mの大石の中央に、内径90cm・深さ20cmの柱穴が彫られている。創建時、心礎の周囲には高さ約1.5mの基壇があり、発掘調査の結果、15m四方の基壇であったことが分かった。貞観13(871)年の大風などで中破するも修復されたが、康平7(1064)年の大火で焼失した。

## 名称 清水記碑(せいすいきひ)

登録番号 F0241 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



安永5(1776)年、黒田藩士加藤一純が由緒あるこの地が荒廃していくのを嘆き、後世に永く伝えるため建立した石碑。観世音寺の山号「清水山」の由来となった講堂の北に湧き出る清水のことや『源氏物語』玉鬘の巻に「清水の御寺、観世音寺」と記されていることにも言及している。

## 名称 伝北門礎石(観世音寺)

登録番号 F0238 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する軸穴のある礎石。塔跡の南西に位置しており、直径30cm・深さ28cmの穴が中央部に残っている。

## 名称 五重塔跡(観世音寺)

登録番号 F0240 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



心礎の周囲の礎石9個と塔基壇の石列は、四天柱や側柱など、その他の柱の礎石の一部である。創建時には高さ約1.5m・15m四方の基壇があった。塔は康平7(1064)年に焼失後、再建されることはなかった。

## 名称 空屋素心大姉地藏菩薩

登録番号 F0242 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する地藏菩薩。江戸時代、観世音寺再建に尽力した博多の豪商天王寺屋浦了夢の妻を祀るものである。台石には「空屋素心大姉」の銘と供養の碑文が刻まれており、その上に頭部を欠く石造地藏菩薩像が鎮座している。

F 地区 (観世音寺・坂本)

名称 梵鐘(観世音寺)

登録番号 F0243 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



7世紀末頃に鑄造された日本最古の梵鐘の一つ。国宝。京都妙心寺の梵鐘(国宝)は兄弟鐘と言われる。二つの鐘の陽鑄銘と陰刻に北部九州の地名がある。寛永8(1631)年に暴風で仏殿が大破・廃寺寸前となり、藩命にて梵鐘も安楽寺(天満宮)に移されたが、神仏分離令により明治3(1870)年に復帰。

名称 玉石垣(観世音寺)

登録番号 F0245 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺に所在する玉石垣。現在は2本が残るのみである。昭和30(1955~1964)年代の宝蔵建設に伴って行われた境内の整備に関連するものではないかと考えられている。

名称 線刻地藏菩薩像

登録番号 F0247 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内にある線刻地藏菩薩像。写真右側のもので、「延命尊」「宿坊検校坊」の他に明和9(1772)年の紀年銘が残っている。

名称 軸穴のある礎石

登録番号 F0244 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺に所在する軸穴のある礎石。鐘楼付近の芝生上に設置している。奈良~平安時代の遺構とされる市の上(いちのえ)遺跡(現在の都府楼団地あたり)から出土したものといわれている。

名称 河野静雲句碑(こうのせいうん)

登録番号 F0246 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



河野静雲は太宰府在住で時宗僧の傍ら俳句を作りホトトギス派同人として活躍、句誌『冬野』を主宰した人物。昭和24(1949)年、大宰府政庁跡の東に仏心寺を創建し、昭和49(1974)年に87才で没する。句碑は昭和45(1970)年建立のもので「秋訪へば秋(秋)の心に観世音」の句が刻まれている。

名称 阿弥陀三尊梵字板碑

登録番号 F0248 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内にある梵字板碑。写真左側のもので、阿弥陀三尊の梵字が陰刻されている。

## 名称 石碑を利用した石橋

登録番号 F0249 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する石橋で、寄進された石碑4本を石橋に転用したものである。そのうち2本には銘が残っており、1つは水城村大字通古賀の世話人が寄進したもの、もう1つは京都市の女性が寄進したものであることが分かる。

## 名称 ノダフジ

登録番号 F0250 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内で見られるノダフジ。楠の木に絡みつくようにノダフジが巡っており、木の上部まで達している大変珍しい姿である。毎年5月の開花時期には、紫色の美しい花を咲かせている。

## 名称 天智塔

登録番号 F0251 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する石造九重塔。昭和30(1955~1964)年代に行われた観世音寺整備に尽力した博多の事業家・河内卯兵衛が、観世音寺ゆかりの天智天皇を記念して昭和36(1961)年に建立したものである。

## 名称 万葉歌碑 沙彌満誓(しらぬひ…)

登録番号 F0252 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



沙彌満誓(しゃみまんぜい)は奈良時代活躍の僧で、養老7(723)年より造観世音寺別当として来府し、多くの歌を残した。歌碑は昭和59(1984)年に福岡ロータリークラブが寄贈したもので、万葉集「しらぬひ筑紫の綿は身につけていまだは着ねど暖かに見ゆ」の歌が刻まれている。

## 名称 ナンキンハゼの林

登録番号 F0253 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内にあるナンキンハゼの林。昭和30(1955~1964)年代の整備で植えられたもので、現在は樹高10m以上に生育したのもみられる。紅葉した秋頃の風景は大変美しいものである。

## 名称 巨石

登録番号 F0254 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺の境内に2個の巨石がある。万葉歌碑のそばに位置している。その形から、礎石として使用されていたのではないかと考えられる。

F 地区 (観世音寺・坂本)

名称 石塔群

登録番号 F0255 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



講堂に向かって左側手前、モチノキのそばにある石塔群。全て南北朝以降、室町時代前後のもので、五輪塔の残欠、梵字や線刻が刻まれた板碑、羅漢像など計37基が集められている。これら石塔群は、ほとんどが墳墓の標識であったもので、後世に移転されたものだと考えられる。

名称 礎石

登録番号 F0257 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内、金堂の横にある礎石。詳細は不明である。

名称 庚申尊天

登録番号 F0259 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



寛保元(1741)年九月吉日に建立された太宰府市内で最古と言われている庚申塔。笠石の前面に瑞雲を伴った月と太陽が刻まれているのが特徴で、「日待ち・月待ち」といった民間信仰と庚申信仰が習合したものと考えられる。

名称 碾磑(てんがい)

登録番号 F0256 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



「天平の石臼」と伝えられている直径1m程ある大型の石臼。『日本書紀』によると、推古18(610)年に高句麗の僧曇徴がめて碾磑を造ったとされ、この石臼がその実物とも伝えられている。真偽のほどは定かではない。

名称 石燈籠(観世音寺)

登録番号 F0258 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する石燈籠。この石燈籠は一对で寄進されたもので、本堂前に一基、鐘楼前の楠の木の下に一基置かれている。上部には「観世音寺」、下部には「普明燈」と刻銘されている。

名称 坊主山

登録番号 F0260 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目



観世音寺境内に建つ収蔵庫から延びる木道沿いにある土盛り。高さ1.6m程の小高い土盛りで、坊主山と呼ばれていた。その位置や形状などから、何か埋蔵しているのではと推定されたが、発掘調査では遺構や出土物は確認されていない。

## 名称 猿澤池跡

登録番号 F0261 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内東北隅)



観世音寺5丁目にあった池の跡。観世音寺境内の東北隅にクスノキの木があるが、その根元付近が猿澤池跡である。1980年代頃まで付近の田圃への用水池として活用されていたという。現在は水は無く、跡地が広がるのみである。

## 名称 観世音寺伽藍絵図

登録番号 F0264 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



紙本彩色で、寸法は縦162.1cm・横164.3cm。左右に二枚、上下四段に、長方形の紙八枚をつぎ、朱と墨を主体にして大和絵と漢画の技法を織り交ぜて描かれている。失われた旧軸木の墨書写から大永6(1526)年に制作されたと推定される。その後、幾たびの修補を受けて今日に至っている。

## 名称 木造十一面観音立像

登録番号 F0266 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



像高498cmの巨像で、桧材の一木造。頭体部を通じて、正背面中央・側面中央で縦に矧いだ四材矧に内割を施している。両肩・両足等を別材で造り、寄木造に移る木取りの細かさを示す。右手は垂下し左手は水瓶を持っている。観世音寺を代表する巨像としてよく知られている。

## 名称 僧房跡(観世音寺)

登録番号 F0262 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺北側)



観世音寺で学ぶ僧達の宿舎である僧房の跡。規模は南北10m東西100m程で、内部は隔壁で仕切られ、居室に分けられていたと推定される。また、屋根のかかった廊下の馬道屋(めどうや)によって、観世音寺講堂と連結されていた可能性が指摘されている。礎石は復元の為に据えられたものである。

## 名称 木造不空羂索観音立像

登録番号 F0265 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺の巨像群の中でも最大の像高517cmで材は樟。大正3年の解体修理の際、胎内銘文及び心木等が発見された。それらによると康平7(1064)年の火災でも崩れず残っていたが、承久3(1221)年7月12日夜に突然に倒壊したので、翌年に清水寺妙見御前の樟を伐って木彫で再興したと記されている。

## 名称 木造十一面観音立像

登録番号 F0267 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺に現存する三体の十一面観音のうち一番新しい鎌倉時代作のもの。像高303cm、桧材の寄木造で(面部のみ樟)、体部両側を矧ぐ前後二材矧を基本とし、内割を施し、首部・両肩等をつける一木造風の古い寄木法である。鼻や目・唇等鎌倉時代の雄健な作風を表している。

F 地区 (観世音寺・坂本)

名称 木造十一面観音立像

登録番号 F0268 時代区分 古代・中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺の仏像群の中でも、変わった感じの菩薩で、おそらく客仏であったと考えられる。像高103cm、寄木造の直立した観音で全体に平安後期の繊細でおだやかな調子に造られているが、微妙な動きはなく、硬さが目立つ。平安時代末期、あるいは鎌倉時代の初期の像とみられる。

名称 木造馬頭観音立像

登録番号 F0270 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



寺伝によると大治年中(1126~1131)に大宰大貳経忠の誓願によって造立されたといわれる。像高503cmの桧材の寄木造で、頭部は三眼の忿怒形が四面あり、髻頂に馬頭をいただいている。平安時代にさかのぼる丈六の大作は唯一の遺例であり、12世紀の彫刻基準作として全国的に良く知られている。

名称 木造地藏菩薩半跏像

登録番号 F0272 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



像高123.6cm、樟の一木造である。頭体部は両肩まで一木で、膝前・両袖口、背面の一部は後補で別木で矧ぎついでいる。顔は伏目がちで鼻・唇も小振りであるが彫りが強く、すっきりした印象。全体にどっしりと構え古様な一木造の作風を伝えるが、印象から平安時代後期の造りと考えられる。

名称 木造観音菩薩坐像

登録番号 F0269 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



旧講堂の本尊は像高321cmの豊かな観音坐像であった。樟の一木造で、彫眼・漆箔の丈六坐像で、頭体部を通して縦四材に割り、内刳を施した後矧ぎ付け、両肩・膝前等を別材で矧ぎ付ける古い技法。穏やかではあるが張りのある顔をはじめとする特徴は平安後期の典型的彫刻である。

名称 木造四天王立像

登録番号 F0271 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



阿弥陀如来坐像の四隅に安置される四天王像。四軀とも樟の一木造で、頭体部通して一木、内刳し背板をつけ、肩・肘・手・袖を矧ぎ付ける基本的な造りで、二体ずつ対照に姿勢を反転した形で、康治2(1143)年の金堂火災にて前像が失われ、平安時代末期頃に再興されたものと考えられる。

名称 木造地藏菩薩立像

登録番号 F0273 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



像高136.3cm、もとは樟の一木造。顔は損傷がはなはだしく、右側はほとんど姿を止めていなかった。首部も朽ちて離れていたのを、大正期の修理で差首に改め全面的に補修されている。厚く重々しい衲衣、腰高で全体を静かな印象でまとめている。平安時代後期に造られたものと考えられる。

## 名称 木造毘沙門天立像(兜跋毘沙門天立像)

登録番号 F0274 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



兜跋毘沙門は、西域から伝わった王城国土の守護神。観世音寺像は、像高160cm、樟の一木造で、内刳がなく古様である。粘りを感じさせる丸味をおびた彫り方、重々しく力強い姿勢等、10世紀頃の制作と考えられる名品で群像の中でも最古のものとして際立っている。

## 名称 木造大黒天立像

登録番号 F0276 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺の大黒天立像は像高172cm、樟の一木造で、内刳のない丸彫りのまま足まで造ってあったが、両足は後補でつぎ足している。穏やかで軽やかな印象は、古い大黒天が、豊穡の神である大黒様に移りかわる過渡期のもので、平安時代後期の作品と考えられている。

## 名称 玄昉供養宝篋印塔

登録番号 F0278 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目



観世音寺の西北にあり、奈良時代の僧玄昉の墓と伝える。塔は自然石の片面を平坦にし、宝篋印塔を半肉に彫出したもので、塔高86cmを測る。基礎の上面に反花座を表現し、塔身には金剛界大日の種子(パン)を陰刻している。銘はなく造営時期の決定は困難であるが、14世紀中頃の建立と考えられる。

## 名称 木造吉祥天立像

登録番号 F0275 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



吉祥天は福祥を司る女神として奈良時代から造られ全国に数多く残る。本像は像高216cm、樟の寄木造で、頭部は前後二材で差首にし、体部は縦四材を矧ぎ、肩・袖・手・脊を寄せている。衣文が浅く、形も意匠化され、全体に温和にまとめ平安時代後期の作風を示している。

## 名称 観世音寺

登録番号 F0277 時代区分 -

所在場所 観世音寺



太宰府市中央部に位置する地名。四王寺山脈の南に位置し、御笠川が流れる。地名の由来は観世音寺があったことによる。

## 名称 玄昉墓入口の石柱

登録番号 F0279 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目



戒壇院北側に所在する玄昉墓への入口にある石柱。高さ55cm・幅39cm・奥行32cmの大きさで、以前は道側の方に文字らしき跡が見えていたが現在は判読不明である。



F 地区（観世音寺・坂本）

名称 玄昉の墓標石

登録番号 F0280

時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目



戒壇院北側に所在する玄昉墓の標石。高さ140cm程の石柱表面には「玄昉僧正之墳墓」などの刻銘がある。石柱は明治43（1910）年3月に建立されたもので、同年に観世音寺住職により玄昉墓及び参道の整備が行われたことに関連するものと考えられる。

名称 戒壇院碑（戒壇院）

登録番号 F0282

時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院参道）



県道76号線から戒壇院惣門へと向かう参道の入口に位置する石碑。表面には「戒壇院 日本三戒壇之一也」と刻まれている。

名称 西戒壇再興碑（戒壇院）

登録番号 F0284

時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院復興を記念して、明治39（1906）年3月に建立された石碑。近代における復興は、明治37（1904）年、聖武天皇・鑑真和尚の千百五十年忌を祈念し、戒壇院近代中興第一世博多聖福寺住職龍淵東瀛和尚が発願したのが始まりで、一般に浄財を募って復興し、戒徒一千余人の大授戒会が執行された。

名称 大乘妙典一字一石塔

登録番号 F0281

時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目



戒壇院北側に所在する玄昉墓にある大乘妙典一字一石塔。大乘妙典とは一般的に法華経をさし、法華経約7万字を1石に少しずつ書写して埋納した上に建立されたのが一字一石塔である。玄昉墓に所在するこの石塔は、高さ126.5cm・幅33.5cm・行き13.5cmである。

名称 結界石（戒壇院）

登録番号 F0283

時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院惣門前）



戒壇院入口である惣門前の右手に位置する結界石。石碑にある「不許葷酒肉入境内」の銘には「匂いの強い野菜や酒・肉を持ち込んだり、それらを飲食した人は境内に立ち入ることを許さない」という意味があり、厳しい修行中の僧侶の邪魔をしたり、寺内を騒がすことのないよう戒めたものである。

名称 日中不戦植樹の碑

登録番号 F0285

時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



盧溝橋事件32周年にあたる昭和44（1969）年に日中不戦を祈念して行われた植樹の記念碑。日本中国友好協会福岡支部により提案され、各界の有志が発起人となり植樹が行われた。刻まれている碑文には由来や植樹された白檀の樹について記されているが、残念ながら白檀の樹自体は現存していない。

## 名称 石塔群

登録番号 F0286 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内に所在する33個からなる石塔群。本来は戒壇院各所に所在していたと思われるが、平成6(1994)年頃に行われた戒壇院の修復にもない境内も整備され、石塔群も現在の1ヶ所にまとめられたという。

## 名称 板碑

登録番号 F0288 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内に所在する板碑。計4基が並列に位置しているが、由来など詳細は不明である。

## 名称 鑑真和尚供養五輪塔

登録番号 F0290 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



我が国に戒律を伝えた鑑真和尚の供養塔。宝篋印塔と並ぶようにして戒壇院境内に位置している。五輪塔の屋根型部分(火輪)には「開山大唐國」と陰刻されている。

## 名称 大西真応和尚墓

登録番号 F0287 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院住職を務めた大西真応和尚の墓。大西和尚は大分県大分市にある万寿寺で高崎山の猿に餌付けしたことで知られる人物で、昭和31(1956)年3月より戒壇院住職となり来住し、傷んだ寺院の修理などに尽力した。昭和62(1987)年12月26日、75歳にて入寂。

## 名称 天王寺屋浦了夢供養塔

登録番号 F0289 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院再建に尽くした博多の豪商天王寺屋浦了夢の供養塔。高さ約3.5mの砂岩製で、貞享2(1685)年に建立されたもの。建立当時は戒壇院境内の南東にあったことが東長寺文書の絵図から分かる。昭和61(1986)年に行われた石塔積み直しの際に、塔身の削り込みから舍利や文書等が発見された。

## 名称 宝篋印塔

登録番号 F0291 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



鑑真和尚供養塔である石造五輪塔と並ぶように位置する石造宝篋印塔(ほうきょういんとう)。塔身には観音像の浮き彫りが施されている。また、塔の裏側には銘が残されており、天明7(1787)年7月18日に山崎勝重によって奉納されたことが分かる。

F 地区 (観世音寺・坂本)

名称 石燈籠(戒壇院)

登録番号 F0292 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内のほぼ中央、本堂前に位置する石燈籠。中台には干支が彫刻されている。平成7(1995)年頃に寄進されたものであるという。

名称 手洗鉢(戒壇院)

登録番号 F0294 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内の鐘楼そばに所在する手水鉢。

名称 石造地蔵菩薩立像

登録番号 F0296 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内にある地蔵堂に安置されている石造地蔵菩薩立像。左手に宝珠をささげ、錫杖を右手に立てて持つ姿で、穏やかな面相と衣文の襷の丸みのある彫出が印象的である。また、台座正面の蓮華に陰刻銘が残されており、元禄11(1698)年、中興第四世運照律師の頃に造立されたことが分かる。

名称 石燈籠(戒壇院)

登録番号 F0293 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内の鐘楼そばに所在する石燈籠。複数の古い部材を組み合わせて建てられている。

名称 井戸(戒壇院)

登録番号 F0295 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内に所在する井戸。石積みで組み立てられ、上部には覆いが設けられている。

名称 石仏

登録番号 F0297 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内にある地蔵堂の横に安置されている石仏。3体が並ぶように祀られているが、由来などの詳細は不明である。

名称 **石臼**

登録番号 **F0298** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



戒壇院境内の1ヶ所にまとめられている石臼で計3個確認されている。それぞれの作成時期や用途など詳細は不明である。

名称 **軸穴のある丸石**

登録番号 **F0299** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



戒壇院に所在する軸穴のある丸石。中央にある大きな軸穴から何らかの用途に用いられていたものと推定されるが、由来などの詳細は不明である。

名称 **石臼**

登録番号 **F0300** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



戒壇院境内の庭に置かれている石臼。由来など詳細は不明である。

名称 **宝篋印塔**

登録番号 **F0301** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



戒壇院本堂の裏手に所在する石塔。複数の古い部材を集めて、宝篋印塔形に組み合わせられたものである。

名称 **結界石(戒壇院)**

登録番号 **F0302** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院東門前)**



戒壇院東側の入口にあたる東門(裏門)のそばに位置する結界石。結界石は寺域や修行場など宗教上特別の意味をもつ地域を示すために建てられた石で、この石碑も戒壇院境内と俗世と区切るために建立されたものと考えられる。

名称 **ボダイジュ**

登録番号 **F0303** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



東門のそばに植えられている菩提樹(ボダイジュ)で、奈良時代に鑑真和尚が唐から招来した種子を蒔いたといわれている。5月末から6月初めにかけて、とてもきれいな黄色い花を咲かせる。近年は花の季節になると樹下でリコーダーの演奏会なども開催されている。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 結界石（戒壇院）

登録番号 F0304 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院裏手に所在する結界石で、表面には「殺生禁断」などの文字が刻まれている。結界石は寺域や修行場など宗教上特別の意味をもつ地域を示すために建てられた石で、この石碑も戒壇院境内と俗世を区切るために建立されたものと考えられる。

名称 石塔残欠

登録番号 F0306 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院裏手にある池の北側に所在する石塔の残欠。由来など詳細は不明である。

名称 宝篋印塔

登録番号 F0308 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内にある茶室の南西方向に所在する宝篋印塔。由来など詳細は不明である。

名称 弁財天

登録番号 F0305 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院裏手にある池の傍に祠られている弁財天の石像。由来など詳細は不明である。

名称 池（戒壇院）

登録番号 F0307 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内の北側に所在する池。茶室の西方に位置している。

名称 茶室（戒壇院）

登録番号 F0309 時代区分

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



簡素ながら品格のある建物で、桁行き三間・梁行き二間の寄棟造り茅葺きである。昔は旧書院として離れと呼ばれていたという。また、書院と茶室の間にある継ぎの茶頭寮棟などは昭和40(1965)年頃の新築という。寺伝では聖福寺の仙厓好みの草庵であったと伝えられている。

名称 **本堂(戒壇院)**

登録番号 **F0310** 時代区分 **近世**

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



現本堂は五間四面の重層入母屋造りの構造で、盧舎那仏が鎮座する。寛文9(1669)年に黒田藩鎌田昌勝が三間四面のものを建立し、博多の豪商天王寺屋浦了夢が五間四面に改築したと伝えられてきたが、東長寺文書より寛保3(1743)年に三間四面の観音堂を増築したものと考えられている。

名称 **鐘楼(戒壇院)**

登録番号 **F0312** 時代区分 **近世**

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



戒壇院境内、本堂東南の木立中にある鐘楼。勾配をもつ石積基壇上に袴腰と縁を付けた入母屋本瓦葺の建物があり、小屋梁中央から梵鐘を吊り下げる。建築年代は棟札に記す宝永元(1704)年と推定されており、袴腰付鐘楼としては県内でも古例である。梵鐘と共に県指定文化財である。

名称 **戒壇院大般若祈祷会(だいはんにやきとうえ)・御施餼鬼供養(おせがきくよう)**

登録番号 **F0314** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院)**



毎年7月上旬に稲田の悪疫退散・病魔退散を祈願して行われる。戦前は2日間かけて行う程盛況であった。現在は、近隣からの僧侶20名程が戒壇院本堂に入室し、大般若祈祷会と御施餼鬼供養が行われる。参詣者は堂内で祈願を行い、貰い受けの御札を自宅の門口に貼り悪疫退散のお守りとしている。

名称 **山門礎石(戒壇院)**

登録番号 **F0311** 時代区分 **近世**

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院境内)**



戒壇院境内、本堂前に位置する礎石群。これら礎石は、元禄14(1701)年に建立された山門の礎石である。現在は礎石が名残をとどめるだけであるが、当時の山門の様子は『筑前名所図会』『筑前国続風土記附録』などに描かれている挿絵から知ることが出来る。

名称 **灌仏会(かんぶつえ・花まつり)(戒壇院)**

登録番号 **F0313** 時代区分 -

所在場所 **観世音寺5丁目(戒壇院)**



通称花まつりと呼ばれる灌仏会は、花御堂の中の金銅製の釈迦像に甘茶をかけお釈迦様の誕生を祝う行事。10年位前迄は5月8日頃(月遅れ)だったが、最近では子供達が春休み中の4月上旬に行われるようになった。子供達が一本ずつ持ち寄った花は、本堂前の花御堂をはじめ、屋根や竹筒に飾られる。

名称 **羅漢尊坐像**

登録番号 **F0315** 時代区分 **近世**

所在場所 **観世音寺(四王寺林道)**



かつて四王寺林道開設記念碑の横にあった坐像で、現在は文化財課にて保管。江戸時代建立の宝満山五百羅漢像群の1体で、寄進者名と百六十五番と彫られてあり、明治の廃仏毀釈に際して密かに四王寺山へ移されたと思われる。同類の仏像が宇美町障子伍本村に3体、炭焼原田に2体現存している。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 講堂跡(観世音寺)

登録番号 F0352 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺講堂跡に関して現存する礎石は16個で、そのうち旧位置を保持しているものは15個あり、現存の講堂基壇下に4個が存在する。また、創建時の講堂正面には一間おきに3ヶ所、階段が設けられていた事が調査により確認されている。

名称 木造観音菩薩立像

登録番号 F0353 時代区分

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



「杵島観音」とも呼ばれ、像高168.0cm、樟材の一木造で、世紀初頭前後の作と考えられる。胎内の墨書から大仏師良俊・俊頼らの作と分かる。頭部は太めの髻を結び、穏やかな顔立ちで、衣の折り目など柔らかに美しく整えられ藤原時代の特徴を示している。



坂本八幡神社の石灯籠



観世音寺境内の秋

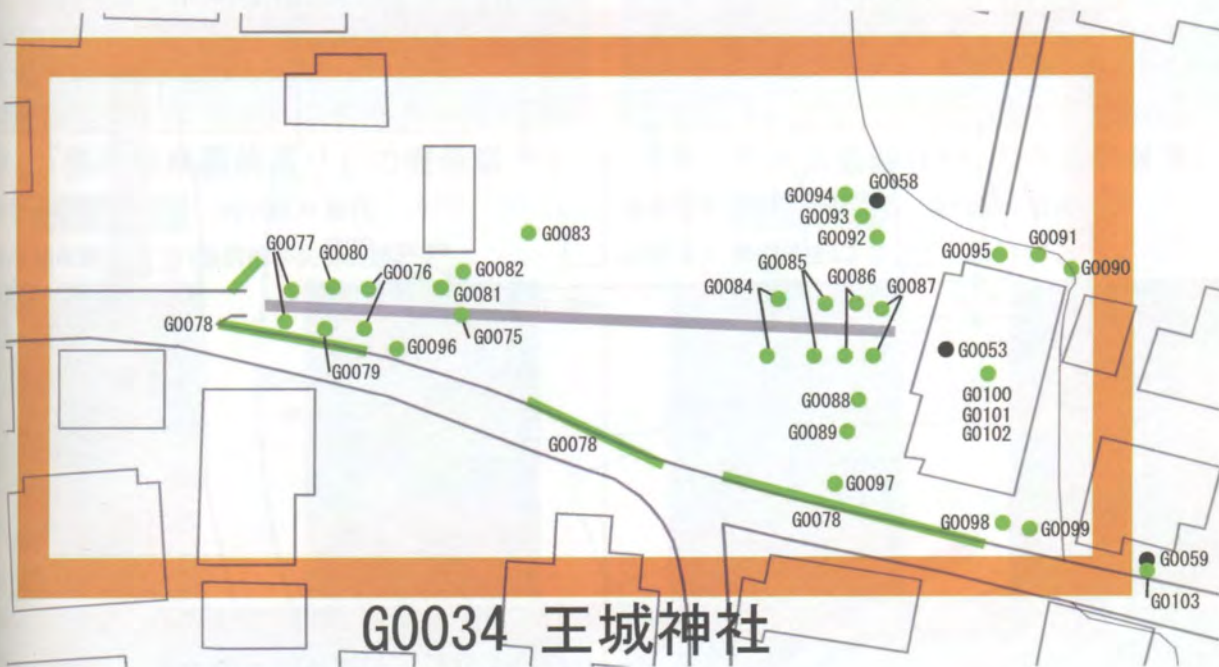






### G0007 薬師山

図 19. 薬師山文化遺産配置図



### G0034 王城神社

図 20. 王城神社境内文化遺産配置図

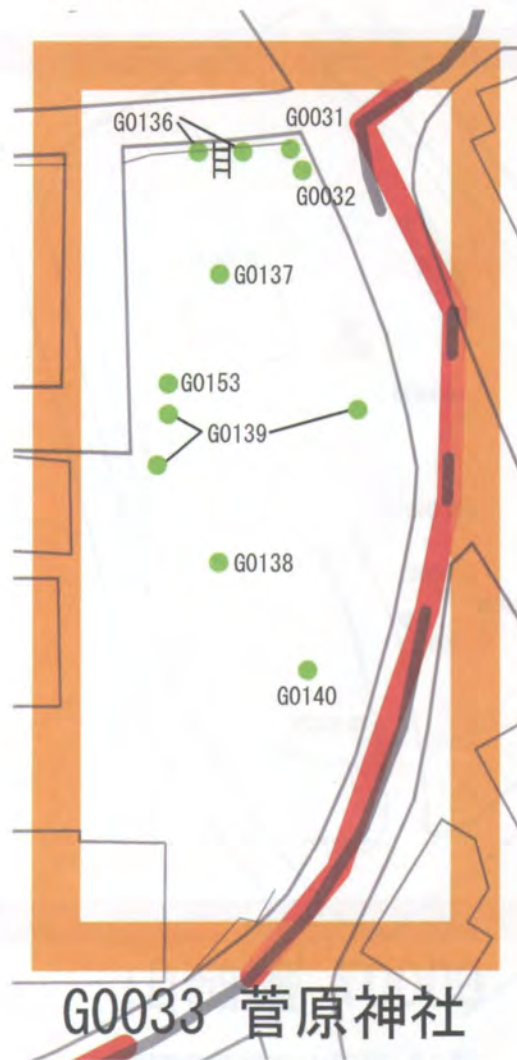


图 21. 菅原神社境内文化遺産配置図



图 22. 鹿嶋神社境内文化遺産配置図

名称 **鷺田川(さぎたがわ)**

登録番号 **G0014** 時代区分 -

所在場所 **通古賀3丁目ほか**



鷺田川は、筑紫野市二日市の迎田橋から太宰府市向佐野の御笠川との合流点までの区間、全長2km程の二級河川の名称。市内を流れる鷺田川は農業用水としても重要であり、川筋には多々良井手・赤岸井手・落合井手が設けられて流域の田畑へ水が引かれている。

名称 **野鳥のねぐら**

登録番号 **G0015** 時代区分 -

所在場所 **都府楼南2丁目**



都府楼2丁目の鷺田川沿いに位置する、こんもりと繁った森。夕方になると近隣の野鳥が集まり、ねぐらにしている。

名称 **市ノ上橋碑(いちのうえばしひ)**

登録番号 **G0016** 時代区分 近代

所在場所 **都府楼南2丁目**



市ノ上橋は通古賀と都府楼団地を結ぶ、鷺田川に架かる橋。この橋の架橋を記念して明治38(1905)年4月に建立された石碑で、橋の傍らに所在している。また、石碑には架橋に尽力したと考えられる陶山源七の名前も刻まれている。

名称 **鷺田川の鯉のたまり場**

登録番号 **G0017** 時代区分 現代

所在場所 **都府楼南2丁目(鷺田川)**



鷺田川に架かる市ノ上橋の下流約50mほどに位置する鯉のたまり場。子供達が稚魚を放流して大事に育てたもので、平成21(2009)年現在では大きく成長している。「魚を取らないように」の立札も立ててあり、地域で大切に守られている。

名称 **「都府楼南駅前通り」の表示塔**

登録番号 **G0018** 時代区分 現代

所在場所 **都府楼南3丁目(都府楼中央公園前)**



都府楼地区の大通りには「都府楼南駅前通り」の名称がついている。JR都府楼南駅前と都府楼中央公園前の2カ所には、この名称を表示するコンクリート製の塔が設置されている。

名称 **市ノ上遺跡(いちのうえいせき)**

登録番号 **G0019** 時代区分 古代

所在場所 **都府楼南4丁目**



発掘調査により奈良時代の土地を区画した溝や道路の跡、数棟の建物跡が発見された。このことから古代都市大宰府の範囲が、この地域まで広がっていたことが初めて明らかになった。さらに、中国製陶磁器や国産陶器等と共に、大変珍しい平安時代の木製人形が出土している。

G 地区（朱雀・通古賀・都府楼南・宰都）

名称 **イチヨウ・ケヤキの街路樹**

登録番号 **G0020** 時代区分 **現代**

所在場所 **都府楼南3丁目(都府楼南駅前通り)**



都府楼団地の造成時、福岡県住宅供給公社がメイン通りの両側に植樹して太宰府町に寄贈したもの。その後何度か植え替えが行われたが、現在はイチヨウやケヤキが主体となっている。春の新緑、秋の紅葉時期の光景は大素晴らしく、夏には街を歩く人々に涼しい木陰を与えてくれている。

名称 **毘沙門天祠**

登録番号 **G0061** 時代区分-

所在場所 **朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)**



鹿嶋神社境内にある毘沙門天祠。祠内には御神体として、木造毘沙門天立像・金銅塗観世音菩薩立像・金銅塗十一面観世音菩薩立像・木造不動尊立像が祀られている。近世の記録では「氏神 毘沙門天堂」とあり、村の氏神であったことがうかがえる。

名称 **梵字岩**

登録番号 **G0067** 時代区分-

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



薬師山にある高さ278cm程の自然石。表面には大きく梵字が刻まれており、下部には種子が6文字刻まれている。

名称 **漆川(うるしがわ)**

登録番号 **G0021** 時代区分 **現代**

所在場所 **都府楼南3丁目**



昔は畔の景色も素晴らしく、古歌にも詠まれた由緒ある川。平成21(2009)年現在は武蔵台高校方面から九州自動車道・鹿児島本線を横切り、都府楼団地を横断して鷺田川へと流れ込んでいる。都府楼団地を流れる区間のうち長さ216.5mは明渠となり、昔日の面影はない。

名称 **御笠運河跡**

登録番号 **G0066** 時代区分 **近世**

所在場所 **都府楼南2丁目(鷺田川)**



江戸時代に建設された、二日市の入船から博多の川端町までを結ぶ運河。後に廃止され、大野城市等では跡地も埋め戻された。流路であった鷺田川では生息する鯉の群れや鴨、コサギなどの水鳥の姿を見ることができ、秋にはコスモスが咲き乱れ、その美しい景観から憩いの散策コースとなっている。

名称 **梵字板碑**

登録番号 **G0068** 時代区分-

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



薬師山にある高さ112cm程の自然石。表面には大きく胎藏界の大日如来を表す梵字が刻まれている。

G 地区

名称 **法華塔**

登録番号 **G0069** 時代区分 **近世**

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



福岡藩第4代藩主黒田綱政に仕えた藩士陶山八之助促が、宝永8(1711)年に寄進したもの。法華塔に書かれた三文字は八之助促の筆によるもので、先祖であるという田中熊別に由縁する大野城(四王寺)に対面することを配慮して、北向きに立っていると伝えられる。

名称 **十三仏堂**

登録番号 **G0071** 時代区分 **近代**

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



薬師山に所在する。堂内には十三仏、弘法大師坐像、地蔵菩薩立像の計十五仏を祀っている。この他に、十三仏に関連する建設碑も所在している。これらは明治後期に建設されたもので、戦後に村中の有志の寄進によって改修が行われている。

名称 **石造弘法大師坐像**

登録番号 **G0073** 時代区分 -

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



薬師山で祀られている像高55cm程の石造弘法大師坐像。御堂に隣接するように安置されており、トタン葺きの屋根が覆っている。

名称 **薬師堂**

登録番号 **G0070** 時代区分 -

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



薬師山にある木造トタン葺きの薬師堂。堂内には、正面に薬師坐像、左に十面千手観音像、右に聖観世音像を祀っている。筑紫四国第九十番札所として、平成17(2005)年まで春と秋のお彼岸に千人詣りが行われていた。

名称 **地蔵堂**

登録番号 **G0072** 時代区分 -

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



薬師山に位置する地蔵堂。堂内には高さ72cm程の浮彫の自然石地蔵菩薩像と、高さ153cm程の石造地蔵菩薩立像が祀られている。このうち浮彫の自然石地蔵菩薩像は、王城神社境内にある早馬大明神の地蔵ともいわれている。

名称 **手押しポンプ**

登録番号 **G0074** 時代区分 -

所在場所 **通古賀1丁目(薬師山)**



薬師山に所在する手押しポンプ。井戸の上に置かれているが、現在は横に水道が引かれておりポンプ自体は使用されていない。

G 地区（朱雀・通古賀・都府楼南・宰都）

名称 鳥居(王城神社)

登録番号 G0075 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社参道入り口に位置する石造鳥居。氏子によって明治10(1877)年11月に寄進されたものである。

名称 石燈籠(王城神社)

登録番号 G0076 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある鳥居のすぐそばに位置する二基一対の石燈籠。高さ230cm程の大きさで、大正3(1914)年1月に奉獻されたものである。

名称 旗立石(王城神社)

登録番号 G0077 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある旗立石。村の人々によって明治7(1874)年に寄進されたものである。

名称 玉垣(王城神社)

登録番号 G0078 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある玉垣。玉垣とは、社・神殿・拝殿などの神域を区別するために境界として周囲にめぐらされたもの。現在、初老や古稀、還暦などを記念した高さ76cm前後のものが71基数えられる。

名称 石垣延長記念碑

登録番号 G0079 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内に建つ高さ80cm程の石碑。明治30(1897)年3月に建立されたもので、石垣を21間延長したことを記念したものである。

名称 旧小字標石 扇屋敷(おうぎやしき)

登録番号 G0080 時代区分 現代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



平成6(1994)年11月の住居表示により、消えゆく由緒ある小字名を残すために建立された石碑。石碑には漢数字の番号がつけられており、この碑には「廿九番」と刻まれている。地名の由来は、この地が国衙の跡、または長者屋敷の跡であったからなどといわれている。

名称 **多々良橋碑(たたらばしひ)**

登録番号 **G0081** 時代区分 **近代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内にある石碑。もとは明治38(1905)年4月、鷲田川に架けられた多々良橋につけられていた親柱。その後、昭和53(1978)年3月に河川改修の為に解体され、同年8月に王城神社参道に記念として置かれることとなった。

名称 **奉寄進碑**

登録番号 **G0082** 時代区分 **-**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内、多々良橋記念碑のそばにある石碑。64cmほどの高さで、碑面には「奉寄進」の銘が刻まれている。

名称 **旗立石(王城神社)**

登録番号 **G0083** 時代区分 **近代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内にある高さ119cmの旗立石。皇紀2600年(昭和15/1940年)を記念して青年会が寄進したもの。本来は一對のものだが、片方だけが現存している。

名称 **石燈籠(王城神社)**

登録番号 **G0084** 時代区分 **現代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内にある高さ206cm程の二基一對の石燈籠。昭和56(1981)年に再建された王城神社本殿の完成に併せて、同年5月に寄進されたものである。

名称 **石幟(王城神社)**

登録番号 **G0085** 時代区分 **近代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社拝殿前に所在する高さ3.8mの石幟。残されている銘から、昭和2(1927)年に建立されたものであることが分かる。

名称 **狛犬(王城神社)**

登録番号 **G0086** 時代区分 **近代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社拝殿前に所在する二基一對の狛犬。明治33(1900)年に蘭交社員・汎愛社員の方々によって寄進されたものである。また、製作を手掛けた石工は「福岡鍛冶町河内」と銘が刻まれている。

G 地区 (朱雀・通古賀・都府楼南・宰都)

名称 花立(王城神社)

登録番号 G0087 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社拝殿前に所在する高さ77cm程の花立。明治23(1890)年8月に寄進されたものである。

名称 手水鉢(王城神社)

登録番号 G0089 時代区分 近世

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社にある手水鉢。側面に残る銘から元禄15(1702)年9月、氏子によって寄進されたことがわかる。

名称 石燈籠(王城神社)

登録番号 G0091 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内の末社前にある石燈籠。明治23(1890)年に建立されたものだが、現在は半壊した状態である。

名称 潮井台(王城神社)

登録番号 G0088 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある高さ103cmの潮井台。潮井台とは、身を清めるための砂を置いた台のことで、砂を潮井として使い、水を清めた後に参詣に向かった。

名称 王城神社末社

登録番号 G0090 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



本社左奥にあり、縁起に「大神宮・田神・金比羅・早馬大明神の四神を祀る」とある。この内の早馬大明神は、『筑前国統風土記拾遺』には大樟の下に石鉢があり国衙につかえた田中熊別の後裔で、官道・駅路の駅を司った人の霊を祀ったものと記されているが、現在その所在は明らかではない。

名称 恵比寿神

登録番号 G0092 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内に所在する恵比寿神で、クスノキの大木の根元に祀られている。高さ66cm程の大きさで、表面の「えびす」の表記は「恵昆ノ頁(ニスイ+オオガイ)」と刻まれている。



名称 **恵比寿神**

登録番号 **G0093** 時代区分 **現代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内に所在する恵比寿神で、他の恵比寿神や猿田彦大神と共にクスノキの大木の根元に祀られている。昭和45(1970)年3月に建立されたもので、高さ140cm程の石に線刻でえびすが彫られている。

名称 **猿田彦大神**

登録番号 **G0094** 時代区分 -

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内に所在する石碑で、他の恵比寿神と共にクスノキの大木の根元に祀られている。高さ130cm程の大きさと、表面には「猿田彦大神」と刻まれ、注連縄が掛けられている。

名称 **板碑と五輪塔残欠**

登録番号 **G0095** 時代区分 -

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内の一角にまとめて安置されている板碑や五輪塔残欠群。それぞれの詳細な由来は不明であるが、なかには「昭和八年初老記念」と彫られたものも確認される。

名称 **鷺田川更正工事之碑**

登録番号 **G0096** 時代区分 **近代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社境内に所在する高さ155cm程の石碑。明治41(1908)年9月に行われた鷺田川の改修工事を記念したもので、村長・区長をはじめとする通古賀の人々によって建立されたものである。

名称 **井戸跡**

登録番号 **G0097** 時代区分 -

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**

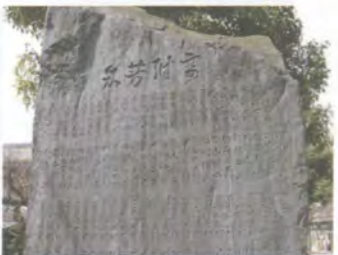


王城神社境内に所在する石造物。近隣の人々の間では昔の井戸跡だといわれている。大きさは幅99cm・奥99cm・高さ32cmで、側面には奉獻の銘が残されている。

名称 **神殿改築記念碑(王城神社)**

登録番号 **G0098** 時代区分 **近代**

所在場所 **通古賀5丁目 王城神社境内**



王城神社の神殿改築を記念した石碑。幅120cm・奥37cm・高さ254cmの大きさと、吉岡鼓山の書によるもの。大正15(1926)年7月に数多くの人々によって建立されたもので、石碑裏面には寄進者の氏名が書き綴られている。

G地区（朱雀・通古賀・都府楼南・宰都）

名称 田中橋碑

登録番号 G0099 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



明治38(1905)年4月鷺田川に架橋され、その記念として陶山巖により建立された。その後、橋の架け替えが行われたため、境内の現在地へと移された。幅27cm・奥26cm・高さ156cmの大きさで、石工は吉田友次郎と刻まれている。現在の田中橋は昭和60(1985)年3月に竣工している。

名称 宮座・真魚箸神事(まなぼししんじ)(王城神社)

登録番号 G0101 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社



真魚箸神事は神前で鯛に包丁を入れる儀式(座魚の儀式)で、王城神社の宮座で最も重要な儀式とされてきた。拝殿で2匹の鯛を真魚箸を使って調理しその後の直会で氏子に振る舞うもので、これには神様のお下りを頂く意が込められている。

名称 旗立石

登録番号 G0103 時代区分 現代

所在場所 通古賀5丁目 おうぎ館前



王城神社隣のおうぎ館前にある高さ147cm程の旗立石。明治百年を記念して、昭和43(1968)年7月に建立されたものである。また、台座には古代の礎石と思われる巨石が4つに割られて使用されている。

名称 大麻頒布式(たいまはんぷしき)祭(王城神社)

登録番号 G0100 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社



大麻は古くは「おおぬさ」と読み、祈りが込められる神札の大切な部分(麻串・ぬさくし)に由来する。毎年12月5日に大規模な頒布式が行われ、水城の十社の総代らが全て顔を揃え、伊勢神宮大麻と合わせ、太宰府天満宮と各神社の神札が氏子に頒布される。

名称 月次祭(水城地区の合同月次祭)

登録番号 G0102 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社



月次祭は社頭神事(祓神事)で、もとは「延喜式」神祇令に定められた祭礼。旧水城村には王城神社、老松神社、衣掛天満宮、国分天満宮、日吉神社、坂本八幡神社、鹿嶋神社、丸山神社、地祿神社、宝満宮・八幡宮の計十社があり、毎月1日に王城神社において月次祭を実施している。

名称 榎寺

登録番号 G0132 時代区分 -

所在場所 朱雀6丁目



太宰府市南部、菅原道真にゆかりの深い榎社が鎮座する地域の地名。榎社が安楽寺(太宰府天満宮)の末寺であった関係から、中世の安楽寺関連の古文書や記録に「榎寺」「榎木寺」の名を確認することができる。榎社は神幸式の御旅所となっており、当日は多くの人出で賑わう。

名称 晴明の井と祠

登録番号 G0134 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目



平安時代の陰陽師安部晴明が開いたと伝わり、涸れることなく、水を飲むと安産であるという信仰もあった。湧水量も多かったが、周りの竹藪が住宅地となり水量が減った。昭和40(1965~1974)年代までは井戸のほとりに湧水池もあったが、後に干上がり、梅雨時には水があるが、普段は涸れている。

名称 旗立石(菅原神社)

登録番号 G0136 時代区分 近代

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社にある一対の旗立石。村の氏子の人々によって明治21(1888)年に寄進されたもので、表面には「奉寄進」の銘が刻まれている。

名称 祠(菅原神社)

登録番号 G0138 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社に所在する祠。ブロック土台に木造トタン葺きの構造で、幅83cm・奥行80cm・高さ100cm程の大きさの祠である。内部には牛像らしき木像残欠がある。

名称 鹿嶋神社

登録番号 G0135 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社)



太宰府市朱雀4丁目に鎮座する神社。本殿は昭和13(1938)年、拝殿は20世紀中頃の建築である。現在(平成24年)も7月中旬には宮相撲が行われている。

名称 鳥居(菅原神社)

登録番号 G0137 時代区分 近代

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社参道の階段を登りきった場所にある石造鳥居で、大正10(1921)年4月に建立されたもの。書は吉岡鼓山によるもので、「天満宮」の扁額が掲げている。

名称 センダン

登録番号 G0139 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社境内にあるセンダン(梅檀)の木。境内に、合わせて3本生育している。センダンはムクロジ目センダン科の植物の一種で、温暖な地域で見られる落葉高木である。

G 地区 (朱雀・通古賀・都府楼南・宰都)

名称 ムクノキ

登録番号 G0140 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社境内にある棕(ムク)の木。本殿跡のそばに1本生育している。棕はニレ科ムクノキ属の落葉高木で、日本列島では関東地方以西の森林・山地に分布しており、菅原神社のように寺社地で見かけることも多い。また、毎年4~5月頃には美しい淡緑色の小さな花を咲かせる。

名称 五輪塔残欠

登録番号 G0142 時代区分-

所在場所 朱雀3丁目(榎納骨堂敷地内)



隈麿の墓祠の後方にある五輪塔残欠。高さ58cm程のもので、建立年代など詳細は不明である。

名称 般若寺跡(はんにゃじあと)

登録番号 G0144 時代区分 古代

所在場所 朱雀2丁目(般若寺跡)



般若寺は聖徳太子のことを記した『上宮聖徳法王帝説』の裏書に、筑紫大宰蘇我日向が白雉5(654)年に孝徳天皇の病氣平癒を祈って建立したと記されている。所在地や由緒など諸説ある。朱雀2丁目(旧宇名般若寺)一帯が比定地の一つとして考えられている。

名称 六弁の梅

登録番号 G0141 時代区分 現代

所在場所 朱雀3丁目(榎納骨堂敷地内)



隈麿の墓傍の梅の木。戦前は一斗五升の実が採れ、区が入札し収入とした程の大木で、六弁の花も数多くつけていたが、樹勢が衰え昭和30(1955~1964)年代に枯れたという。現在の梅は、墓のお世話をされている菊武氏が、先代の種から育て若木を植え直したものの。六弁の花を1割程度つけるという。

名称 菅原道真漢詩碑

登録番号 G0143 時代区分-

所在場所 朱雀3丁目(榎スポット公園内)



菅原道真が詠んだ「秋夜」(漢詩集「菅家後集」より)が記されている石碑。高さ101cm程の御影石に、漢詩を記した銅板が貼りつけてある。この漢詩は、901年道真と共に太宰府にやってきた幼子隈麿が、翌年病を得て急逝したため、道真がその落胆を著したものである。

名称 塔心礎石(般若寺跡)

登録番号 G0145 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(般若寺跡)



般若寺跡に所在する塔心礎石。心礎とは塔の心柱の礎石のことで、中心に柱を受ける座や孔のあるものが多くみられる。般若寺跡の心礎は幅140cm・奥行165cm・高さ51cm程の大きさがあり、中央には直径72cm・深さ15cmの彫りこみが確認できる。

## 名称 般若寺(はんにゃじ)

登録番号 G0146 時代区分 -

所在場所 朱雀2丁目



太宰府市の地名の1つ。古代寺院の般若寺があったとされる地域で、現在も塔心礎石や七重石塔が所在している。大宰府政庁から南南東へ約1.3kmの丘陵地域であり、古代は大宰府を一望できる地であったと考えられる。現在は西鉄二日市駅に近い利便性から一帯は住宅地となっている。

## 名称 鳥居(鹿嶋神社)

登録番号 G0148 時代区分 近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社の参道に位置する鳥居。大正8(1919)年9月に氏子から寄進されたものである。

## 名称 石燈籠(鹿嶋神社)

登録番号 G0150 時代区分 近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内にある石燈籠。昭和17(1942)年5月に奉獻されたもので、本殿に向かって右220cm、左225cmの高さである。建立以後、度重なる修理を受けながら現在(平成24年)に至る。

## 名称 旗立石(鹿嶋神社)

登録番号 G0147 時代区分 近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社参道)



鹿嶋神社の参道入り口にある旗立石。大正10(1921)年3月に氏子から寄進されたものである。

## 名称 板碑と五輪塔残欠

登録番号 G0149 時代区分 -

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内には板碑や五輪塔残欠と思われるものが多数祀られている。表面は磨耗しており銘文などは判別出来ず、それぞれの由来など詳細は不明である。

## 名称 御大典記念碑

登録番号 G0151 時代区分 近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内にある高さ70cm程の御大典記念碑。御大典とは天皇即位の儀式を意味しており、この石碑は昭和3(1928)年に行われた昭和天皇即位を記念して、氏子により建立されたものである。

G 地区 (朱雀・通古賀・都府楼南・宰都)

名称 イチョウ

登録番号 G0152 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社の拝殿脇に位置するイチョウの木。『太宰府市景観樹木調査報告書』によると樹高は17.70m・周囲2.32mの大きさである。毎年晩秋になると黄色く色づいて神社境内を彩り、遠くからも認められ、鹿嶋神社の秋を演出している。

名称 献木碑

登録番号 G0154 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内に所在する献木碑。石碑の表面には「献木 けやき 大正五年」の銘があり、裏面には「昭和五十二年建之 献木者 八十三才翁 菊武賢太郎」と銘が彫られている。

名称 台座・旗立石残欠

登録番号 G0153 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社境内にあるセンダンの木の根元には、台座や旗立石の残欠が1ヶ所にまとめられている。もともとは菅原神社境内に所在していたものと思われ、台座残欠には「奉寄進」、旗立石残欠には「明治三歳」の銘が確認される。

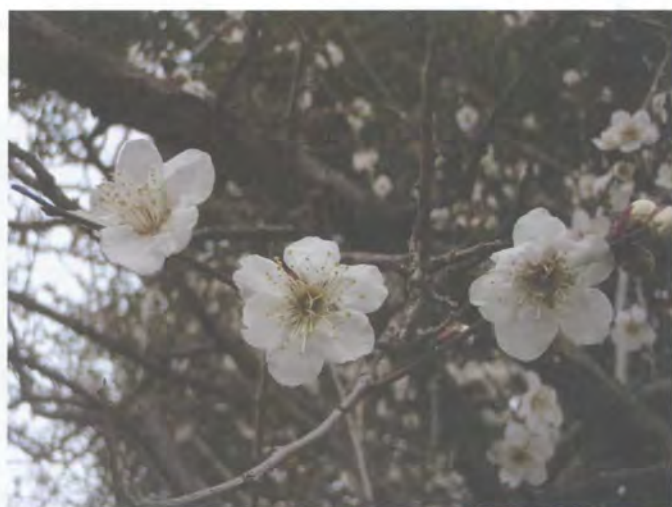
名称 手水鉢(鹿嶋神社)

登録番号 G0155 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社の拝殿前に所在する手水鉢で、中は長方形に彫られている。銘などは確認できず、由来など詳細は不明である。



隈廬公の墓(奥都城)と六弁の梅



# H地区① (吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野)

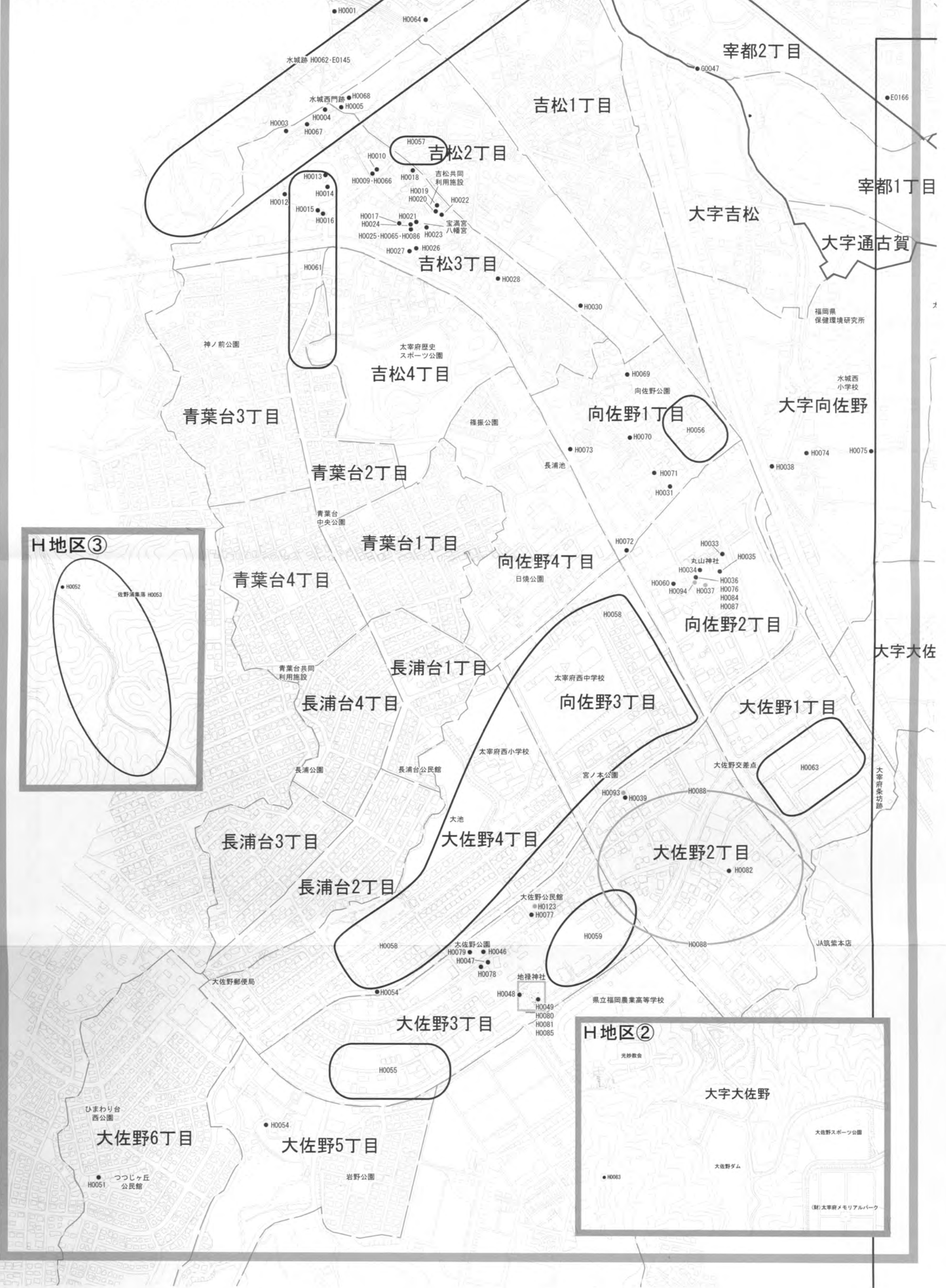


図 23. H地区文化遺産位置図 - 85-86 -



### H0049地祿神社

図 24. 地祿神社境内文化遺産配置図



H地区（吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野）

名称 千手観音堂

登録番号 H0037

時代区分-

所在場所 向佐野2丁目(丸山神社境内)



千手観音と伝えられている石造十一面観音坐像、石造阿彌陀如来坐像、自然石の3体が祀られている。昔は観音講が行われており、札打ちの打ち始め所や安産祈願の神として賑わったという。御堂は昭和42(1967)年に寄進されたもので、平成15(2003)年の工事に際して解体移築を行っている。

名称 猿田彦大神

登録番号 H0093

時代区分-

所在場所 大佐野2丁目



大佐野2丁目に所在する大日如来堂の横で祀られている猿田彦大神。高さ112cm程で、正面左横には銘が残されている。大佐野には6体の庚申様(猿田彦大神)の石碑があったといわれ、この碑は字馬場で祀られていたものである。平成11(1999)年、区画整理に際して現在地へと移されている。

名称 鳥居(地祿神社)

登録番号 H0095

時代区分 近代

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社境内に所在する石造鳥居。刻銘から明治9(1876)年に村民が協力して建立したものであることが分かる。平成14(2002)年、区画整理に伴い、当初の位置から現在地へと移設されている。

名称 おこうじんさま(おこうしんさま)

登録番号 H0088

時代区分-

所在場所 大佐野2丁目



大佐野で行われている庚申講。かつては大佐野の各組で行われていたが、平成22(2010)年現在は大佐野2丁目地区の7軒で行われているのみである。庚申の日に当番の家に集まり、庚申の掛け軸を掛け参拝した後、宴を始める。宴が終わった後、次の当番への申し送りを行っている。

名称 本殿(丸山神社)

登録番号 H0094

時代区分 近代

所在場所 向佐野2丁目(丸山神社境内)



向佐野の産土神である丸山神社の本殿は幅・奥行が約1m程の正方形、高さが約2m程の石祠である。北北東に面して建つ祠の背面には「明治二十三年庚寅八月吉日建築 氏子中」の銘文が刻まれており、明治23(1890)年に氏子によって建立されたことが分かる。

名称 本殿の囲い(地祿神社)

登録番号 H0096

時代区分 近代

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社本殿の周囲には明治38(1905)年11月に奉獻された玉垣が巡らされていたが、区画整理に伴う改築の際に失われてしまい玉垣は現存していない。現在、本殿は玉垣に代わり、金属製のフェンスで囲われている。

名称 **花立(地祿神社)**

登録番号 **H0097** 時代区分 **一**

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社本殿前にある二基一対の石製の花立。本殿東側のものには「献」、西側のものには「奉」の銘が刻まれている。

名称 **狛犬(地祿神社)**

登録番号 **H0098** 時代区分 **一**

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社拜殿前に位置する二基一対の狛犬。台座には大きく「奉献」の銘があるが、その他にも刻銘が残っており、大佐野に住んでいた古川氏が昭和14(1939)年12月に寄進したものであることが分かる。

名称 **忠魂碑**

登録番号 **H0099** 時代区分 **現代**

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



神社境内に所在する忠魂碑。第二次世界大戦で戦没された方々の冥福を祈念し遺徳を後世に伝えるため、昭和55(1980)年に大佐野区によって建立されたもの。碑文の書は太宰府天満宮で神職を勤めた御田水月(御田良清)によるものである。

名称 **石幟(地祿神社)**

登録番号 **H0100** 時代区分 **近代**

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社参道に位置する石製の幟。右柱には「神威輝四海 社堂 鶴崎尚 石工 久門堂一二」、左柱には「皇徳普万民 祝六一歳小島長吉 昭和三年十月建之」の銘が記されており、昭和3(1928)年10月に建立されたものであることが分かる。

名称 **村社昇格記念碑(地祿神社)**

登録番号 **H0101** 時代区分 **近代**

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社境内に所在する石碑。無格社から村社への昇格を記念して、地元区長をはじめ古川氏・宮原氏によって昭和3(1928)年10月に建立されたことが分かり、境内の石幟と同時期に建立されたものである。

名称 **石燈籠(地祿神社)**

登録番号 **H0102** 時代区分 **近代**

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社拜殿前、参道に沿うように位置している二基一対の石製の燈籠。残された刻銘から、昭和3(1928)年吉日に村山氏が寄進したものであることが分かる。

H地区（吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野）

名称 石垣階段寄進碑(地祿神社)

登録番号 H0103 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社境内に所在する自然石を利用した寄進記念碑。残されている刻銘から、宮原氏が地祿神社へ石垣階段を寄進したことを記念して建立されたものであることが分かる。

名称 石垣階段寄進碑(地祿神社)

登録番号 H0104 時代区分 近代

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社本殿へ登る階段脇に所在する石碑。花崗岩製の四角柱だが上部が欠落してしまっている。残されている刻銘から、大正15(1926)年12月に宮原氏・庄山氏が地祿神社へ石垣階段を寄進したことを記念して建立されたものであることが分かる。

名称 ムクの大木

登録番号 H0105 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社境内にあるムクの大木。幹周りが2.3m(2011年3月計測)程ある大きなものだが、落雷によって幹の途中から割れている。

名称 旗立石(地祿神社)

登録番号 H0106 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社境内にある石造鳥居の前面に、二基一対で建立されている旗立石。自然石を加工したもので、「奉寄進」の刻銘が現在でも読み取れる。

名称 狛犬(地祿神社)

登録番号 H0107 時代区分 現代

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社鳥居の前面に所在する狛犬。個人の旭日小綬章受章を記念して、平成19(2007)年に建立・寄進されたものである。

名称 手水鉢(地祿神社)

登録番号 H0108 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社境内にある自然石を加工して造られた手水鉢。銘などは確認できない。現在は新しい手水鉢が設けられたため使用されていない。

名称 **手水鉢(地祿神社)**

登録番号 **H0109** 時代区分 一

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社境内に所在する手水鉢。自然石を加工したもので、覆屋が設けられている。この新しい手水鉢は、大佐野在住の官原氏の寄進によるもので、手水鉢の傍らには銘が刻まれた石碑が建立されている。

名称 **猿田彦大神**

登録番号 **H0111** 時代区分 一

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社境内で祀られている猿田彦大神。高さ115cm程の自然石で、正面左にも銘が残されている。

名称 **金毘羅社**

登録番号 **H0113** 時代区分 一

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社本殿西側に所在する金毘羅社。『筑前国続風土記附録』や『福岡縣地理全誌』には末社として「金毘羅社」が記されている。石製の祠内には木祠があり、金毘羅社の木札が納められている。また、祠内には小さな恵比寿像も併せて祀られている。

名称 **拝殿の絵馬(地祿神社)**

登録番号 **H0110** 時代区分 近現代

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社拝殿内)**



かつて地祿神社拝殿には色彩豊かな22枚の絵馬が掛けられていた。現在も拝殿内部には明治10(1877)年、大正13(1924)年に奉納されたものが掲げられている。また、明治45(1912)年に行われた御国札打(集団で巡礼)を記念して撮影された写真なども掲げられている。

名称 **恵比寿社**

登録番号 **H0112** 時代区分 一

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社本殿東側に所在する恵比寿社で、地祿神社の末社ともいわれている。石製の祠は高さ43cm・間口41cm程の大きさで、内部には御神体として自然石が祀られている。

名称 **龍様**

登録番号 **H0114** 時代区分 一

所在場所 **大佐野3丁目(地祿神社境内)**



地祿神社本殿西側に位置する石祠で、地区の方々には「龍様」と呼んでお祀りしている。以前は聖観音堂と共に個人宅敷地にあったが、区画整理により、平成15(2003)年に現在地に移転。気性の荒い神様という言い伝えがあり、移転の際は官司が白布で丁寧に包み、背負って移動させたという。

H地区（吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野）

名称 潮井台(地祿神社)

登録番号 H0115 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社境内)



地祿神社境内に位置する潮井台。以前は年に2回、箱崎の浜や天拝山へタライを持って「お潮井」を採りに行き、地祿神社に奉納していた。その後、地域の各家を回り、玄関先に置いてある手籠に入れていき、家人は外出する際にお潮井を身体にかけて出かけていたという。

名称 秋籠り(地祿神社)

登録番号 H0116 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祿神社)



台風の時期も終わり収穫の目処がついたことを祝う御願成就の神事として行われている神事。官司による御祓いの後、祝詞をあげ、神事終了後には拝殿にて直会を行っている。これらの神事は氏子会が担っており、平成21(2009)年時は41名で構成されている。

名称 『大佐野区の歴史』-白石徳美氏の寄稿-

登録番号 H0123 時代区分 現代

所在場所 大佐野2丁目



故白石徳美氏が90歳の時、大佐野区の見聞録(月刊大佐野区だより)に平成14(2002)年12月号から7回にわたって寄稿されたもの。当時の区長の依頼で書かれたもので、昔の様子、伝統行事、開発による移り変わりなど大佐野区に関する様々な事柄が分かる貴重な記録である。



# I 地区 (四王寺山)

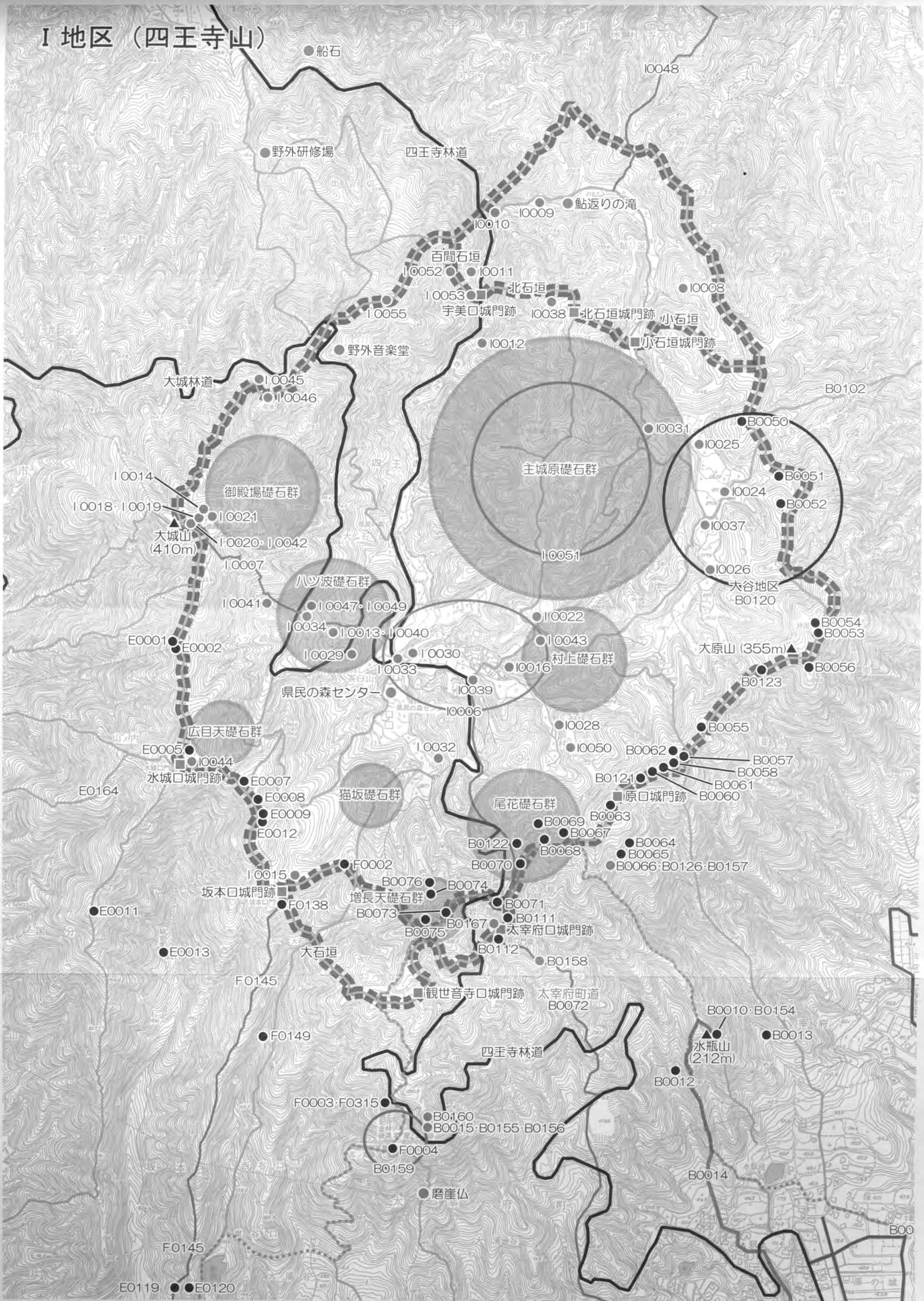


図 25. I 地区文化遺産位置図 - 93・94 -

名称 **四王寺村**

登録番号 **I0006** 時代区分 **近世**

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**



江戸時代に開拓が進み『筑前国続風土記拾遺』には「正保四(1647)年より漸田圃を開き、民屋を立て村の名とせり」とある。昔からのたたずまいを残しており、特に主城原の下に広がる一帯は古代大野城時代からの面影を伝えてくれる。毎年1月3日の「毘沙門天詣り」は住民をあげて運営されている。

名称 **四王寺山三十三石仏 第19番札所**

登録番号 **I0008** 時代区分 **近世**

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**



四王寺山三十三石仏の第19番札所は、小石垣の北西に位置している。高さ75cm程の凝灰岩に千手観音菩薩立像が彫られており、刻銘から江戸時代の寛永17(1640)年に宇美の人により建立されたことがわかる。

名称 **四王寺山三十三石仏 第21番札所**

登録番号 **I0010** 時代区分 **-**

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 屏風岩)**



四王寺山三十三石仏の第21番札所は、四王寺山北部にある屏風岩の近くに位置している。高さ75cm程の花崗岩に聖観音菩薩立像が刻まれており、刻銘から太宰府の人により建立されたことがわかる。

名称 **毘沙門堂への道**

登録番号 **I0007** 時代区分 **-**

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)・太宰府市・大野城市**



四王院の跡地の1つである「毘沙門」には毘沙門天を祀る御堂があり、古来より毘沙門天詣りの人々で賑わった。毘沙門天へは太宰府・坂本・国分・水城・大野城・宇美など周辺から道が通じており、太宰府口から四王寺村へ至る旧太宰府町道の途中には「毘沙門天」扁額のある鳥居が建立されている。

名称 **四王寺山三十三石仏 第20番札所**

登録番号 **I0009** 時代区分 **-**

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 鮎返り滝)**



四王寺山三十三石仏の第20番札所は四王寺山北部の鮎返りの滝にあり、三宝荒神が祀られている。岩屋城合戦の死者を弔うため久留米地方の信者が建立したといわれている。滝の上部には千手千眼観音菩薩坐像が祀られており、三十三石仏建立時はこちらが第20番札所だったのではと考えられている。

名称 **四王寺山三十三石仏 第22番札所**

登録番号 **I0011** 時代区分 **-**

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 百間石垣)**



四王寺山三十三石仏の第22番札所は、四王寺山北部にある百間石垣のそばに位置している。高さ77cm程の花崗岩に十一面千手千眼観音菩薩立像が彫られており、刻銘から上須恵の人により建立されたことがわかる。現在も常にお花やお酒が供えられ、信仰の対象としてお参りする人が絶えない。

I 地区 (四王寺山)

名称 四王寺山三十三石仏 第23番札所

登録番号 I0012 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第23番札所は、四王寺山北部の四王寺林道沿いに位置している。高さ73cm程の花崗岩に十一面千手千眼観音菩薩立像が彫られており、刻銘から宰府の古川孫次をはじめとする人々によって建立されたものと分かる。

名称 四王寺山三十三石仏 第24番札所

登録番号 I0013 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 八ツ波礎石群)



四王寺山三十三石仏の第24番札所は、四王寺山西部にある八ツ波礎石群の近くに位置している。高さ78cm程の花崗岩に十一面千手千眼観音菩薩立像が彫られており、刻銘から宰府の人により建立されたことがわかる。

名称 四王寺山三十三石仏 第25番札所

登録番号 I0014 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



四王寺山三十三石仏の第25番札所は、四王寺山西部にある毘沙門堂の近くに位置している。高さ75cm程の凝灰岩に十一面千手観音菩薩立像が彫られており、刻銘から国分村の人々によって建立されたことがわかる。

名称 四王寺山三十三石仏 第29番札所

登録番号 I0015 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第29番札所は、四王寺山南西に位置している。高さ101cm程の凝灰岩に聖観音菩薩坐像が彫られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第33番札所

登録番号 I0016 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 四王寺集落内)



四王寺山三十三石仏の第33番札所は、四王寺集落内に位置している。高さ91cm程の花崗岩に十一面観音菩薩立像が彫られており、刻銘から連歌屋の人々によって建立されたことがわかる。

名称 毘沙門堂

登録番号 I0018 時代区分 中世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



応永11(1404)年に建立されたと伝わっており、中世の頃は一尺八寸の毘沙門天の石像が本尊であったという。現在は江戸時代の寛保年間(1741~44)頃に制作された木像を御本尊としている。毎年1月3日に行われる「四王寺毘沙門天詣り」は、多くの参詣者で賑わっている。



名称 **四王寺毘沙門天詣り**

登録番号 **I0019** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



毎年1月3日、家内安全と商売繁盛を願い「四王寺毘沙門天詣り」が賑やかに行われている。賽銭台のお金を借り受けて持ち帰り、次の年に倍返しをすると1年間お金に不自由しないという。現在(平成22年)、行事は四王寺区民全戸6件の人々により行われ、宇美町の無形民俗文化財に指定されている。

名称 **四王寺跡(四王院跡)**

登録番号 **I0021** 時代区分 古代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



宝龜5(774)年、新羅の呪詛を祓うために高顕浄地に仏像4体を造立し、僧4人に日夜誦読させることが大宰府に命じられており、これが四王寺(四王院)の創建を示すとされる。現在でも四天王の呼称である持国天・増長天・広目天・毘沙門天の地名が、山中の四つの峰々に残っている。

名称 **タバコ田**

登録番号 **I0024** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 大谷)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に記されている地名。四王寺の小字「大谷」地区に広がる田圃地帯で、現在も四王寺地区の方々が稲作を行っている。

名称 **四王寺山の井戸 4 毘沙門天ノ井**

登録番号 **I0020** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



毘沙門堂階段下の鳥居近くにある石組みの井戸。昭和40(1965)～1974)年代までは掃除が行われ、毘沙門様の水として釣瓶で汲んで使用していたという。その後、米軍の子供達が4～5段程ある長方形の井戸枠を全部内へ落としてしまったという。現在は危険なため手洗用の大石が被せられている。

名称 **大日ノ塔**

登録番号 **I0022** 時代区分 近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



山中に祀られている高さ102cm程の石碑で「大野城太宰府旧蹟全図北」には「大日ノトウ」と記されている。表面には大日如来を表す梵字があり、「享保二(1717)年十月吉日」「當村中」等の銘が残る。五穀豊穡の神として祀られ、7月27日には碑の前で火を焚き、ガメシバ万十を食べていたという。

名称 **ホウシ田・ブウシ田**

登録番号 **I0025** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 大谷)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に「ホウシ田」と記されている地名。現在の小字「大谷」地区に広がる田圃地帯であり、地元の方々は通称「ブウシ田」と称している。

I 地区 (四王寺山)

名称 ヒヤケ谷・ヒヤケ

登録番号 I0026 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 大谷)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に「ヒヤケ谷」と記されている地名。現在の小字「大谷」地区に広がる田園地帯の南端にあたり、地元の方々は通称「ヒヤケ」と称している。

名称 茶臼山・チャウスヲ・チャウソ

登録番号 I0029 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 茶臼山)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に「チャウスヲ」と記されている地名。現在でも小字は「茶臼山」であり、地元の方々は「チャウソ」と呼んでいる。

名称 中谷(ナガタニ・長谷)

登録番号 I0031 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 長谷)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に「中谷」と記されている地名。地元の方々は「ナガタニ」(長谷)と呼んでいる。現在は、隣接する大谷地区と併わせて、四王寺村における稲作の中心地である。

名称 モチ谷、ヲクノ谷(オクダン)

登録番号 I0028 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 村上)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に「モチ谷」「ヲクノ谷」と記されている地名の1つ。現在も地名として残っており、「ヲクノ谷」は「オクダン」とも呼ばれている。場所は尾花礎石群から村上礎石群に至る地域の山並み一帯で、広く深い谷は名の通り「奥の谷」を表している。

名称 キウヤノ山

登録番号 I0030 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に「キウヤノ山」と記されている地名。四王寺村の北側に位置し林道に向かって伸びている尾根を、地元の方々は現在も「キウヤノ山」と呼んでいる。以前は山間の奥まで田が開けていたが、水害により崩れている。現在は村落付近が作地として利用されている。

名称 石材切り出場

登録番号 I0032 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 猫坂)



四王寺山中に所在する石材切り出場。大きな岩場であり、現在も巨石が点在している。地元の方によると、太宰府口城門跡上方にある毘沙門天の鳥居はこの岩場から切り出して作られたものだという。

名称 **ドンドン原・ドンドンオトシ**

登録番号 **I0033** 時代区分 -

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 前田)**



四王寺山に残る地名の1つ。江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」には「ドンドン原」という地名の記載がある。現在、四王寺地区の方々はその下方の平地部を「ドンドンオトシ」と呼んでいる。

名称 **ヒノマル**

登録番号 **I0037** 時代区分 -

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**



四王寺山に残る地名の1つ。「大野城太宰府旧蹟全図北」には記されていないが、地元の方々と呼称している地名である。「タバコ田」「ホウシ田」「ヒヤケ田」などがある大谷地区に位置している。

名称 **由来不詳の石造遺物(5)**

登録番号 **I0039** 時代区分 -

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**



四王寺集落の入り口に所在する石造遺物で、60cm・43cm程の大きさである。形状から何かの台座かと思われるが、詳細は不明である。

名称 **ビシャモン田**

登録番号 **I0034** 時代区分 -

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波)**



地元の方によると、昔より「ビシャモン田」と呼ばれている場所があり、毘沙門奉納や収穫祭などが行われていたという。「大野城太宰府旧蹟全図北」には「ヤツナミガ原」の近辺に「田」や「畠」と記されている場所があり、これらが「ビシャモン田」と考えられる。

名称 **四王寺山のビューポイント 7**

登録番号 **I0038** 時代区分 現代

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 北石垣)**



北石垣の上部ほぼ中央、修復された石垣の東側、「主城原へ・小石垣へ・北石垣へ」の標識より西へ約30mの所、杉林が途切れている間から博多湾が一望できる。手前には井野山と工場群があり、福岡市街地へと続いている。視界は右から立花山、海の中道、玄界島、左端に能古島と広がっている。

名称 **由来不詳の石造遺物(6)**

登録番号 **I0040** 時代区分 -

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波礎石群)**



四王寺山三十三石仏24番札所で祀られている十一面千手千眼観音菩薩立像の横に所在する石造遺物。並ぶように置かれていることから何らかの碑とも考えられるが、由来など詳細は不明である。

I 地区 (四王寺山)

名称 境界石

登録番号 I0041 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



毘沙門天への登り石段の途中にある石造遺物。底辺の幅が35cm・奥行が30cm程のもので、表面には「山」と彫られている。地区の方によると、私有林と県行造林との境界を示す境界石であるという。

名称 由来不詳の石造遺物(7)

登録番号 I0043 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山山中に所在する石造遺物。人工的に加工された跡が残されている。

名称 クロガネ岩

登録番号 I0045 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に「クロカ子岩」と記されている地名。屯水跡から約50m上った尾根の右側には、高さ約10m・長さ約30mに亘って大きな岩壁が続いている。この崖地が、図に描かれている地点及びその形状から「クロカ子岩」又は「エンゲウ岩」ではないかと推定されている。

名称 井戸柱の台石

登録番号 I0042 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



毘沙門天堂の近くにある石造遺物。縦70cm・横90cm程のもので中央には正方形の穴がある。地区の方によると、以前使われていた毘沙門天の井戸の柱を建てた台石であったという。

名称 由来不詳の石造遺物(8)

登録番号 I0044 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



「ケイサシの井」の側に所在する石造遺物。高さ27cm・幅45cm・奥行22~30cm程のもので、人工的に加工された跡が残っている。

名称 出水推定地

登録番号 I0046 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



「大野城太宰府旧蹟全図北」には、四王寺山北西部の土塁線付近に「出水アリ」と記載がある。付近では昭和53(1978)年に大野城で初めて水門跡と思われる遺構(屯水)が確認されており、湧き出る水に関連してここに水門施設等があった可能性がある。

名称 **ハツナミカ原、ヤシキアト**

登録番号 **I0047** 時代区分-

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波)**



「大野城太宰府旧蹟全図北」に記されているハツ波礎石群付近の地名。「五三淳和帝ノ比ニヤ ヤス郡ミナミ村ノ辺ニハツナミ長者ト云アリシカ四王寺ノ城ニ出勤鼓ヲウタレシ故四王寺ヲツツミノ岳ト云」と注記がある。筑前町大字三並に「ハツ並」の地名があり、ハツナミ長者の出所とも考えられる。

名称 **ヤシキアト**

登録番号 **I0049** 時代区分-

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波)**



「大野城太宰府旧蹟全図北」のハツ波礎石群付近に記されている地名。ハツ波礎石群が段造成状を呈しており、年代は不詳ながら幾つかの石垣もみられることから、何らかの「屋敷跡」ではないかと考えられる。

名称 **主城ヶ原**

登録番号 **I0051** 時代区分-

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺)**



調査でも主城原礎石群には14棟の建物があり、3×7間の長棟の官衙風の掘立柱建物も確認されている。「大野城太宰府旧蹟全図北」に「主城ヶ原」と記され、「三ノ丸石スエ」や「此処主城頭役ノ居処」とあり、主城司が居を構えたことが伝えられていたことが分かる。

名称 **勝田方面からの道**

登録番号 **I0048** 時代区分-

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺・原田)**



宇美町勝田方面から四王寺山へ向かう道の1つ。宇美町は三菱勝田鉱業所をはじめとする数多くの炭鉱で栄えた町であり、その当時も多くの人達がこの道を登って四王寺山や毘沙門堂を目指したと思われる。

名称 **チソウ**

登録番号 **I0050** 時代区分-

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 村上)**



「大野城太宰府旧蹟全図北」で四王寺村の東に記されている地名。大正15(1926)年の『史跡名勝天然記念物調査報告書』では、「地蔵辻と称し土人は『ゾウガ原』と云う、此の所、主城司の遺跡と伝う、丘陵平らかなる地多く、いたる所に礎石を残せり」と記録されている。

名称 **百間石垣**

登録番号 **I0052** 時代区分 近世

所在場所 **市外(糟屋郡宇美町四王寺 百間石垣)**



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」では、「長百間高サ二丈」と百間石垣の様子を記している。現在は広く知られ見学者も多い百間石垣であるが、江戸時代後期には、既に長さ百間(約180m)高さ貳丈(約6m)の大きさが確認されていた事が、この記録から判明する。

I 地区（四王寺山）

名称 宇美口城門跡

登録番号 I0053

時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 百間石垣)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に百間石垣より「十二間下 門ノ石スエ」とある。これは宇美口城門の門礎と考えられ、百間石垣が途切れる現在の林道を跨ぐ付近に城門があり、門礎が残っていたと思われる。現在は礎石の一つが県民の森センター内、もう一つが宇美町歴史民俗資料館に置かれている。

名称 クロガネ岩城門跡

登録番号 I0055

時代区分 古代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町)



特別史跡大野城跡で9ヶ所目に確認された城門跡。近世の絵図や文献史料にみえる「クロカ子岩 門ノ石スエ」などの記載と一致しており、城門名も史料に基づいて命名された。調査によって、城門の両側の石積み・唐居敷の石材・須恵器や土師器の破片などが確認されている。



岩屋城からの眺め

## 附編

### 1. 文化遺産調査ボランティアの活動

#### (1) 平成24年度の文化遺産調査ボランティアの活動概要

この活動の開始にいたる経緯については、『太宰府市文化遺産情報 1』（太宰府市の文化財第115集、太宰府市教育委員会、平成24年）に詳しく記されています。ここでは、平成24年度の活動内容について紹介します。

#### (2) 文化遺産調査ボランティア勉強会

本年度は、毎月第2金曜日午前中に開催しました。ここでは、これまでの活動について、いくつかのポイントにしばって一緒に考えていくことをめざしました。

ひとつは、それぞれの地域で行われている鎮守さまのお祭りや神事といった行事について学んでみることです。森弘子氏（福岡県文化財保護審議会委員、太宰府発見塾々長）の監修のもとで作成されたDVD映像を見ながら、森氏本人の解説も交えて、行事の様子をより具体的に知ってもらおうという試みでした。こうした行事は季節ごとに行われますので、その時期に適った映像を見て、実際に参加してみることもできるようにしました。

もうひとつは、昨年度も行ったところですが、史料の講読です。これはもともと、文化遺産調査のなかでボランティアのみなさんが調査されたモノ・コトが、これまでどのように伝えられ、守られてきたかを追いかけてみようというものでした。本年度は、奥村玉蘭の『筑前名所図会』を講読しました。今回は、写本を用いることによって、くずし字や変体仮名に親しんでみることも意図しました。その点では少し難しかった面もあったかもしれませんが、ちょうど、始まりが宝満山でしたので、ここでも宝満山研究の第一人者である森氏による詳細な解説を交えて読み進めることができました。

#### (3) 文化遺産調査ボランティア活動の現状

本年度は、新たな活動として日田街道班による調査が始まりました。この調査においては、単に太宰府市域を通過する日田街道のみならず、筑紫野市域、福岡市域にまで調査範囲を拡げて、道としての日田街道の全体像を把握することが行われています。さらに道筋に所在する文化遺産についても拾い上げを行い、新たな文化遺産も見いだされています。また、それを地図上に落としとしてみるという試みもなされています。こうしたことを通じて、これまでに把握されていた文化遺産についても街道という視点から新たな位置づけが可能なのではないかと考えています。

また本年度は、文化遺産調査の地域への還元ということもひとつの成果としてあげることができると思います。これまで各小学校班を中心に行われてきた調査成果を地域にお住まいの方々に広く知らせることをめざしたものです。このことによって、地域の方々に、身近に存在する文化遺産の存在に気づいてもらい、それらを守り育てる意識を共有できるようにすることが重要だと考えたからです。こうした活動がすでに実を結



文化遺産調査ボランティア勉強会のようす

びつつあります。

たとえば、国分小学校区班では、「水城・国分地区文化遺産巡り-太宰府市文化遺産調査-」という散策マップを作成し、これを用いて、地域の方々との文化遺産巡りを計画されました。一度は雨のため中止となりましたが、12月9日（日）に実施されました。この日も、あいにく雪の舞う天候でしたが、それでも地域の方々を中心に16名が参加されて、その関心の高さをうかがうことができました。今年の春にもリベンジ



国分小学校班の文化遺産巡りのようす

を期して開催される予定になっています。またたとえば、地域の文化祭などの場を借りて、文化遺産調査の成果を広く知ってもらおうという活動も行われています。

本年度は、太宰府西小学校区の合同文化祭「くくりん祭」において、昔と今の写真を用いて地域の移り変わりを示した展示が行われ、また会場では「市民遺産」の広報活動も行われました。さらには、水城西小学校区班では、地域にお住まいの方々を中心となって、文化遺産調査ボランティアの方々も加わり、太宰府市教育委員会文化財課の協力のもと、月に1回の勉強会が開催されていました。これに参加されていた方々が母体となって、「水城跡（西地区）周辺歴史の散歩」という散策マップが作成され、また史跡・文化遺産の案内板、名称板、道標の現地設置も行われています。いずれも手作りで作成されたものです。

さらに、太宰府市民遺産第3号「かつてあった道「四王寺山の太宰府町道」」の提案団体である四王寺山勉強会によって、『四王寺山三十三石仏（観音札所）現況調査報告書』が作成されました。これまでの三十三石仏に関する調査研究を踏まえて、それらに現地踏査を重ねた成果を加えて、充実した内容の報告書として完成しました。これも、数年にわたって四王寺山班として実施された調査成果が見事な形で結実したものであることができます。

このような調査のまとめは、各小学校区班等を中心に、随時進められています。これらの成果をどのような形で広く市民のみなさんに知っていただくか、あるいはまた、日常のおこない、行事などに関する情報の収集、追加の文化遺産情報の収集ならびに調査、また新規文化遺産の調査、



「くくりん祭」で展示された昔と今の航空写真

および文化遺産に関するその後の追跡調査なども、今後の課題として考えていかなければならないと思います。（(財) 古都太宰府保存協会 重松）



## 2. 基本文献一覧

文化遺産調査に際して、参考となる文献を記載しています。手引き的なものから専門的なものまで記しています。また、太宰府の文化遺産を知る上で必要となる資料は、これだけではありません。ここに記した書物・資料から広げていくなり、探索していただきたいと思えます。

なお、ここに記した資料は、下記機関にて保管しています。ご覧になりたい方は、事前にご連絡いただき、所蔵施設内で閲覧いただきたく御願いたします。これらの資料の外部貸出は行っておりません。ご注意ください。

### ■所蔵機関

太宰府市史資料室（太宰府市文化ふれあい館 2階）

電話：092-921-2322

太宰府市教育委員会文化財課調査研究室（太宰府市文化ふれあい館 2階）

電話：092-924-8533

## 基本文献一覧

### ■古典

『太宰府旧蹟全図』北図・南図 作者不詳 1812(文化9)年写

六度寺の僧船賀法印の書と推定され、制作年代は不詳ながら文化3年の可能性が高い作品。古代の大宰府の範囲を描き、その内外の地名、旧蹟を知ることができる絵画資料。北図は大野城から二日市あたりまで、南図は二日市から基山（佐賀県基山町）までを描く。

『筑前国続風土記』貝原益軒 1709(寛永6)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。

『筑前国続風土記 附録』加藤一純 1806(文化3)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国続風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『続風土記』に記載されなかったものを編纂。

『筑前国続風土記 拾遺』青柳種信 1835(天保6)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国続風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『続風土記』ならびに『同 附録』に記載されなかったものを編纂。

『太宰管内志』上中下巻 伊藤常足 1841(天保12)年

本書が著されるまでに記された歴史書、地理書などを網羅した辞書。旧大宰府管内の九国二島に関する史料が記述されている。

『筑前名所図会』奥村玉蘭 1821(文政4)年

筑前国に起こった様々な事件を歴史絵図として後生に伝えようとして描かれたもの。江戸期の太宰府を知る上で貴重な絵画資料。(1985年文献出版より復刻)

### ■通史

『太宰府史鑑』高原謙次郎・江島茂逸 1903(明治36)年 菅公会

明治35年、菅公一千年大祭に際して編纂された太宰府史で、太宰府の歴史、旧跡までの記述が行われている。(文献出版より昭和50年に復刻)

『太宰府小史』太宰府天満宮 1952年

昭和27年、菅公一千五十年大祭に際してまとめられた太宰府史で、上代(古代)、中世の太宰府史ならびに伝説・史跡についての記述が見られる。(西高辻信貞氏により昭和55年復刊)

『福岡県史』第1～4巻 福岡県 1962～1965年

福岡県の通史として編まれたもの。

『福岡県の歴史』福岡県 1981年

福岡県史編纂を前に普及版として刊行。

『大宰府の歴史』全7巻 (財) 古都大宰府を守る会 1984～1987年

昭和58年4月から昭和60年3月まで、第一線の研究者を講師として開催された「太宰府アカデミー」の講義録

『太宰府市史』全13巻 太宰府市 1992～2005年

太宰府市の自然・歴史・美術・民俗・建築など、太宰府を知る上で重要な書。

『太宰府紀行』(財) 古都大宰府保存協会 2011年

太宰府にある様々な文化遺産について分かりやすく解説。太宰府にある「今」を意味とともに伝える書。

#### ■時代史・地域史・分野史

『大宰府都城の研究』鏡山猛 1968年 風間書房

大宰府条坊の存在を平安時代の文献と歴史地理学的手法を用いて論証。その後の大宰府条坊研究の基礎を築く。

『古代の大宰府』倉住靖彦 1985年 吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『古代を考える 大宰府』田村圓澄 1987年 吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『遠の朝廷 大宰府』杉原敏之 2011年 新泉社

太宰府における埋蔵文化財調査成果を踏まえ、太宰府の歴史を紹介。

『邪馬台国と大宰府』長沼賢海 1968年 太宰府天満宮文化研究所

長沼賢海氏の論著を集成したものだが、筑前国府所在地に関する論考などを所収

『大宰府と観世音寺』高倉洋彰 1996年 海鳥社

観世音寺の歴史を大宰府との関係を併せて解説。

『菅原道真と太宰府天満宮』上下巻 太宰府天満宮文化研究所編 1975年

昭和52年、菅公一千七十五年大祭に際して記念事業として刊行された書。御祭神である菅原道真公から太宰府天満宮に関する論文を集録。

『天神さまと二十五人』太宰府天満宮文化研究所編 2002年

太宰府天満宮の御祭神菅原道真に纏わる人々を取り上げ解説する。

『宝満山の地宝』小田富士雄編 1982年 太宰府天満宮文化研究所

宝満山を舞台に行われた学術調査の成果報告書

『宝満山歴史散歩』森弘子 2000年 葦書房

宝満山に残された文化遺産を解説

『宝満山の環境歴史学的研究』森弘子 2009年 岩田書院

宝満山の学術的研究成果、文献・考古など幅広い分野からの分析と論考が記されている。

『太宰府発見 歴史と万葉の旅』森弘子 2003年 海鳥社

万葉集をはじめとする文芸の世界を説きながら、大宰府(太宰府)の歴史を解説。

『大宰府万葉の世界』前田淑 2007年 弦書房

大伴旅人、山上憶良等による大宰府を中心に形成された「筑紫歌壇」を中心にまとめた書。

『太宰府天満宮連歌史』I～IV 川添昭二・棚町知彌・島津忠夫編著 1980～1987年

文道の神として室町時代から崇敬された菅神のもとで執り行われた連歌の神事、その時歌われた連歌資料を集成。

『福岡県碑誌』筑紫之部 荒井周夫 1929年

福岡県内にある歌碑・句碑などを集成。

『福岡県の文学碑』近・現代編 大石實編著 2005年 海鳥社

福岡県内にある歌碑・句碑など文芸作品を普及する目的で建てられた碑を集成。作者、所在地、

碑文に至るまで細かく解説されている。

『わがまち散策 太宰府への招待』太宰府市総務部企画課編 1990年

昭和49年1月から広報だざいふに連載された文化財シリーズの内、13年分をまとめ編集したもの。

『太宰府伝説の旅(改訂版)』大隈和子 2010年 (財) 古都大宰府保存協会

太宰府に残る昔話、言い伝えを分かりやすく解説。

『福岡県農地改革史』農地委員会福岡県協議会 1950年

福岡県の農業に関する通史。農業を視点として記しており、地主制度など詳細に記されている。

『筑紫の歴史と農業』白水昇 1975年 筑紫の歴史と農業刊行会

原始から現代に至るまでを農業史の観点から記述。

『郷土読本』水城尋常高等小学校 1937年

旧水城村の郷土史を記した書。時の記念日の行事や、史跡などが記されている。

『とおのこが風土記』太宰府市通古賀区 2003年

地域史を地域の住民がまとめた書。自らの歩みも記され、一般書には決して記されることのない、受け継いできた「生の歴史」がある。

『学業院物語』矢木信男 2006年 (株) 梓書院

学業院中学校について、その起こりから今に至る歴史を記す。

『太宰府 - 人と自然の風景 -』太宰府市文化ふれあい館 2002年

太宰府の自然や風景を、写真・絵画資料を使って概説。特に絵画資料は、各時代の太宰府への印象・姿を知る上で参考になり、手引き書として活用できる。

『福岡県史 民俗資料編』福岡県 1988年

太宰府市新町・北谷についての民俗調査成果を記載。

『福岡県の地名』平凡社 2004年

福岡県にある地名、旧跡、遺跡までを記載。

『福岡県百科事典』上下巻 西日本新聞社 1982年

福岡県における歴史、産業、文化など23分野にわたる事項について記している。

『日本建築史図集』日本建築学会編 1949年 彰国社

日本における建築物に関する概説書。竪穴住居から現代建築までを記載。

#### ■史料・年表

『福岡県史資料』第1～10輯 続第1輯 続第4輯 福岡県 1932～1943年

福岡県に関わる様々な史料を抽出し掲載。文化年間伊能忠敬測量日記や田畑石高帳、伝記など多岐にわたる史料が掲載されている。

『大宰府・太宰府天満宮史料』太宰府天満宮 1964～2006年

大宰府及び太宰府天満宮に関する文献史料を網羅。太宰府を研究するための基本史料集。

『大宰府古代史年表』重松敏彦編 2007年 吉川弘文館

536年から1156年までの大宰府で起きた出来事を年表形式で集成。また大宰府に関わった官人一覧も附記。

『日本古典文学大系』1～100巻 岩波書店 1957～1967年

万葉集、風土記、日本書紀などを掲載した大系書

#### ■調査報告書

『福岡県地理全誌』福岡県 1880(明治13)年

新政府によって明治初期に行われた地誌編纂で編まれた書。福岡県の農産物、地理、歴史が記されている。(『福岡県史』近代資料編に再録)

『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第1輯～第16輯 福岡県 1925(大正14)～1952(昭

和27)年

大正から昭和にかけて調査された史跡や天然記念物、名勝の有り様を知る上で重要。

『大宰府史跡 発掘調査年度概報』九州歴史資料館 1971～1999年

太宰府市内の史跡指定地内で行われてきた埋蔵文化財の学術調査概要の報告書

『大宰府史跡発掘調査報告書』I～VI 2001～2010年継続

市内の史跡で行われている埋蔵文化財学術調査の報告書

『大宰府政庁跡』九州歴史資料館 2002年

特別史跡大宰府跡の中心的位置にある大宰府政庁跡で行われてきた学術調査の報告書。

『観世音寺』全5冊 九州歴史資料館 2006年

史跡 観世音寺で行われてきた学術調査の報告書

『水城跡』上下巻 九州歴史資料館 2009年

特別史跡水城跡で行われてきた学術調査の報告書

『大宰府政庁周辺官衙跡』I・II 九州歴史資料館 2010・2011年

大宰府政庁前面域(南域)で行われてきた学術調査報告書。

『大宰府条坊跡 - 太宰府市の文化財 -』ほか 太宰府市教育委員会 2012年継続

太宰府町ならびに市として行ってきた文化財調査の報告書。市域に所在する大宰府条坊跡をはじめ筑前国分寺跡、水城跡などを報告。

『中世墓資料集成 - 九州・沖縄 -』中世墓資料集成研究会 2004年

2004年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成

『中世墓資料集成 - 補遺編 -』中世墓資料集成研究会 2007年

2007年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成

『太宰府の民俗』第1・2集 太宰府市史編集委員会 1990・1992年

太宰府市史編纂事業にともない実施された民俗調査に関する報告書。集録地域：水城・国分・坂本・大佐野・向佐野・吉松、その後は太宰府市史 民俗資料編として統括掲載。

『太宰府の民俗』I 太宰府市文化ふれあい館 2011年継続

市内のお宮で行われている宮座ならびにワラ紬い技術に関する調査報告書

■論文・機関誌

『筑紫史談』第1集～90集 筑紫史談会 1914～1945年

筑紫に関する歴史・地理の論文集。大正から昭和前期にかけての歴史的な関心事や、当時の太宰府の様子を多様な視点で知る上で貴重な書。

『大宰府古文化論叢』上下巻 九州歴史資料館編 1983年 吉川弘文館

九州歴史資料館開館十周年を記念して発刊された大宰府(太宰府)に関する論文集

『九州歴史資料館 研究論集』1～36 1975～2011年継続中

太宰府を中心に九州をフィールドとして、文献・考古・工芸など多分野の論考を集録。

『都府楼』1～43号 (財) 古都大宰府保存協会 2011年継続

昭和61年から発刊されている古都大宰府保存協会の機関誌で、その時々話題や、文化遺産に関する論考などを多彩に掲載する。

『年報 太宰府学』1～6 太宰府市 2007～2011年

太宰府市史資料室の編集になる紀要。太宰府に関わる様々な論考、文献目録、資料目録等を掲載する。

■史跡保存史

『古都大宰府保存への道』(財) 古都大宰府保存協会 1994年

大宰府保存運動について江戸時代から現代までの歩みを記す。

注 索引は、本書掲載分とともに『太宰府市文化遺産情報1』に掲載したのも列記しています。

(例) 名称	読み仮名	登録番号	号	頁
水城跡	みづきあと	H0062	1-	131
水城跡	みづきあと	E0145	1-	77

1- (『文化遺産情報1』掲載ページ)  
2- (本書)

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
■あ行				
藍染川梅壺侍従蘇生之碑	あいぞめがわうめつぼじじゅうそせいのみ	B0164	2-	18
青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色	あおやまどおりとひがしがおかどおりこうさてんからのけしき	D0039	2-	26
青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色	あおやまどおりとひがしがおかどおりこうさてんからのけしき	D0040	2-	26
青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色	あおやまどおりとひがしがおかどおりこうさてんからのけしき	D0041	2-	26
秋籠り(地祿神社)	あきごもり	H0116	2-	92
秋葉神社	あきはじんじや	A0045	1-	17
浅川家墓地	あさかわけぼち	H0015	1-	125
朝日地藏堂	あさひじぞうどう	F0115	1-	104
朝日橋	あさひばし	B0043	1-	31
朝日橋関連石柱三本	あさひばしかんれんせきちゆうさんぽん	B0044	1-	31
朝日山遺跡石仏石塔群	あさひやまいせきせきぶつせきとうぐん	F0116	1-	104
天原山安楽寺太宰府天満宮 檢校坊墓所	あまがはらやまあんらくじだざいふてんまんぐう けんこうぼうぼしよ	B0009	1-	26
阿弥陀三尊梵字板碑	あみださんぞんぼんじいたび	F0248	2-	56
育成会・子供会(東ヶ丘区)	いくせいかいこどもかい	D0035	2-	25
池(戒壇院)	いけ	F0307	2-	66
池ん谷の池	いけんたにのいけ	H0083	1-	135
石臼	いしうす	F0298	2-	65
石臼	いしうす	F0300	2-	65
石垣(個人宅)	いしがき	D0015	1-	55
石垣延長記念碑	いしがきえんちようきねんひ	G0079	2-	76
石垣階段寄進碑(地祿神社)	いしがきかいでんきしんひ	H0103	2-	90
石垣階段寄進碑(地祿神社)	いしがきかいでんきしんひ	H0104	2-	90
石垣改築之碑	いしがきかいくのひ	F0188	2-	46
石こづんばば伝説地	いしこづんばばでんせつち	B0167	2-	18
石燈籠(秋葉神社)	いしどうろう	A0084	2-	12
石燈籠(坂本八幡神社)	いしどうろう	F0165	2-	43
石燈籠(オカッテンサン)	いしどうろう	F0186	2-	46
石燈籠(オカッテンサン)	いしどうろう	F0189	2-	47
石燈籠(日吉神社)	いしどうろう	F0198	2-	48
石燈籠(日吉神社)	いしどうろう	F0199	2-	48
石燈籠(日吉神社)	いしどうろう	F0203	2-	49
石燈籠(観世音寺)	いしどうろう	F0258	2-	58
石燈籠(戒壇院)	いしどうろう	F0292	2-	64
石燈籠(戒壇院)	いしどうろう	F0293	2-	64
石燈籠(王城神社)	いしどうろう	G0076	2-	76
石燈籠(王城神社)	いしどうろう	G0084	2-	77
石燈籠(王城神社)	いしどうろう	G0091	2-	78
石燈籠(鹿嶋神社)	いしどうろう	G0150	2-	83
石燈籠(地祿神社)	いしどうろう	H0102	2-	89
石灯籠	いしどうろう	B0018	1-	27
石灯籠	いしどうろう	F0042	1-	93

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
石燈籠(常夜燈)	いしどうろう	F0047	1-	93
石のある風景	いしのあるふうけい	F0007	1-	88
石織(坂本八幡神社)	いしのほり	F0162	2-	42
石織(日吉神社)	いしのほり	F0197	2-	48
石織(王城神社)	いしのほり	G0085	2-	77
石織(地祿神社)	いしのほり	H0100	2-	89
板碑	いたび	F0205	2-	49
板碑	いたび	F0288	2-	63
板碑	いたび	H0027	1-	127
板碑	いたび	B0006	1-	25
板碑	いたび	B0084	1-	38
板碑	いたび	B0100	1-	39
板碑と五輪塔残欠	いたびとごりんとうざんけつ	G0095	2-	79
板碑と五輪塔残欠	いたびとごりんとうざんけつ	G0149	2-	83
一字一石塔	いちじいっせきとう	D0003	1-	54
一のイデ(小野井手または一番井手)	いちのいで	A0004	1-	11
市ノ土遺跡	いちのうゑいせき	G0019	2-	73
市ノ土橋碑	いちのうゑばし	G0016	2-	73
イチョウ	いちょう	G0152	2-	84
イチョウ・ケヤキの街路樹	いちょう・けやきのがいのじゅ	G0020	2-	74
一丁坂道路拡張工事記念碑	いちちようざかどうろかくちちようこうじきねんひ	A0050	1-	17
井戸(戒壇院)	いど	F0295	2-	64
井戸	いど	A0032	1-	15
井戸跡	いどあと	G0097	2-	79
井戸柱の台石	いどばしらのだいし	I0042	2-	100
稲子地藏	いなごじぞう	E0115	1-	76
井上哲次郎生誕地碑	いのうえてつじろうせいだんちひ	C0018	1-	49
今王地藏ほか	いまおうじぞうほか	D0011	1-	54
イヤノ浦橋	いやのうらばし	A0010	1-	12
岩淵	いわふち・いわぶち	B0165	2-	18
「岩路川」の石柱	いわふみがわのせきちゆう	B0038	1-	30
岩踏橋	いわふみばし	B0037	1-	30
岩屋城跡	いわやじょうあと	B0015	1-	27
岩屋城合戦 関連石造物 1	いわやじょうかっせん かんれんせきぞうぶつ1	B0071	1-	36
岩屋城合戦 関連石造物 3	いわやじょうかっせん かんれんせきぞうぶつ3	F0121	1-	105
岩屋城合戦犠牲者追悼法要	いわやじょうかっせんぎせいしやついでうほうよう	B0077	1-	37
岩屋城址の碑 岩屋城合戦 関連石造物 4	いわやじょうしのひ いわやじょうかっせん かんれんせきぞうぶつ 4	B0156	2-	17
岩屋磨崖石塔群	いわやまがいせきとうぐん	B0103	1-	40
岩屋山	いわややま	B0160	2-	18
戌の薬師(インノヤクシ)	いぬのやくし	F0006	1-	87
宇佐八幡宮祠	うさはちまんぐうほくら	C0006	1-	47
内山辛野遺跡	うちやまからしのいせき	A0077	1-	21
有智山城跡	うちやまじょうあと	A0093	2-	14
宇美口城門跡	うみぐちじょうもんあと	I0053	2-	102
梅大路の道標	うめおおじのみちしるべ	C0005	1-	47
梅ヶ枝餅	うめがえもち	B0099	1-	39
浦ノ城跡	うらのじょうあと	B0166	2-	18
浦之城公園	うらのじょうこうえん	B0028	1-	29
浦之城橋	うらのじょうばし	B0041	1-	31
浦之城橋石柱	うらのじょうばしせきちゆう	B0040	1-	30
裏ノ田池(裏の田・浦の田)	うらのたいけ	E0161	1-	80
裏ノ田地下道	うらのたちかどう	E0160	1-	80
ウランカワイデ	うらんかわいで	A0020	1-	14
漆川	うるしがわ	G0021	2-	74

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
覆寺	えのきでら	G0132	2-	80
恵比寿神	えびすがみ	B0019	1-	27
恵比寿神	えびすがみ	B0095	1-	39
えびす様	えびすさま	B0108	1-	40
えびす様(恵比寿神)	えびすさま	F0015	1-	89
恵比寿社	えびすしゃ	H0112	2-	91
恵比寿神	えびすしん	E0206	2-	32
恵比寿神	えびすしん	G0092	2-	78
恵比寿神	えびすしん	G0093	2-	79
恵比寿像(線刻)	えびすぞう	B0109	1-	41
恵比寿像	えびすぞう	C0022	1-	50
恵比寿像	えびすぞう	C0024	1-	50
恵比寿堂	えびすどう	F0044	1-	93
恵比寿祭(宰府地区)	えびすまつり	B0140	2-	17
恵比寿祭(通古賀)	えびすまつり	G0039	1-	117
エビスまつり	えびすまつり	F0009	1-	88
老松神社	おいまつじんじや	E0026	1-	62
老松神社のほんげんきょう	おいまつじんじやのほんげんきょう	E0169	1-	81
老松園	おいまつず	E0176	1-	82
追分石(道標 花屋敷サコ)	おいわけいし	F0126	1-	105
追分石(道標 四王寺国分)	おいわけいし	F0010	1-	88
王城神社	おうぎじんじや	G0034	1-	116
王城神社本殿及び拜殿	おうぎじんじや ほんでんおよびはいでん	G0053	1-	119
王城神社末社	おうぎじんじやまつしゃ	G0090	2-	78
大石垣(大野城跡)	おおいしがき	F0134	1-	106
大城山(四王寺山)	おおぎやま	F0143	1-	108
大佐野川	おおざのがわ	H0054	1-	130
『大佐野区の歴史』-白石徳美氏の寄稿-	おおざのくのれきし しらいしとくみしのみきこう	H0123	2-	92
大佐野地区のほうげんきょう	おおざのちくのほうげんきょう	H0079	1-	134
大谷	おおたに	B0120	1-	42
大谷川から流れてくる水路(洗出付近)	おおたにがわからながれてくるすいりょう	F0034	1-	92
大西真応和尚墓	おおいにしんおうおしょうぼ	F0287	2-	63
大野城跡	おおいのじょうあと	E0143	1-	77
大野城橋	おおいのじょうばし	E0015	1-	62
大人足形(オオヒノアシガタ)	おおひのあしがた	B0122	1-	43
大水避け石垣	おおみずよけいしがき	A0019	1-	14
遠賀団印出土地の碑	おくだんいんしゅつちのひ	F0054	1-	95
オカッテンサン 鬼子母神堂	おかつてんさん	F0018	1-	89
奥園遺跡	おくぞのいせき	B0124	1-	43
奥ノ池	おくのいけ	E0104	1-	74
オクノタニ	おくのたに	F0161	2-	42
おこうじんさま	おこうじんさま	H0088	2-	88
落合橋	おちあいばし	G0001	1-	113
オッゴヤのイデ	おっこやのいで	A0009	1-	12
お堂(聖観音堂)	おどう	H0048	1-	129
お堂跡推定地	おどうあとすいでいち	E0117	1-	76
鬼瓦	おにがわら	E0151	1-	78
鬼ノコシカケ	おにのこしかけ	B0121	1-	43
帯塚碑	おびつかひ	F0075	1-	98
お山の見える場所	おやまのみえるばしょ	E0123	1-	77
■か行				
戒壇院	かいだんいん	F0104	1-	102
戒壇院碑(戒壇院)	かいだんいんひ	F0282	2-	62
学業院址碑(学校院址)	がくぎょういんあしひ	F0086	1-	100

太宰府市文化遺産情報  
 か行【がくぎょういん～】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
学院中学校	がくぎょういんちゅうがっこう	F0057	1-	95
鍛冶久地下道(太宰府市-06)	かじきゅうちかどう	E0166	1-	81
鹿嶋神社	かしまじんじや	G0135	2-	81
鹿嶋神社 本殿と拝殿	かしまじんじや ほんでんとはいでん	G0052	1-	119
鹿嶋神社の宮相撲	かしまじんじやのみやずもう	G0036	1-	116
学校法人 筑紫女学園	がっこうほうじん ちくしじょがくえん	C0027	1-	50
勝田方面からの道	かつたほうめんからのみち	I0048	2-	101
金掛天満宮(水神・大黒天・天満宮)	かねかかけてんまんぐう	C0015	1-	49
歌碑(三条実美)	かひ	C0050	2-	22
歌碑(春はもえ・・・)	かひ	A0066	1-	19
龜門神社	かまどじんじや	A0072	1-	20
龜門神社新宮(北谷遙拝所)	かまどじんじやしんぐう	A0013	1-	13
上ノ池をのぞむ風景	かみのいけをのぞむふうけい	E0103	1-	74
神ノ前竈跡	かみのまえかまあと	H0061	1-	131
神辰し(坂本八幡神社)	かみもとし	F0177	2-	45
カヤノ遺跡	かやのいせき	H0055	1-	130
ガランさま(坂本八幡神社)	がらんさま	F0169	2-	43
菟萱大橋	かるとかやおおはし	F0046	1-	93
菟萱の閑跡の碑	かるとかやのせきあとのひ	F0040	1-	92
菟萱橋	かるとかやばし	G0005	1-	113
川原地下道(太宰府市-07)	かわはらちかどう	E0059	1-	68
鑑真和尚供養五輪塔	かんぜんおしょうくようごりんとう	F0290	2-	63
観世音寺	かんぜおんじ	F0277	2-	61
観世音寺	かんぜおんじ	F0103	1-	102
観世音寺大橋	かんぜおんじおおはし	F0094	1-	101
観世音寺伽藍絵図	かんぜおんじがらんえず	F0264	2-	59
観世音寺区のほんげんぎょう	かんぜおんじくのほんげんぎょう	F0142	1-	108
観世音寺参道の大石	かんぜおんじさんどうのおおいし	F0226	2-	53
観音像	かんのんぞう	F0220	2-	52
観音堂	かんのんどう	A0067	2-	12
観音堂	かんのんどう	E0217	2-	33
観音堂	かんのんどう	F0124	1-	105
観音堂	かんのんどう	H0009	1-	124
観音堂	かんのんどう	E0013	1-	61
観音堂と観音像	かんのんどうとかんのんぞう	F0037	1-	92
灌仏会(花まつり)(戒壇院)	かんぶつえ	F0313	2-	67
キウヤノ山	きうやのやま	I0030	2-	98
北谷口橋	きただにぐちばし	A0051	1-	17
北谷地藏堂	きただにじぞうどう	A0024	1-	14
北谷ダム	きただにだむ	A0001	1-	11
北谷地区の井川	きただにちくのいづか	A0075	1-	21
北谷の道標	きただにのみちしるべ	A0014	1-	13
寄附記念碑(坂本八幡神社)	きふきねんひ	F0168	2-	43
貴船神社	きふねじんじや	A0021	1-	14
旧落合橋親柱	きゅうおちあいはしおやばしら	G0050	1-	119
旧落合橋擬宝珠円柱	きゅうおちあいはしぎほうじゅえんちゅう	G0049	1-	118
旧河川	きゅうかせん	E0074	1-	70
旧小字石碑「カヤノ」	きゅうこあざせきひ かやの	H0078	1-	134
「旧小字 田中」の石碑	きゅうこあざたなかのせきひ	G0009	1-	114
旧小字標 油田	きゅうこあざひょう あぶらでん・あぶらだ	F0146	1-	108
旧小字標 垣添	きゅうこあざひょう かのぞえ	G0043	1-	117
旧小字標 鶴畑	きゅうこあざひょう つるのはた・つるはた	G0057	1-	120
旧小字標 西ノ後	きゅうこあざひょう にしのうしろ	G0056	1-	120
旧小字石標 朝日	きゅうこあざひょうせき あさひ	F0114	1-	104

太宰府市文化遺産情報  
 か行【～くようとう】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
旧小字標石 安養寺	きゅうこあざひょうせき あんようじ	F0100	1-	102
旧小字標石 池田	きゅうこあざひょうせき いけだ	F0022	1-	90
旧小字標石 石橋	きゅうこあざひょうせき いしばし	F0038	1-	92
旧小字標石 今道	きゅうこあざひょうせき いまみち	F0106	1-	102
旧小字標石 浦山	きゅうこあざひょうせき うらやま	F0019	1-	89
旧小字標石 エリカド	きゅうこあざひょうせき えりかど	F0033	1-	91
旧小字標石 扇屋敷	きゅうこあざひょうせき おうぎやしき	G0080	2-	76
旧小字標石 大楠	きゅうこあざひょうせき おおぐす	F0059	1-	95
旧小字標石 大正府	きゅうこあざひょうせき おおしょうふ	F0029	1-	91
旧小字標石 学業	きゅうこあざひょうせき がくぎょう	F0082	1-	99
旧小字標石 北ノ橋	きゅうこあざひょうせき きたのはし	G0024	1-	115
旧小字標石 衣掛	きゅうこあざひょうせき きぬかけ	E0204	2-	31
旧小字標石 蔵司	きゅうこあざひょうせき くらつかさ	F0060	1-	96
旧小字標石 小正府	きゅうこあざひょうせき こしょうふ	F0030	1-	91
旧小字標石 御所ノ内	きゅうこあざひょうせき ごしょのうち	F0107	1-	103
旧小字標石 五反田	きゅうこあざひょうせき ごたんだ	F0085	1-	99
旧小字標石 住ヶ元	きゅうこあざひょうせき すみがもと	F0080	1-	99
旧小字標石 閑屋	きゅうこあざひょうせき せきや	F0043	1-	93
旧小字標石 大裏	きゅうこあざひょうせき だいら	F0122	1-	105
旧小字標石 月山	きゅうこあざひょうせき つきやま	F0079	1-	99
旧小字標石 辻	きゅうこあざひょうせき つじ	F0026	1-	90
旧小字標石 露切	きゅうこあざひょうせき つゆきり	F0111	1-	103
旧小字標石 土居ノ内	きゅうこあざひょうせき どいのうち	F0091	1-	100
旧小字標石 堂廻	きゅうこあざひょうせき どうめぐり	F0102	1-	102
旧小字標石 東蓮寺	きゅうこあざひょうせき とうれんじ	G0040	1-	117
旧小字標石 西浦	きゅうこあざひょうせき にしうら	F0021	1-	90
旧小字標石 花屋敷	きゅうこあざひょうせき はなやしき	F0017	1-	89
旧小字標石 林崎	きゅうこあざひょうせき はやしざき	F0020	1-	89
旧小字標石 半田	きゅうこあざひょうせき はんた	G0003	1-	113
旧小字標石 日吉	きゅうこあざひょうせき ひよし・ひえ	F0078	1-	98
旧小字標石 広丸	きゅうこあざひょうせき ひろまる	F0058	1-	95
旧小字標石 不丁	きゅうこあざひょうせき ふちよう	F0061	1-	96
旧小字標石 前	きゅうこあざひょうせき まえ	F0023	1-	90
旧小字標石 松ヶ浦	きゅうこあざひょうせき まつがうら	F0123	2-	41
旧小字標石 松倉	きゅうこあざひょうせき まつくら	F0031	1-	91
旧小字標石 山ノ井	きゅうこあざひょうせき やまのい	F0105	1-	102
旧小字標石 来木	きゅうこあざひょうせき らいき	F0056	1-	95
旧太宰府町道	きゅうださいふちようどう	B0072	1-	36
境界石	きょうがいせき	I0041	2-	100
共同井戸	きょうどういど	A0015	1-	13
共同井戸	きょうどういど	A0030	1-	15
共同井戸 手押しポンプ式井戸 1～7	きょうどういど ておしぼんぷしきいど	G0062	1-	120
共同井戸、共同風呂跡	きょうどういど、きょうどうぶろ	A0034	1-	15
京ノ尾遺跡	きょうのおいせき	H0059	1-	131
巨石	きよせき	F0254	2-	57
清原拐童句碑	きよはらかいどうくひ	F0234	2-	54
空屋素心大姉地藏菩薩	くうやそしんだいしじぞうぼさつ	F0242	2-	55
クスの大木	くすのだいぼく	G0058	1-	120
久保田井堰	くぼたいせき	F0045	1-	93
熊田勇吉の墓	くまだゆうきちのはか	H0016	1-	125
隈麿公奥都城	くまろこうおくつき	G0027	1-	115
グミの大木(桜並木)	ぐみのたいぼく	D0022	1-	55
区民旅行(東ヶ丘区)	くみんりょこう	D0037	2-	25
供養塔	くようとう	F0183	2-	46

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
供養塔	くようとう	E0153	1-	78
供養塔の桜	くようとうのさくら	E0154	1-	79
蔵司 稲荷堂	くらつかさ いなりどう	F0028	1-	91
くりはい箸(くりあい箸)	くりはいばし	B0098	1-	39
黒岩稲荷神社	くろいわいなりじんじや	B0013	1-	27
久郎利遺跡	くろりいせき	H0056	1-	130
クロガネ岩	くろがねいわ	I0045	2-	100
クロガネ岩城門跡	くろがねいわじょうもんあと	I0055	2-	102
勲八等吉塚寿人之碑	くんはつとうよしづかひさとのひ	F0196	2-	48
ケイサシノ井	けいさしのい	E0006	1-	60
敬老会(東ヶ丘区)	げいろうかい	D0036	2-	25
結界石(戒壇院)	けっかいせき	F0283	2-	62
結界石(戒壇院)	けっかいせき	F0302	2-	65
結界石(戒壇院)	けっかいせき	F0304	2-	66
「げやき」の木	げやきのき	H0024	1-	127
建重寺橋	けんじゅうしばし	B0045	1-	31
玄清法印之墓	げんせいほういんのはか	F0014	1-	89
玄清法印墓所の御世話	げんせいほういんぼしょのおせわ	F0221	2-	52
県道開通記念碑	けんどうかいつうきねんひ	A0059	1-	18
玄昉供養宝篋印塔	げんぼうくようほうきやういんとう	F0278	2-	61
玄昉の墓	げんぼうのはか	F0147	1-	108
玄昉の墓標石	げんぼうのぼひょうせき	F0280	2-	62
玄昉墓入口の石柱	げんぼうはいりぐちのせきちゆう	F0279	2-	61
献木碑	けんぼくひ	G0154	2-	84
鯉・ハヤ等の生息地	こい・はやなどのせいそくち	D0017	1-	55
高射砲陣地跡	こうしゃぱうじんちあと	H0013	1-	125
甲城谷(口上谷)	こうじょうだに	F0137	1-	107
庚申尊天	こうしんそんてん	F0259	2-	58
庚申尊天	こうしんそんてん	A0076	1-	21
庚申尊天	こうしんそんてん	B0085	1-	38
庚申尊天	こうしんそんてん	B0118	1-	42
庚申尊天	こうしんそんてん	E0063	1-	68
庚申天	こうしんでん	C0028	2-	21
庚申天	こうしんでん	F0193	2-	47
庚申天	こうしんでん	F0099	1-	101
庚申天	こうしんでん	A0017	1-	13
庚申天	こうしんでん	B0008	1-	26
幸神天(庚申天)	こうしんでん	B0032	1-	29
庚申天	こうしんでん	B0047	1-	32
庚申塔(庚申天)	こうしんとう	H0033	1-	128
庚申塔	こうしんとう	B0031	1-	29
庚申塔	こうしんとう	F0077	1-	98
庚申塔	こうしんとう	F0081	1-	99
更正道路碑	こうせいどうろひ	G0032	1-	116
講堂・本堂(観世音寺)	こうどうほんどう	F0236	2-	54
講堂跡(観世音寺)	こうどうあと	F0352	2-	68
河野静雲句碑	こうのせいうんくひ	F0246	2-	56
河野静雲句碑	こうのせいうんくひ	F0013	1-	88
弘法大師・地藏様	こうぼうたいし・じぞうさま	B0107	1-	40
弘法大師堂	こうぼうたいしどう	F0184	2-	46
光明寺石庭	こうみょうじせきてい	B0086	1-	38
公民館建築記念碑	こうみんかんけんちくきねんひ	F0097	1-	101
コクウソウノダイ	こくうそうのだい	B0159	2-	18
国鉄鹿児島本線赤煉瓦造架橋	こくてつかごしまほんせんあかれんがどうかきよう	H0038	1-	128

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
国分瓦窯跡	こくぶんわらがまあと	E0113	1-	75
国分区のほんげんぎょう	こくぶくのほんげんぎょう	E0090	1-	73
国分小学校裏山の日の出が見える場所	こくぶしょうがっこううらやまのひのでがみえるばしょ	E0031	1-	63
国分小裏山より見る四王寺山(秋の風景)	こくぶしょうがっこううらやまよりみるしおうじやま	E0162	1-	80
国分小学校下の風景	こくぶしょうがっこうしたのふうけい	E0044	1-	65
国分天満宮	こくぶてんまんぐう	E0078	1-	71
国分天満宮境内の石柱	こくぶてんまんぐうけいけいだいせきちゆう	E0079	1-	71
国分天満宮の宮座	こくぶてんまんぐうのみやざ	E0170	1-	81
国分 毘沙門堂	こくぶびしゃもんどう	E0097	1-	73
国分ポスト横の石	こくぶぽすとよこのいし	E0121	1-	76
国分松本遺跡	こくぶまつもといせき	E0185	1-	83
国分寺史跡指定境界標(1)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(1)	E0091	1-	73
国分寺史跡指定境界標(10)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(10)	E0072	1-	70
国分寺史跡指定境界標(2)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(2)	E0086	1-	72
国分寺史跡指定境界標(3)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(3)	E0087	1-	72
国分寺史跡指定境界標(4)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(4)	E0070	1-	69
国分寺史跡指定境界標(5)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(5)	E0069	1-	69
国分寺史跡指定境界標(6)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(6)	E0100	1-	74
国分寺史跡指定境界標(7)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(7)	E0099	1-	74
国分寺史跡指定境界標(8)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(8)	E0081	1-	71
国分寺史跡指定境界標(9)	こくぶんじしせきしていきょうかいひょう(9)	E0071	1-	70
国分寺西側境界線の土地	こくぶんじにしがわきょうかいせんのとち	E0082	1-	71
国分寺西側境界線の延長になる道	こくぶんじにしがわきょうかいのえんちゆうになるみち	E0064	1-	69
国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの柵(1)	こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとのます(1)	E0068	1-	69
国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの柵(2)	こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとのます(2)	E0077	1-	70
国分寺西側公道の土堤にあるコンクリートの柵(3)	こくぶんじにしがわこうどうのどてにあるこんくりーとのます(3)	E0101	1-	74
国分寺西側道跡の名残をとどめる道	こくぶんじにしがわどうろあととなごりをとどめるみち	E0083	1-	71
国分寺西側と北側の境界線が交わる所	こくぶんじにしがわときたがわのきょうかいせんがまじわるどころ	E0065	1-	69
国分寺東側境界線の小道	こくぶんじひしがわきょうかいせんのこみち	E0094	2-	30
国分寺前石製燈籠	こくぶんじまえせきせいでんろう	E0155	1-	79
国分寺南側の道路	こくぶんじみなみがわのどうろ	E0058	1-	68
五穀神	ごこくしん	A0057	1-	18
五穀神	ごこくしん	C0042	2-	21
九重原のビューポイント	ここのえはらのびゅうぽいんと	A0092	2-	14
五重塔跡(観世音寺)	ごじゅうのとうあと	F0240	2-	55
五重塔心礎(観世音寺)	ごじゅうのとうしんそ	F0239	2-	55
五条遺跡	ごじょういせき	C0020	1-	49
五条公民館建設記念碑	ごじょうこうみんかんけんせつきねんひ	C0047	2-	22
五条小橋	ごじょうこばし	C0004	1-	47
五条橋	ごじょうばし	F0112	1-	103
御神井碑	ごしんいひ	E0213	2-	33
古代官道跡の名残	こたいかんどうあととなごり	H0071	1-	133
ゴタンダイデ	ごたんたいで	A0041	1-	16
五反田堰	ごたんだせき	F0090	1-	100
御大典記念碑	ごたんでんきねんひ	G0151	2-	83
古溪大明神祠	こけだいまみょうじんほら	H0014	1-	125
古墓(自然石)	こぼ	A0078	1-	21
狛犬(秋葉神社)	こまいぬ	A0083	2-	12
狛犬(王城神社)	こまいぬ	G0086	2-	77
狛犬(地祿神社)	こまいぬ	H0098	2-	89
狛犬(地祿神社)	こまいぬ	H0107	2-	90
五輪塔	ごりんとう	A0068	1-	20
五輪塔残欠	ごりんとうざんけつ	F0204	2-	49
五輪塔残欠	ごりんとうざんけつ	G0142	2-	82

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
衣掛神社(衣掛神社)	ころもかけじんじや(きぬかけじんじや)	E0050	1-	66
衣掛神社(衣掛神社)の参道(改修)	ころもかけじんじやのさんどう	E0156	1-	79
衣掛神社(衣掛神社)焼納祭	ころもかけじんじやのしょうのうさい	E0052	1-	67
衣掛神社(衣掛神社)のほんげんぎょう	ころもかけじんじやのほんげんぎょう	E0175	1-	82
衣掛神社(衣掛神社)の宮座	ころもかけじんじやのみやざ	E0173	1-	82
衣掛神社(衣掛神社)のヨド	ころもかけじんじやのよど	E0174	1-	82
金剛兵衛井戸	こんごうひょうえいど	A0070	1-	20
金堂(観世音寺)	こんどう	F0235	2-	54
金毘羅社	こんびらしゃ	H0113	2-	91
紺野地下道(太宰府市-05)	こんまらちかどう	E0163	1-	80
■さ行				
西戒壇再興碑(戒壇院)	さいかいだんさいこうひ	F0284	2-	62
祭事(国分天満宮)	さいじ	E0197	2-	30
祭事(衣掛天満宮・衣掛天神)	さいじ	E0201	2-	31
賽の神・小夜神	さいのかみ	E0041	1-	65
小夜神(賽神)の手洗鉢	さいのかみのちようすばち	E0183	2-	30
宰府の溝(1)ふれあい広場	さいふのみぞ(1)	B0113	1-	41
宰府の溝(2)	さいふのみぞ(2)	B0114	1-	41
宰府の溝(3)小鳥居小路	さいふのみぞ(3)	B0115	1-	42
宰府の溝への取水場	さいふのみぞへのしゆすいば	B0117	1-	42
坂本区のほんげんぎょう	さかもとくのほんげんぎょう	F0141	1-	108
坂本のダブリュウ	さかもとのだぶりゅう	F0128	1-	106
坂本八幡宮	さかもとはちまんぐう	F0025	1-	90
坂本方面への近道	さかもとほうめんへのちかみち	F0001	1-	87
サカモト道・車道	さかもとみちくるまみち	F0145	2-	41
坂本村	さかもとむら	F0135	1-	107
鷺田川	さぎたがわ	G0014	2-	73
鷺田川更正工事之碑	さぎたがわこうせいこうじのひ	G0096	2-	79
鷺田川の鯉のたまり場	さぎたがわのこいのたまりば	G0017	2-	73
鷺田橋親柱	さぎたばしのおやばしら	G0054	1-	119
桜の大木跡	さくらのたいぼくあと	H0004	1-	124
座頭の塔(玄清法印墓)	ざとうのとう	B0088	1-	38
佐野浦集落	さのうらしゅうらく	H0053	1-	130
佐野塾跡	さのじゆくあと	H0060	1-	131
幸の元井堰取水口跡	さいのともいせきしゆすいこうあと	B0005	1-	25
猿澤池跡	さるさわいけあと	F0261	2-	59
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	E0215	2-	33
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	F0167	2-	43
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	G0094	2-	79
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0093	2-	88
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0111	2-	91
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0022	1-	126
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0031	1-	128
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0051	1-	129
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0052	1-	130
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	H0082	1-	135
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	B0082	1-	37
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	E0016	1-	62
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	E0030	1-	63
猿田彦大神	さるたひこおおかみ	E0088	1-	72
猿田彦大神・大行事塔ほか	さるたひこおおかみ・だいぎょうじとうほか	D0012	1-	55
猿田彦尊	さるたひこそん	H0028	1-	127
申田彦尊	さるたひこそん	H0077	1-	134
猿田彦尊	さるたひこそん	A0069	1-	20

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
猿田彦尊	さるたひこそん	B0035	1-	30
猿田彦太神	さるたひこだいじん	G0060	1-	120
猿田彦太神碑	さるたひこだいじんひ	G0031	1-	116
三十三観音碑(観世音寺)	さんじゅうさんかんのんひ	F0225	2-	53
三条・天満宮方面への仕事道	さんじょう・てんまんぐうほうめんへのしごとみち	B0059	1-	34
三條橋	さんじょうばし	B0036	1-	30
山門礎石(戒壇院)	さんもんそせき	F0311	2-	67
汐井川	しおいがわ	H0017	1-	125
潮井台(坂本八幡神社)	しおいだい	F0173	2-	44
潮井台(日吉神社)	しおいだい	F0207	2-	50
潮井台(王城神社)	しおいだい	G0088	2-	78
潮井台(地祿神社)	しおいだい	H0115	2-	92
潮井台(潮齋台)	しおいだい	F0048	1-	94
四王寺跡(四王院跡)	しおうじあと	I0021	2-	97
四王寺跡山門天語り	しおうじびしゃもんでんまいり	I0019	2-	97
四王寺村	しおうじむら	I0006	2-	95
四王寺山三十三石仏	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ	B0119	1-	42
四王寺山三十三石仏 第1番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいちばんふだしょ	B0012	1-	26
四王寺山三十三石仏 第9番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいきゅうばんふだしょ	B0060	1-	34
四王寺山三十三石仏 第5番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいきゅうばんふだしょ	B0068	1-	35
四王寺山三十三石仏 第31番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいさんじゅういちばんふだしょ	B0074	1-	36
四王寺山三十三石仏 第33番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいさんじゅうさんばんふだしょ	I0016	2-	96
四王寺山三十三石仏 第32番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいさんじゅうにばんふだしょ	B0073	1-	36
四王寺山三十三石仏 第30番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいさんじゅうばんふだしょ	F0002	1-	87
四王寺山三十三石仏 第3番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいさんばんふだしょ	B0065	1-	35
四王寺山三十三石仏 第11番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅういちばんふだしょ	B0058	1-	33
四王寺山三十三石仏 第19番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうきゅうばんふだしょ	I0008	2-	95
四王寺山三十三石仏 第15番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうごばんふだしょ	B0053	1-	33
四王寺山三十三石仏 第13番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうさんばんふだしょ	B0055	1-	33
四王寺山三十三石仏 第17番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうななばんふだしょ	B0051	1-	32
四王寺山三十三石仏 第12番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうにばんふだしょ	B0057	1-	33
四王寺山三十三石仏 第18番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうはちばんふだしょ	B0050	1-	32
四王寺山三十三石仏 第10番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうばんふだしょ	B0061	1-	34
四王寺山三十三石仏 第14番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうよんばんふだしょ	B0056	1-	33
四王寺山三十三石仏 第16番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいいじゅうろくばんふだしょ	B0052	1-	32
四王寺山三十三石仏 第7番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいななばんふだしょ	B0067	1-	35
四王寺山三十三石仏 第21番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅういちばんふだしょ	I0010	2-	95
四王寺山三十三石仏 第29番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうきゅうばんふだしょ	I0015	2-	96
四王寺山三十三石仏 第25番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうごばんふだしょ	I0014	2-	96
四王寺山三十三石仏 第23番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうさんばんふだしょ	I0012	2-	96
四王寺山三十三石仏 第27番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうななばんふだしょ	E0005	1-	60
四王寺山三十三石仏 第22番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうにばんふだしょ	I0011	2-	95
四王寺山三十三石仏 第28番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうはちばんふだしょ	E0007	1-	60
四王寺山三十三石仏 第20番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうばんふだしょ	I0009	2-	95
四王寺山三十三石仏 第24番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうよんばんふだしょ	I0013	2-	96
四王寺山三十三石仏 第26番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにじゅうろくばんふだしょ	E0001	1-	60
四王寺山三十三石仏 第2番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいにばんふだしょ	B0064	1-	34
四王寺山三十三石仏 第8番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいはちばんふだしょ	B0063	1-	34
四王寺山三十三石仏 第4番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいよんばんふだしょ	B0066	1-	35
四王寺山三十三石仏 第6番札所	しおうじやまさんじゅうさんせきぶつ だいろくばんふだしょ	B0069	1-	35
四王寺山の井戸 持国天ノ井	しおうじやまのいど じこくてんのい	B0054	1-	33
四王寺山の井戸 増長天ノ井	しおうじやまのいど ぞうちやうてんのい	B0075	1-	36
四王寺山の井戸 4 毘沙門天ノ井	しおうじやまのいど びしゃもんでんのい	I0020	2-	97
四王寺山のビューポイント 1	しおうじやまのびゅーぽいんと 1	E0002	1-	60

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
四王寺山のビューポイント 2	しおうじやまのびゅうぽいんと 2	E0008	1-	61
四王寺山のビューポイント 3	しおうじやまのびゅうぽいんと 3	E0009	1-	61
四王寺山のビューポイント 4	しおうじやまのびゅうぽいんと 4	B0155	2-	17
四王寺山のビューポイント 5	しおうじやまのびゅうぽいんと 5	B0070	1-	35
四王寺山のビューポイント 6	しおうじやまのびゅうぽいんと 6	B0062	1-	34
四王寺山のビューポイント 7	しおうじやまのびゅうぽいんと 7	I0038	2-	99
四王寺林道開設記念碑	しおうじやまのびゅうぽいんと 7	F0003	1-	87
しかけ水路	しかけすいろう	A0007	1-	12
四季桜	しきざくら	G0012	1-	114
式部稲荷下宮	しきぶいなりげぐら	A0063	1-	19
軸穴のある石	じくあなのあるいし	F0201	2-	49
軸穴のある礎石	じくあなのあるせせき	F0244	2-	56
軸穴のある丸石	じくあなのあるまるいし	F0299	2-	65
寺号碑(観世音寺)	じごうひ	F0224	2-	52
史蹟大宰府陸境界碑	しせきだざいふあんときょうがいひ	F0069	1-	97
史蹟大宰府址境(界)碑	しせきだざいふあんときょうがいひ	F0076	1-	98
史蹟大宰府陸境	しせきだざいふあんとひ	F0064	1-	96
史蹟筑前國分寺跡(児童公園内)の石柱	しせきちくぜんこくぶんじあとのせきちゅう	E0089	1-	72
史蹟の公有地境界石柱(1)	しせきのこうゆうちきょうがいせきちゅう(1)	E0076	1-	70
史蹟の公有地境界石柱(2)	しせきのこうゆうちきょうがいせきちゅう(2)	E0096	1-	73
史蹟水城跡境界(1)	しせきみずきあときょうがい(1)	E0043	1-	65
史蹟水城跡境界(2)	しせきみずきあときょうがい(2)	E0046	1-	66
史蹟水城跡境界(3)	しせきみずきあときょうがい(3)	E0048	1-	66
史蹟水城跡境界(4)	しせきみずきあときょうがい(4)	E0172	1-	82
史蹟水城跡境界(5)	しせきみずきあときょうがい(5)	E0035	1-	64
自然石	しぜんせき	A0011	1-	12
地藏堂	じぞうどう	G0072	2-	75
地藏堂	じぞうどう	H0010	1-	124
地藏堂	じぞうどう	A0064	1-	19
地藏堂	じぞうどう	A0065	1-	19
地藏菩薩	じぞうぼさつ	A0071	1-	20
地藏菩薩(板碑)	じぞうぼさつ	A0073	1-	20
慈母観音(子安観音)	じぼかんのん	B0027	1-	28
島本遺跡	しまもといせき	H0018	1-	126
清水谷トンネル	しみずだにとんねる	C0023	1-	50
注連打ち(坂本八幡神社)	しめうち	F0179	2-	45
下大利橋	しもおおりばし	E0014	1-	62
下川原橋	しもかわらばし	G0047	1-	118
十一面観音群	じゅういちめんかんのんぐん	D0002	1-	54
十三仏堂	じゅうさんぶつどう	G0071	2-	75
十三仏堂	じゅうさんぶつどう	F0036	1-	92
集水橋	しゅうすいまた	E0168	1-	81
主城ヶ原	しゅじょうがはら	I0051	2-	101
小学校移転記念碑	しょうがっこういてんきねんひ	F0155	2-	41
小学校設備費寄付者芳名碑	しょうがっこうせつびひききふしやほうめいひ	F0156	2-	41
頌徳碑	しょうとくひ	F0157	2-	41
少式資能顕彰碑	しょうしきすけよしけんしょうひ	F0219	2-	52
少式資能墓	しょうしきすけよしのはか	F0150	1-	109
小祠、仏堂の信仰行事(吉松)	しょうほこら、ぶつどうのしんこうぎょうじ	H0066	1-	132
鐘楼(戒壇院)	しょうろう	F0312	2-	67
白川橋	しろかわばし	C0001	1-	47
「白川橋」の石柱	しろかわばしのせきちゅう	C0002	1-	47
新池(窪の池、窯の池、瓦窯の池)	しんいけ	E0110	1-	75
新池土堤	しんいけどて	E0111	1-	75

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
新池 墓石	しんいけはかいし	E0112	1-	75
神牛塚	しんぎゅうづか	C0025	1-	50
新溜池・新池	しんためいりき しんいけ	A0006	1-	11
神殿改築記念碑(王城神社)	しんでんかいかいぢきねんひ	G0098	2-	79
神田碑(日吉神社)	しんでんひ	F0202	2-	49
陣ノ尾1号墳	じんのおいちごうふん	E0144	1-	77
陣ノ尾川沿いの道	じんのおがわぞいのみち	E0056	1-	67
陣ノ尾川の側溝	じんのおがわのそっこう	E0057	1-	67
新町	しんまち	B0089	1-	38
新向佐野地下道	しんむかいざのちかどう	H0073	1-	133
眞嘗親王墓	しんよしんのうはか	A0012	1-	12
瑞雲塔(横岳崇福寺)	ずいうんとう	F0216	2-	51
水準点	すいじゅんてん	E0114	1-	75
水城院への参詣道	すいじょういんへのさんけいみち	H0067	1-	132
水神	すいじん	E0214	2-	33
水路(旧日田街道沿いの水路)	すいろ	E0021	1-	62
姿見の井	すがたみのい	E0049	1-	66
菅原道真漢詩碑	すがわらみちざねかんしひ	G0143	2-	82
朱雀大橋	すざくおおはし	F0089	1-	100
清水記碑	せいすいきひ	F0241	2-	55
晴明の井と祠	せいめいのいとほこら	G0134	2-	81
晴明井のエノキ	せいめいのいのえのき	G0038	1-	117
ゼウウンノハカ	ぜううんのはか	F0152	1-	109
石材切り出場	せきざいきりだしば	I0032	2-	98
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうたいしざぞう	A0079	2-	12
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうたいしざぞう	A0089	2-	13
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうたいしざぞう	A0091	2-	14
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうたいしざぞう	G0073	2-	75
石造地藏菩薩立像	せきぞうじぞうぼさつりゅうぞう	A0086	2-	13
石造地藏菩薩立像	せきぞうじぞうぼさつりゅうぞう	F0296	2-	64
石造釈迦如来坐像	せきぞうしやくかにょらいざぞう	A0088	2-	13
石造修行大師立像	せきぞうしゆぎょうたいしりゅうぞう	A0087	2-	13
石造不動明王立像	せきぞうふどうみょうおうりゅうぞう	A0090	2-	13
石塔	せきとう	B0087	1-	38
石塔群	せきとうぐん	F0255	2-	58
石塔群	せきとうぐん	F0286	2-	63
石塔残欠	せきとうざんけつ	F0170	2-	43
石塔残欠	せきとうざんけつ	F0306	2-	66
石碑	せきひ	C0049	2-	22
石碑	せきひ	F0200	2-	48
石碑	せきひ	F0209	2-	50
石碑	せきひ	F0227	2-	53
石碑(神徳如天)	せきひ	H0019	1-	126
石碑	せきひ	H0023	1-	126
石碑	せきひ	F0041	1-	92
石碑を利用した石橋	せきひをりようしたいしばし	F0249	2-	57
石仏	せきぶつ	F0297	2-	64
関屋	せきや	F0053	1-	94
関屋井堰復旧工事碑	せきやいぜきふっきゅうこうじひ	G0048	1-	118
関屋えびすさん祭り	せきやえびすさんまつり	F0160	2-	42
関屋のつなぎだご	せきやのつなぎだご	F0130	1-	106
関屋の道標(元禄4年の道標)	せきやのみちしるべ	F0049	1-	94
関屋の道標(享和2年の道標)	せきやのみちしるべ	F0050	1-	94
関屋橋	せきやばし	G0004	1-	113



名称	読み仮名	登録番号	号	頁
関屋橋の碑	せきやばしのひ	F0052	1-	94
線刻地蔵菩薩像	せんこくじぞうぼさつぞう	F0247	2-	56
善五郎稲荷祠(中宮)	ぜんごろういなりほこら	B0011	1-	26
千手観音(筑紫四国第九十五番札所)	せんじゆかんのん	E0045	1-	65
千手観音堂	せんじゆかんのんどう	H0037	2-	88
善正寺ヤシキ	ぜんじようじやしき	F0136	1-	107
センダン	せんたん	G0139	2-	81
ソイライデ	そいらいで	A0038	1-	16
ソイラ5号橋	そいらごごうばし	A0042	1-	17
ソイラ3号橋	そいらさんごうばし	A0035	1-	15
ソイラ2号橋	そいらにごうばし	A0026	1-	15
ソイラ橋	そいらばし	A0037	1-	16
ソイラ4号橋	そいらよんごうばし	A0036	1-	16
僧房跡(観世音寺)	そうぼうあと	F0262	2-	59
創立百周年記念碑	そくりつひゃくしゅうねんきねんひ	F0158	2-	41
礎石	そせき	F0257	2-	58
礎石	そせき	G0059	1-	120
礎石(伝国分尼寺の礎石)	そせき	E0146	1-	77
染川(藍染川)	そめがわ	B0080	1-	37
村社昇格記念碑(地祿神社)	そんしゃしょうかくきねんひ	H0101	2-	89
■た行				
大行事塔(東蓮寺)	たいぎようじとう	G0055	1-	119
大行事塔	たいぎようじとう	A0056	1-	18
大行事碑	たいぎようじひ	F0140	1-	107
大行事碑	たいぎようじひ	E0120	1-	76
大国神社	たいこくじんにや	B0110	1-	41
醍醐橋	たいごぼし	B0042	1-	31
台座・旗立石残欠	たいざ・はたたていしざんけつ	G0153	2-	84
大師様	たいしさま	C0026	1-	50
大師堂	たいしどう	C0044	2-	21
大師堂	たいしどう	F0108	1-	103
大師堂	たいしどう	A0025	1-	15
大師堂	たいしどう	A0052	1-	18
大師堂	たいしどう	B0034	1-	29
大師堂	たいしどう	B0049	1-	32
大乗妙典一字一石塔	だいじょうみょうてんいちじいっせきとう	F0281	2-	62
大日堂	だいにちどう	B0030	1-	29
大日堂	だいにちどう	B0033	1-	29
大日如来	だいにちにょらい	A0039	1-	16
大日如来像	だいにちにょらいぞう	H0039	1-	129
大日ノ塔	だいにちのとう	I0022	2-	97
戒壇院大般若祈祷会・御施餓鬼供養	だいはんにやきとうえ おせがきくよう	F0314	2-	67
大麻頒布式祭(王城神社)	たいまはんぷしきさい	G0100	2-	80
平重盛の墓	たいらのしげもりのはか	B0046	1-	31
大陸山 水城院(廃寺跡)	たいりくざん すいじょういん	H0012	1-	125
高尾川周辺の豊かな自然(1)	たかおがわしゅうへんのゆたかなしぜん(1)	D0006	1-	54
高砂橋	たかさごばし	B0003	1-	25
高橋構口跡	たかはしかまえぐち	C0021	1-	49
高橋口橋	たかはしぐちのはし	F0113	1-	103
高橋紹運公墓道碑	たかはしじょううんこうぼどうひ	F0095	1-	101
高橋紹運墓(胴塚)	たかはしじょううんはか	F0004	1-	87
高浜虚子歌碑(夜都府楼跡に行む・・・)	たかはまきよしかひ	F0062	1-	96
大宰府跡(大宰府政庁跡、都府楼跡)	だざいふあと	F0133	1-	106
太宰府址碑	だざいふあとひ	F0073	1-	98

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
太宰府安養院跡五輪塔残欠	だざいふあんよういんあとごりんとうざんけつ	F0125	1-	105
太宰府口城門跡	だざいふぐちじょうもんあと	B0090	1-	39
大宰府条坊跡	だざいふじょうぼうあと	F0153	1-	109
大宰府条坊の名残	だざいふじょうぼうの名残り	H0074	1-	133
大宰府条坊の名残	だざいふじょうぼうの名残り	H0075	1-	133
大宰府条坊の名残 2	だざいふじょうぼうの名残り 2	G0041	1-	117
大宰府条坊の名残 3	だざいふじょうぼうの名残り 3	G0046	1-	118
大宰府正門礎石(朱雀門礎石)	だざいふせいもんそせき	F0063	1-	96
太宰府天満宮の常夜燈	だざいふてんまんぐうのじょうやとう	A0060	1-	18
太宰府碑	だざいふひ	F0071	1-	97
多々良井堰	たたらいぜき	G0028	1-	115
多々良橋碑	たたらばしひ	G0081	2-	77
たな池	たないけ	A0016	1-	13
田中の森(西の陵)	たなかのもり	G0008	1-	114
田中橋	たなかばし	G0010	1-	114
田中橋碑	たなかばしひ	G0099	2-	80
棚田の景観	たなだのけいかん	F0008	1-	88
七夕籠り(日吉神社)	たなばたごもり	F0210	2-	50
谷池	たにいけ	A0008	1-	12
タバコ田	たばこだ	I0024	2-	97
玉石垣(観世音寺)	たまいしがき	F0245	2-	56
玉石垣支柱とトウカエデ	たまいしがきしちゆうととうかえで	F0070	1-	97
玉垣(王城神社)	たまがき	G0078	2-	76
溜池「奥ノ池」の水路	ためいけ「おくのいけ」のすいろう	E0105	1-	74
溜池「奥ノ池」の水路	ためいけ「おくのいけ」のすいろう	E0106	1-	75
太郎左近社	たろうさこんしゃ	C0019	1-	49
団地バス(東ヶ丘区)	だんちばす	D0038	2-	26
田圃沿いの昔の道	たんぼぞいのむかしのみち	E0023	1-	62
力石	ちからいし	C0017	1-	49
筑紫四国第12番札所	ちくしこくだいじゅうにばんふだしょ	D0016	1-	55
筑紫四国29番札所	ちくしこくにじゅうきゅうばんふだしょ	D0001	1-	54
筑前国分尼寺跡	ちくぜんこくぶんじあと	E0053	1-	67
筑前国分尼寺の東側の道	ちくぜんこくぶんじのひがしがわのみち	E0055	1-	67
筑前国分尼寺南側の境界線	ちくぜんこくぶんじのみなみがわのきょうがいせん	E0054	1-	67
筑前国分寺(龍頭光山筑前国分寺)	ちくぜんこくぶんじ(りゅうとうこうざん ちくぜんこくぶんじ)	E0075	1-	70
筑前国分寺跡	ちくぜんこくぶんじあと	E0195	2-	30
筑前国分寺講堂跡	ちくぜんこくぶんじこうどうあと	E0080	1-	71
血方持観音	ちげもちかんのん	C0013	1-	48
血方持さまのエノキ	ちげもちさまのえのき	C0046	2-	22
チゾウ	ちぞう	I0050	2-	101
茶臼山・チャウスヲ・チャウソ	ちやうすやま・ちやうすを・ちやうそ	I0029	2-	98
茶室(戒壇院)	ちやしつ	F0309	2-	66
忠魂碑	ちゅうこんひ	H0099	2-	89
手水鉢(坂本八幡神社)	ちやうずばち	F0172	2-	44
手洗鉢(日吉神社)	ちやうずばち	F0208	2-	50
手洗鉢(戒壇院)	ちやうずばち	F0294	2-	64
手水鉢(王城神社)	ちやうずばち	G0089	2-	78
手水鉢(鹿嶋神社)	ちやうずばち	G0155	2-	84
手水鉢(地祿神社)	ちやうずばち	H0108	2-	90
手水鉢(地祿神社)	ちやうずばち	H0109	2-	91
地祿神社	ちろくじんじや	H0049	1-	129
地祿神社(イチイガシ)	ちろくじんじや	H0085	1-	135
築地堀があったと思われる場所	ついでべいがあったとおもわれるばしょ	E0085	1-	72
塚	つか	F0093	1-	101

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
月次祭(水城地区の合同月次祭)	つきなみさい	G0102	2-	80
手押しポンプ	ておしぼんぷ	G0074	2-	75
父子島	ててこじま	H0001	1-	124
出水推定地	でみずすいでいち	I0046	2-	100
伝衣塔	でんえとう	B0081	1-	37
礎礎	でんがひ	F0256	2-	58
伝北門礎石(観世音寺)	でんきたもんそせき	F0238	2-	55
天神の森	てんじんのもり	H0030	1-	127
天智院(観世音寺)	てんちいん	F0229	2-	53
天智塔	てんちとう	F0251	2-	57
伝「鶴の墓」の石	でんつるのほかのいし	G0025	1-	115
天王寺屋浦了夢供養塔	てんのうじやうらりょうむくようとう	F0289	2-	63
天拝橋	てんばいばし	A0062	1-	19
天満宮一の鳥居(関屋の鳥居)	てんまんぐういちのとりい	F0051	1-	94
伝業師如来坐像(国分密寺)	でんやくしにょらいざぞう	E0198	2-	30
天龍祠	てんりゅうほこら	F0182	2-	45
塔心礎石(般若寺跡)	とうしんそせき	G0145	2-	82
導水トンネル(新山の井池～上方・朝日水路)	どうすいとんねる	F0117	1-	104
導水トンネル(新山の井池導水トンネル入口)	どうすいとんねる	F0120	1-	104
導水トンネル(安の浦から安養寺地区)	どうすいとんねる	F0144	1-	108
導水トンネル(安の浦池から学業地区へ)	どうすいとんねる	F0148	1-	109
東蓮寺橋	とうれんじばし	G0006	1-	113
道路更正碑	どうろこうせいひ	F0166	2-	43
道路更正碑	どうろこうせいひ	F0096	1-	101
道路造成(田中-松本線)記念碑	どうろぞうせいきねんひ	E0066	1-	69
時の記念日の行事	ときのみねんびのぎょうじ	F0127	1-	105
土地寄贈碑	とちきぞうひ	C0048	2-	22
土地寄贈碑	とちきぞうひ	F0159	2-	42
都督府古趾	ととくふこせき	F0072	1-	98
「とののくち」の名称表示	とののくちのめいしょうひょうじ	G0045	1-	118
飛梅の原木	とびうめのげんぼく	G0026	1-	115
都府楼教員住宅	とふろうきょういんじゅうたく	G0022	1-	114
都府楼団地夏祭り	とふろうだんちなつまつり	G0023	1-	115
都府楼道路開通記念碑	とふろうどうろかいつうきねんひ	F0066	1-	97
都府楼之址従是町碑	とふろうのあとこれよりいっちょうひ	F0065	1-	96
都府楼橋	とふろうばし	F0088	1-	100
都府楼橋碑	とふろうばしひ	F0087	1-	100
「都府楼南駅前通り」の表示塔	とふろうみなみえきまえどおりのひょうじとう	G0018	2-	73
鳥居(秋葉神社)	とりい	A0085	2-	13
鳥居(坂本八幡神社)	とりい	F0163	2-	42
鳥居(日吉神社)	とりい	F0192	2-	47
鳥居(日吉神社)	とりい	F0195	2-	48
鳥居(王城神社)	とりい	G0075	2-	76
鳥居(菅原神社)	とりい	G0137	2-	81
鳥居(鹿嶋神社)	とりい	G0148	2-	83
鳥居(地祇神社)	とりい	H0095	2-	88
ドロクサンヤネのセンダン	どろくさんやねのせんだん	G0051	1-	119
どろんこ祭り	どろんこまつり	E0171	1-	81
どんど焼き(東ヶ丘区)	どんどやき	D0042	2-	26
ドンドン原・ドンドンオトシ	どんでんばる・どんでんおとし	I0033	2-	99
■な行				
長浦遺跡	ながうらいせき	H0069	1-	132
中谷(ナガタニ・長谷)	なかに	I0031	2-	98
長塚節歌碑	ながつかたかしかひ	F0233	2-	54

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
夏のヨド(オカッテンサン)	なつのよど	F0191	2-	47
夏祭り	なつまつり	D0029	1-	56
成屋形遺跡	なりやかたいせき	E0147	1-	78
成屋形遺跡出土箱式石棺	なりやかたいせきしゅつどはこしきせつかん	E0212	2-	33
成屋形古墳	なりやかたこふん	E0211	2-	32
成屋形地下道(太宰府市-01)	なりやかたちかどう	E0159	1-	79
ナンキンハゼの林	なんきんはぜのはやし	F0253	2-	57
南大門礎石(観世音寺)	なんたいもんそせき	F0228	2-	53
西島伊三雄風景(宝満山)画(油絵)	にしじまいさおふうけいが	D0009	1-	54
西ノ池	にしのおいけ	E0060	1-	68
西ノ池の景観	にしのおいはけいかん	E0196	2-	30
日中不戦植樹の碑	にちちゆうふせんしょくじゆのひ	F0285	2-	62
二のイデ	にのいで	A0005	1-	11
日本経済大学	にほんけいざいだいがく	C0011	1-	48
ヌノハエ石(推定)	ぬのはえいし	B0076	1-	36
野口地下道(太宰府市-03)	のぐちかどう	E0165	1-	80
ノダフジ	のだふじ	F0250	2-	57
幟(坂本八幡神社)	のぼり	F0176	2-	44
■は行				
梅香苑区の夏祭り	ばいこうえんくのなつまつり	D0033	2-	25
拝殿(老松神社)	はいでん	E0208	2-	32
拝殿(坂本八幡神社)	はいでん	F0213	2-	51
拝殿の絵馬(地祇神社)	はいでんのえま	H0110	2-	91
旗立石	はたたていし	C0045	2-	22
旗立石(坂本八幡神社)	はたたていし	F0164	2-	42
旗立石(王城神社)	はたたていし	G0077	2-	76
旗立石(王城神社)	はたたていし	G0083	2-	77
旗立石	はたたていし	G0103	2-	80
旗立石(菅原神社)	はたたていし	G0136	2-	81
旗立石(鹿嶋神社)	はたたていし	G0147	2-	83
旗立石(地祇神社)	はたたていし	H0106	2-	90
旗立石(日吉神社)	はたたていし	F0151	1-	109
旗立石	はたたていし	B0083	1-	37
八幡宮遙拝所	はちまんぐうようはいじよ	H0026	1-	127
八朝の千燈明	はっさくのせんとうみょう	B0079	1-	37
八反田イデ	はったんだいで	A0043	1-	17
八反田地下道(太宰府市-04)	はったんだちかどう	E0149	1-	78
八反田橋	はったんだばし	A0044	1-	17
花立(秋葉神社)	はなたて	A0082	2-	12
花立(衣掛天満宮・衣挂天神)	はなたて	E0200	2-	31
花立(坂本八幡神社)	はなたて	F0174	2-	44
花立(日吉神社)	はなたて	F0206	2-	49
花立(王城神社)	はなたて	G0087	2-	78
花立(地祇神社)	はなたて	H0097	2-	89
はね石	はねいし	A0018	1-	13
原遺跡	はらいせき	B0105	1-	40
原野百太郎記念碑	はらのひやくたろうきねんひ	F0194	2-	47
原八坊中堂跡	はらはちぼうちゅうどうあと	B0101	1-	39
原八坊本堂跡	はらはちぼうほんどうあと	B0020	1-	28
半田橋	はんだばし	G0002	1-	113
番帳による掃除番(オカッテンサン)	ばんちようによるそうじばん	F0190	2-	47
番帳による灯明番	ばんちようによるとうみょうばん	F0222	2-	52
般度の滝	はんどのたき	F0149	1-	109
般度の滝行堂表札(オカッテンサン)	はんどのたきぎょうどうひょうさつ	F0187	2-	46

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
般若寺	はんにゃじ	G0146	2-	83
般若寺跡	はんにゃじあと	G0144	2-	82
般若寺跡 石造七重塔	はんにゃじあと せきぞうななじゅうのとう	G0030	1-	116
東ヶ丘だより	ひがしがおかだより	D0028	1-	56
東ヶ丘団地簡易郵便局の開設	ひがしがおかだんちかんいゆうびんきょくのかいせつ	D0030	1-	56
東谷口築堤碑	ひがしだにくちちていひ	F0139	1-	107
東の陵(東蓮寺跡、薬師山)	ひがしのりょう	G0007	1-	114
引陣地藏	ひきちごぞう	E0116	1-	76
ビシャモン田	びしゃもんだ	I0034	2-	99
毘沙門天の鳥居	びしゃもんでんのとりい	B0111	1-	41
毘沙門天祠	びしゃもんでんほこら	G0061	2-	74
毘沙門堂	びしゃもんどう	I0018	2-	96
毘沙門堂	びしゃもんどう	H0034	1-	128
毘沙門堂	びしゃもんどう	B0025	1-	28
毘沙門堂への道	びしゃもんどうへのみち	I0007	2-	95
毘沙門まいり	びしゃもんまいり	E0148	1-	78
毘沙門詣りの道(現在の道)	びしゃもんまいりのみち	E0182	1-	83
毘沙門詣りの道1(旧道から)	びしゃもんまいりのみち1	E0177	1-	82
毘沙門詣りの道2(裏ノ田地下道〜裏ノ田池)	びしゃもんまいりのみち2	E0178	1-	83
毘沙門詣りの道3(裏ノ田池〜みどり公園)	びしゃもんまいりのみち3	E0179	1-	83
毘沙門詣りの道4(水城団地内に残る道)	びしゃもんまいりのみち4	E0180	1-	83
毘沙門詣りの道5(登山口)	びしゃもんまいりのみち5	E0181	1-	83
日田街道	ひたかいどう	E0033	1-	63
日田街道(博多往還)	ひたかいどう	E0047	1-	66
ヒトツバタゴ	ひとつばたご	B0125	1-	43
ひとつっこ山(跡)	ひとつっこやま	E0034	1-	64
火の尾跡(推定)	ひのおあと	E0011	1-	61
ヒノマル	ひのまる	I0037	2-	99
ひまわり会(東ヶ丘区)	ひまわりかい	D0034	2-	25
日焼遺跡	ひやけいせき	H0070	1-	133
ヒヤケ谷・ヒヤケ	ひやけだに・ひやけ	I0026	2-	98
百間石垣	ひゃっけんいしがき	I0052	2-	101
日吉神社経塚	ひよしじんじやきょうづか	F0212	2-	50
福岡県立太宰府病院	ふくおかけんりつたさいふびょういん	C0009	1-	48
福岡女子短期大学・福岡国際大学	ふくおかじょしたんきだいがく・ふくおかくさいだいがく	C0007	1-	48
フケ遺跡	ふけいせき	H0063	1-	131
普賢道路修繕費寄付表	ふげんどうろしゅうぜんびきふひょう	B0021	1-	28
普賢橋	ふげんばし	B0002	1-	25
古川家発祥の地碑	ふるかわけはつしょうのちい	C0043	2-	21
文庫部	ぶんこぶ	D0024	1-	55
文明拾八年銘梵字板碑	ぶんめいじゅうはちねんめいぼんていたび	C0029	2-	21
別所2号橋	べつしょにごうはし	A0022	1-	14
弁財天	べんざいてん	F0305	2-	66
奉寄進碑	ほうきしんひ	G0082	2-	77
宝篋印塔	ほうきょういんとう	F0230	2-	53
宝篋印塔	ほうきょういんとう	F0291	2-	63
宝篋印塔	ほうきょういんとう	F0301	2-	65
宝篋印塔	ほうきょういんとう	F0308	2-	66
ハウシ田・ブウシ田	ほうしだ・ぶうしだ	I0025	2-	97
坊主山	ぼうずやま	F0260	2-	58
宝満宮・八幡宮	ほうまんぐう・はちまんぐう	H0025	1-	127
宝満宮・八幡宮の年間諸祭	ほうまんぐう・はちまんぐうのねんかんしよさい	H0065	1-	132
宝満宮旗立石	ほうまんぐうはたたていし	H0021	1-	126
宝満山	ほうまんざん	A0080	1-	21

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
宝満山橋	ほうまんざんばし	A0003	1-	11
宝満山を眺めるビューポイント	ほうまんざんをながめるびゅうぽいんと	D0047	2-	26
宝満神社の宮座	ほうまんじんじやのみやざ	H0086	1-	135
鉾ノ浦溜池築造之碑	ほこのうらためいけちくぞうのひ	C0010	1-	48
祠(菅原神社)	ほこら	G0138	2-	81
ボダイジュ	ぼだいじゆ	F0303	2-	65
法華塔	ほっけとう	G0069	2-	75
法華曼荼羅板碑	ほっけまんだらいたび	B0154	2-	17
梵字板碑	ぼんじいたび	G0068	2-	74
梵字岩	ぼんじいす	G0067	2-	74
梵鐘(観世音寺)	ぼんしょう	F0243	2-	56
本殿(秋葉神社)	ほんでん	A0081	2-	12
本殿(老松神社)	ほんでん	E0207	2-	32
本殿(坂本八幡神社)	ほんでん	F0175	2-	44
本殿(丸山神社)	ほんでん	H0094	2-	88
本殿跡台座(菅原神社)	ほんでんあとだいざ	G0033	1-	116
本殿の囲い(地祿神社)	ほんでんのかこい	H0096	2-	88
本殿拝殿(日吉神社)	ほんでんはいでん	F0109	1-	103
本堂(戒壇院)	ほんどう	F0310	2-	67
ポンプ式井戸	ぼんぷしきいど	H0047	1-	129
■ま行				
前田公園地下遺跡	まえだこうえんちかいいせき	H0035	1-	128
街角と高台からの眺望	まちかどとたかだいからのちようぼう	D0025	1-	56
街角と高台からの眺望	まちかどとたかだいからのちようぼう	D0026	1-	56
街角と高台からの眺望	まちかどとたかだいからのちようぼう	D0027	1-	56
松ヶ浦池からのトンネル導水	まつがうらいけからのとんねんどうすい	F0223	2-	52
松川貯水池(松川ダム)	まつがうちよすいぢ	A0074	1-	21
松川橋	まつがうばし	A0061	1-	19
松川道	まつがうへのみち	B0102	1-	40
マムシの生息地	まむしのせいそくち	G0044	1-	118
丸山神社	まるやまじんじや	H0036	1-	128
丸山神社の年間諸祭	まるやまじんじやのねんかんしよさい	H0084	1-	135
丸山神社の宮座	まるやまじんじやのみやざ	H0087	1-	135
万葉歌碑 山上億良(しろがねも…)	まんようかひ	F0185	2-	46
万葉歌碑 沙弥満誓(しらぬひ…)	まんようかひ	F0252	2-	57
万葉歌碑(妹が見し…)	まんようかひ	B0048	1-	32
万葉歌碑 娘子児島・大納言大伴卿	まんようかひ	E0167	1-	81
万葉歌碑 大伴旅人(世の中は…)	まんようかひ	F0024	1-	90
万葉歌碑 大式紀卿(正月立ち…)	まんようかひ	F0027	1-	91
万葉歌碑 大伴旅人(やすみしし…)	まんようかひ	F0067	1-	97
万葉歌碑 小野老(あをによし…)	まんようかひ	F0068	1-	97
万葉歌碑 山上億良(子等を思ふ歌)	まんようかひ	F0083	1-	99
万葉歌碑 大伴旅人(わが岡に…)	まんようかひ	F0171	2-	44
三浦湖井碑	みうらしおいのひ	B0004	1-	25
三浦の碑(五条)	みうらのひ(ごじょう)	C0003	1-	47
三浦橋	みうらばし	B0001	1-	25
御笠運河跡	みかさうんがあと	G0066	2-	74
御笠川のゴム製井堰	みかさのかわごむせいいぜき	E0122	1-	76
御笠北高等小学校之跡の碑	みかさきたこうとうしょうがっこうのあとのひ	F0055	1-	95
御笠団印出土地周辺遺跡	みかさだんいんしゅつちぞうへんいせき	F0131	1-	106
身代地藏菩薩(屋敷神)	みがわりじぞうぼさつ	E0062	1-	68
水瓶山(雲龍神)祠と石	みずかめやまほこらといし	B0010	1-	26
水瓶山道標	みずかめやまみちしるべ	B0026	1-	28
水城	みずき	E0205	2-	31

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
水城跡	みずきあと	H0062	1-	131
水城跡	みずきあと	E0145	1-	77
水城跡(東門側)	みずきあと (ひがしもんがわ)	E0036	1-	64
水城跡・線路切り通し	みずきあと・せんろきりとうし	H0064	1-	132
水城跡石碑及び関連施設	みずきあとせきひおよびかんれんしせつ	E0037	1-	64
水城瓦窯跡	みずきかわらがまあと	E0040	1-	65
水城経塚	みずききょうづか	H0068	1-	132
水城大堤の碑	みずきたいでいのひ	E0042	1-	65
「水城堤」平成15年7月豪雨被害跡	みずきてい(いせいじゅうごねんしちがつごううひがいあと)	H0003	1-	124
水城展望台(水城南西方向を見る)	みずきてんぼうだい	E0032	1-	63
水城西門跡	みずきにしもんあと	H0005	1-	124
水城の関(水城東門の礎石)	みずきのせき	E0051	1-	66
水城の渡し跡	みずきのわたしあと	E0027	1-	63
水城橋	みずきばし	E0029	1-	63
水城東門跡	みずきひがしもんあと	E0199	2-	31
水城村からの道	みずきむらからのみち	E0164	1-	80
「水城」銘 墨書土器発見場所	みずきめいぼくしよどきはつけんぼしよ	E0039	1-	64
水城木橋跡(東門)	みずきもくひあと	E0038	1-	64
水手(今、田アリ)	みずて	B0112	1-	41
水ハコビミチ・太宰府町道	みずはこびみち・ださいふちようどう	B0158	2-	17
緑台区の年中行事	みどりたいくのねんちゅうぎょうじ	D0032	2-	25
宮座(老松神社)	みやざ	E0210	2-	32
宮座(日吉神社)	みやざ	F0211	2-	50
宮座・真魚箸神事(王城神社)	みやざ・まなぼししんじ	G0101	2-	80
宮座記録(衣掛天満宮・衣挂天神)	みやざきろく	E0202	2-	31
宮座記録(老松神社)	みやざきろく	E0209	2-	32
宮座祭	みやざさい	H0081	1-	134
宮座祭	みやざさい	H0080	1-	134
宮ノ本遺跡	みやのもといせき	H0058	1-	131
宮原源作翁顕彰碑	みやはらげんさくおきなけんしやうひ	H0046	1-	129
ミョウカクイデ	みょうかくいで	A0040	1-	16
妙見祠(町方)	みょうけんぼこら(まちかた)	E0152	1-	78
妙見祠(村方)	みょうけんぼこら(むらかた)	E0010	1-	61
民家の敷地を通る道	みんかのしきちをとおるみち	E0061	1-	68
向佐野地下歩道	むかいざのちかほどう	H0072	1-	133
向佐野地区小祠・仏堂の信仰行事	むかいざのちくしやうぼこら・ぶつどうのしんこうぎょうじ	H0076	1-	134
昔の水路(トンネル入口)	むかしのすいろ	E0157	1-	79
昔の水路(トンネル出口)	むかしのすいろ	E0158	1-	79
昔の洗濯場(岩路川)	むかしのせんたくば	B0116	1-	42
ムクノキ	むくのき	G0140	2-	82
ムクノキの巨木3本	むくのきのきよぼくさんぼん	E0095	1-	73
ムクの大木	むくのたいぼく	H0105	2-	90
武藤経資供養塔	むとうつねすけくやうとう	F0217	2-	51
武藤経資顕彰碑	むとうつねすけけんしやうひ	F0218	2-	51
ムマノセ	むまのせ	B0123	1-	43
ムラの宮座(坂本八幡神社)	むらのみやざ	F0178	2-	45
明治百年記念碑	めいじひゃくねんきねんひ	E0084	1-	72
木造観音菩薩坐像	もくぞうかんのんぼさつざぞう	F0269	2-	60
木造観音菩薩立像	もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう	F0353	2-	68
木造吉祥天立像	もくぞうきつしょうてんりゅうぞう	F0275	2-	61
木造地藏菩薩半跏像	もくぞうじぞうぼさつはんかぞう	F0272	2-	60
木造地藏菩薩立像	もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう	F0273	2-	60
木造四天王立像	もくぞうしてんのうりゅうぞう	F0271	2-	60
木造十一面観音立像	もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう	F0266	2-	59

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
木造十一面観音立像	もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう	F0267	2-	59
木造十一面観音立像	もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう	F0268	2-	60
木造大黒天立像	もくぞうだいこくてんりゅうぞう	F0276	2-	61
木造馬頭観音立像	もくぞうばとうかんのんりゅうぞう	F0270	2-	60
木造毘沙門天立像(毘跋毘沙門天立像)	もくぞうびしやもんでんりゅうぞう(とばつびしやもんでんりゅうぞう)	F0274	2-	61
木造不空罽索観音立像	もくぞうふくうけんさくかんのんりゅうぞう	F0265	2-	59
モチ谷、マクノ谷(オクダン)	もちたに、おくのたに	I0028	2-	98
もちの木	もちのき	G0042	1-	117
門ノ石スエ	もんのいしすえ	F0138	1-	107
<b>■や行</b>				
薬師堂	やくしどう	C0040	2-	21
薬師堂	やくしどう	G0070	2-	75
薬師堂	やくしどう	E0142	1-	77
薬師如来・伝教大師・弘法大師	やくしにょらい・でんきやうたいし・こうぼうたいし	B0106	1-	40
薬師如来石像	やくしにょらいせきぞう	F0181	2-	45
薬師如来堂	やくしにょらいどう	B0022	1-	28
ヤシキアト	やしきあと	I0049	2-	101
安武九馬句碑	やすたけきゅうまくひ	F0231	2-	54
野鳥のねぐら	やちやうのねぐら	G0015	2-	73
八ツナミカ原、ヤシキアト	やつなみかはら、やしきあと	I0047	2-	101
山崎斌歌碑	やまざきあきらかひ	F0232	2-	54
山の井池石塔群	やまのいけせきとうぐん	F0118	1-	104
山の神	やまのかみ	A0002	1-	11
山伏墓(五条)	やまぶしのはか	C0014	1-	48
やんぶの墓(山伏塚)	やんぶのはか	F0012	1-	88
湧水取水口	ゆうすいしゆすいぐち	A0023	1-	14
夢清水	ゆめせいすい	F0237	2-	55
由来不詳の石造遺物(3)	ゆらいふしやうのせきぞういぶつ(3)	B0157	2-	17
由来不詳の石造遺物(5)	ゆらいふしやうのせきぞういぶつ(5)	I0039	2-	99
由来不詳の石造遺物(6)	ゆらいふしやうのせきぞういぶつ(6)	I0040	2-	99
由来不詳の石造遺物(7)	ゆらいふしやうのせきぞういぶつ(7)	I0043	2-	100
由来不詳の石造遺物(8)	ゆらいふしやうのせきぞういぶつ(8)	I0044	2-	100
由来不詳の石造物(1)	ゆらいふしやうのせきぞうぶつ(1)	E0012	1-	61
由来不詳の石造物(2)	ゆらいふしやうのせきぞうぶつ(2)	B0126	1-	43
由来不詳の石造物(4)	ゆらいふしやうのせきぞうぶつ(4)	E0003	1-	60
遙拝所碑	まうはいじよひ	E0216	2-	33
横岳遺跡	よこたけいせき	F0214	2-	51
横岳山崇福寺跡(勝禪寺跡)	よこたけさんそうふくじあと	F0129	1-	106
横岳崇福寺(勝禪寺跡)庭園	よこたけそうふくじ(しょうぜんじあと)ていえん	F0215	2-	51
吉松松本遺跡	よしまつまつもといせき	H0057	1-	130
夜泣き石地藏堂	よなきいしじぞうどう	B0016	1-	27
<b>■ら行</b>				
羅漢尊坐像	らかんそんざぞう	F0315	2-	67
龍上げの道	りゅうあげのみち	B0014	1-	27
龍球	りゅうたま	H0114	2-	91
龍神祠	りゅうじんぼこら	F0180	2-	45
龍頭不動明王院	りゅうとうふどうみやうおういん	A0058	1-	18
連歌屋橋	れんがやばし	B0039	1-	30
六弁の梅	ろくべんのうめ	G0141	2-	82
<b>■わ・を</b>				
若宮様(石塔)	わかみやさま	H0020	1-	126
若宮神社	わかみやじんじや	E0098	1-	73
ヲモナ石	をもないし	F0005	1-	87

太宰府市の文化財 第119集

**太宰府市文化遺産情報 2**

—文化遺産からはじまるまちづくり—

平成25(2013)年3月

**発行** 太宰府市教育委員会

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号

**印刷** (有) システム・レコ

〒813-6591

福岡市東区多の津1丁目14番1号